

# 文化庁委託事業報告書

---

危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る  
取組等の実態に関する調査研究事業  
(奄美方言・宮古方言・与那国方言)

---

2013年3月

琉球大学  
国際沖縄研究所

## まえがき

奄美・琉球諸島で話されている地域の伝統的な言語・方言は、2009年2月に『ユネスコ世界危機言語地図』(UNESCO Atlas World's Languages in Danger)に消滅の危機に瀕した言語として記載された<sup>1</sup>。同地図では、この地域で話されている言葉は、「〇〇方言」ではなく、「〇〇言語」として登録されているが<sup>2</sup>、危機度は次の通りである<sup>3</sup>。

奄美語：「危険」

国頭語：「危険」

沖縄語：「危険」

宮古語：「危険」

八重山語：「重大な危険」

与那国語：「重大な危険」

同地図に付された説明によると、「危険」は「子ども達は、家庭において当該言語を母語として学ぶことはない。(筆者訳)」と定義され、「重大な危険」は「当該言語は祖父母かその上の世代に話されている。両親はその言語を理解するかも知れないが、その言語で子どもに話することはないし、親同士の会話でその言語を使うこともない。(筆者訳)」と定義されている。奄美・琉球諸島の言語(方言)は、「危険」または「重大な危険」とランク付けされているので、子ども達は地域の方言を母語として習得していないということになる。このため、保存・継承にむけた取組はこの実態を認識することから始めないといけないだろう。

琉球大学国際沖縄研究所では、危機言語研究プロジェクトチームが文化庁国語課の委託を受けて、危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組の実態について調査を行った。調査では委託され

---

<sup>1</sup> <http://www.unesco.org/culture/languages-atlas/index.php> を参照のこと。

<sup>2</sup> 琉球諸島及び奄美諸島で話されている地域のことばが言語なのか方言なのかについては諸説があり、統一された見解は出されていない。言語・方言の定義については国立国語研究所(2011年)『文化庁委託事業 危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書』に所収の木部暢子の論考「言語・方言の定義について」等を参照のこと。調査は、「奄美方言」「宮古方言」「与那国方言」として委託されたために、本報告書では、「〇〇方言」を用いる。しかし、執筆者の中には琉球諸島及び奄美諸島のことばは日本語と姉妹関係にある「言語」であると考えている者もいる。

<sup>3</sup> 2010年12月に開催された『国立国語研究所第3回国際学術フォーラム 日本の方言の多様性をまもるために』の報告書に所収の木部暢子の論考「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」では、『世界危機言語地図』に示された危機度を下記のように訳している。本稿も木部の訳を踏襲する。  
safe「安全」：vulnerable「脆弱」：definitely endangered「危険」：severely endangered「重大な危険」：critically endangered「極めて深刻」：extinct「消滅」

た奄美方言、宮古方言、与那国方言だけでなく、奄美・琉球諸島および八丈島で話されているその他の方言についても、保存・継承に係る取組の実態について調査した。

奄美・琉球諸島及び八丈島で話されている危機的な状況にある方言の保存・継承に係る取組等の実態については、アンケート調査、インタビュー調査、文献調査、及びインターネット調査を通して調べた。保育園・幼稚園については、当初の計画にはなかったが、取組を行っているという情報を得たので、宮古島市在の保育園で聞き取り調査を行い、那覇市立幼稚園を対象にアンケート調査及び聞き取り調査を行った。取組の実態については、主としてアンケート調査をもとに分析し、注目すべき取組を行っている場合には聞き取り調査を行った。しかしながら、聞き取り調査については、校務との調整が難しく、断念した調査もあった。また、アンケート調査及び聞き取り調査については、報告書に学校名等を記載しない条件で回答をお願いした。なお、注目される取組について、団体名・個人名が記されていることもあるが、名前を記すことについて承諾を得ている。

調査チームの実施体制は下記の通りである。

課 題 項 目	調査対象地域	業務担当責任者
教育委員会・公民館及び民間団体の取組とその課題の調査分析	与那国島、宮古群島、奄美群島、八重山群島（除与那国島）沖縄群島、八丈島	石原昌英
小中高校における取組とその課題の調査分析	与那国島、宮古群島、奄美群島、八重山群島（除与那国島）沖縄群島、八丈島	中本謙
辞書・教材等の調査分析	与那国島、宮古群島、奄美群島、八重山群島（除与那国島）沖縄群島、八丈島	狩俣繁久
マスコミ、インターネット等における取組とその課題の調査分析	与那国島、宮古群島、奄美群島、八重山群島（除与那国島）沖縄群島、八丈島	石原昌英
保育園・幼稚園における取組とその課題分析	沖縄県那覇市・宮古島市	石原昌英

危機言語の保存・継承にむけた取組には、どのような辞書・教材等が用いられているのか重要な要素になるので、その調査を行った。また、近年はインターネットの普及により、危機言語の保存・継承にむけた活動としてみなされるWEBページ等が見られるようになったので、これについても調査を行った。最終章として、言語・方言の保存・継承については、当事者が自らの言語に対してどのような意識を持っているのが鍵となるので、筆者が2010年から2011年にかけて実施した言語意識に関する調査の結果について記した。

危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る  
取組等の実態に関する調査研究事業（奄美方言・宮古方言・与那国方言）

目 次

学校における琉球方言の保存・継承に係る取り組みの実態・・・	中本 謙・大城貞俊・村上呂里	1
保育園・幼稚園における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	石原昌英	79
行政機関、NPO 法人、マスコミ等での取組・・・・・・・・・・・・・・・・	石原昌英	87
方言の継承普及に必要な教材と参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・	かりまたしげひさ	141
沖縄県における言語危機と言語意識：アンケート調査の結果から・・・・・・・・	石原昌英	153



# 学校における琉球方言の保存・継承に係る取り組みの実態

中本 謙 ・ 大城 貞俊 ・ 村上 呂里

# 学校における琉球方言の保存・継承に係る取り組みの実態

中本 謙・大城貞俊・村上呂里

## 1. はじめに

琉球方言は、明治期以降の方言札（小中学校で方言を使用した生徒に木札をぶら下げさせるという罰札）等を用いた標準語教育および共通語教育、交通、メディア等の発達により衰退の一途を辿っている。現在は、若い世代のほとんどが、琉球方言を継承していないという状況である。現に 2009 年にユネスコによっても危機的状況にある言語として認められている。

このような状況の中で、小学校、中学校、高等学校でどのような方言の保存・継承に係る取り組みがなされているかを明らかにすることが本調査研究の目的である。すでに 1 月には、小学校、中学校、高校等にどのような取組がなされているかを調査するためのアンケートが配られ、多くの回答が寄せられた。

今回の調査は、年度末の 1 月から 2 月という短い期間の中で行わなければならなかったため、主にアンケートの結果を参考にし、その中から方言の取り組みがなされている学校を 9 校選定し、臨地調査を行った。内訳は、奄美から小学校 1 校、中学校 2 校、沖縄から小学校 1 校、宮古から中学校 1 校、高校 1 校、八重山、与那国から小学校 3 校である。

以下、それぞれの学校で具体的にどのような方言の継承、保存に係る取り組みがなされているのかを、アンケートからは見えてこない課題や学校側の思い等も含めて報告する。

## 2. 奄美における学校の取り組み

### 2. 1 芦花部小中学校

調査日	2013 年 2 月 21 日
調査地点	あしはぶ 芦花部小中学校
調査協力者	森園太介（校長）、文澤竹弘（中学校社会科教諭）
調査者	中本謙

## 1. 方言劇

芦花部中学校では、総合的な学習の時間を利用して、2年に一回、全校生徒をあげて方言劇に取り組んでいる。2012年度は、11月22日の学習発表会で近隣の方も招いて方言劇を披露している。演題は、「太平洋の潮鳴り<sup>しゅなり</sup>」（資料1）である。内容的には、奄美の日本復帰を題材にしたものである。シナリオは、文澤竹弘先生が共通語で書かれた「太平洋の潮の音」（奄美地区人権・同和教育研究協議会作成のシナリオ集）をベースに方言の台詞に書き直したものである。内容も含め、5回も修正したとのことである。基本的に方言の台詞は、生徒たちに祖父母から調べさせたとのことである。

この11月の方言劇に向けて、生徒たちには、夏休みから方言に親しませるための課題が出されている。具体的には、方言による基本的な挨拶を祖父母の世代から調べるといふものや、方言の日記を祖父母の世代から習いながら書く等といった課題である（資料2参照）。

11月22日の方言劇は、芦花部の方も多く集まり、好評を博したとのことである。劇で話された方言の台詞は、名瀬出身の生徒が20名中15名と多いことから、主に名瀬方言が用いられている。芦花部の方言は、名瀬の方言と少し違いがあるが、芦花部の地域の方々は、特に気にされなかったようである。むしろ生徒たちが奄美の方言で台詞をいう姿をみて、感心しながら楽しんだという。

現在、方言劇は2年に1回行われているが、今回の「太平洋の潮鳴り<sup>しゅなり</sup>」が好評だったので、毎年やってほしいとの提案が周囲から出されているとのことである。特に来年は、奄美の日本復帰60周年なので、今回のような日本復帰を題材にした劇を是非やってほしいという意見が多いようだ。

文澤先生は、社会科の教諭であるが、生徒達に方言を通じて地元奄美の歴史や文化の理解を深めさせたいと考えている。教科横断的なすばらしい取り組みであるといえる。

## 2. 校内放送 他

週に1回から2回掃除の時間に校内放送で「イトゥー」という奄美の稲刈りの歌等を流しているとのことである。また、全校朝会で「ウガミショーラ（ン）」と生徒全員で朝の挨拶を毎回しているとのことであった。

## 課題・まとめ

芦花部中学校で方言指導をしている文澤先生は、方言を通じて高齢者との繋がりを深めさせたいと考えている。なぜなら高齢者は、奄美の文化、歴史をよく理解しており、高齢者との交流を通じて、それらを学ぶことができ、島に親しみが湧くからということであった。また、祖父母等と接する時間が多くなることにより、高齢者をいたわり、思いやる心が育まれるという。

高齢者は、方言が大好きだそうである。共通語は、勉強して習得した言語なので、方言

の方が使いやすく、思いも伝えやすいとのことである。これからも方言を用いて、高齢者と生徒たちのコミュニケーションの機会を増やしていきたいとのことである。

以上のように、生徒たちにもっと奄美の方言を知ってほしいという思いはあるようだが、教育課程の中に位置づけて授業で方言を扱う時間は持てないというのが現状らしい。

最近では、方言を使うことは「格好いい」という生徒が増えているようである。しかし、一方では、方言に興味を示さない生徒もいるので、このばらつきが現在の課題ということである。


(文責：中本謙)

## 資料 1

＜2012年度（平成24）芦花部小中学校 学習発表会＞  
 【中学生・劇 パンフレット】 2012. 11. 22（木）

奄美群島日本復帰のたたかい

～太平洋の潮鳴り～



～芦花部小中学校の古い校舎と子どもたち～

＜奄美史年表＞

900		1464		1609		1875		1888		1940		1946		1953	
奄美世 (アマユ)		按司世 (アジユ)		那覇世 (ナハンユ)		大和世 (ヤマトユ)		奄美財政分離		アメリカ世					
古代		中世		近世		近代		現代							
奈良 平安		鎌倉 室町		江戸		明治 大正		昭和							

【補足・解説】

- ①「アマユ」（奄美世）：海洋民族としてエネルギーを発揮し、ヤコウ貝などを中心に貿易行った。
- ②「アジユ」（按司世）：按司（アジ）とよばれる首長がまとめていたが大きな争いにはならなかった。
- ③「ナハンユ」（那覇世）：首里王朝の支配（145年間）だったが、緩やかな支配だった。
- ④「ヤマトユ」（大和世）：島津藩による植民地支配（266年間）。
  - （ア）島津藩の植民地支配
  - （イ）砂糖の専売制：大阪相場は砂糖1斤＝米1升のところを、島津藩は砂糖1斤＝米3合5勺（1升の約3分の1）で島民に強制し莫

- 1 -

2012, 11/20

《奄美群島日本復歸の闘い》 シナリオ

※ 4 幕のフィナーレを変更  
(ナレーター文簡略)

## 「太平洋の潮鳴り」

芦花部中学校 ( ) 年 名前 ( )

ナレーター（松浦悠紀） 幕（ ） スポットライト（清藤・山下） 照明／舞台（ ） 音響（ ）					
	セリフ	大道具	音響	照明	スライド
ナレーター	昭和20年（1945年）8月、広島・長崎に原子爆弾を落とされた日本は、8月15日、悲惨な結末を招いた「アジア・太平洋戦争」に降伏しました。そして、この奄美でも、戦争におびえなくてもよい生活ができると思われていました。しかし、半年後の昭和21年2月2日、アメリカ軍政府は北緯30度以南を本土から切り離し、「奄美群島を信託統治する」と宣言したのです。その日を境に、奄美の民衆は苦しい生活を強いられ、多くの人々が「ソテツがゆ」や「ナリがゆ」を食べ、アメリカ軍政府からの配給物資で生活をしていました。			（ス） ナレーター   消す	（スラ） 戦争→ 原爆→ 降伏
幕開ける					
	第一幕 配給所での住民生活			（舞） 点灯	
配給所職員	はい、一列に順序よく並んでくださいよ。 もうすぐ配給をはじめます。 今日の配給は、ジャガイモとニンジン、それにトツプルがあります。				
群衆 男1	うがしゅん、トツプルんきや配給すらじ、なりつくわ、ましなむんきや ねんむんかいやー。				
群衆 女1	ちゃあじゃが。トツプルベーリ、ニンジンベーリなていよ。				
群衆 男2	トツプルし、我慢せえちじややー。				
群衆 男3	ハーゲー、早くせえーちょー。いつまで待たすんよ。				
配給所職員	はいはい、もうすぐです。もうじきははじめますから。  （少し耳の遠い老人登場）	座る台			
老人	方言で） ネセ！ ネセ！ スマンバ、マツチックワ ムチュランナ？ 〔若いの 若いの すまんけど マッチ 持ってないかね〕 （マッチを借り老人キセルでたばこを吸うまねをして、おもちゃを使う） ※変更				
群衆 男4	あぶえー！（おもちゃにビックリする） ※変更  （群衆 男女は老人のようすをしばらく見ている）				
群衆 女2	爺さんの配給所はここじゃないよ。				
老人	（聞こえないので、そのままたばこを吸っている）				
群衆 女2	（肩をたたいて少し大きい声で） 爺さんの配給所はクマヤ アナンドー。				
老人	あけ、ヌガカイ？ 配給通帳は、ウレ もって来とるんばドー。				
群衆 男4	うじっくワ、ナンぬー 配給所はー アマ ダリョットー アマ！。 （別の方向を指さしながら）				

老人	アゲー、ガシナー。やっぱりダメか……。 (老人とぼとぼと引を返す)
配給所職員	えー、大変、長らくお待たせ致しました。ただ今から配給を始めます。一列に並んでください。  (群衆は配給をもらうために並ぶ→配給をもらい帰る)
泉 芳朗	(舞台上手より泉芳朗 登場。 しょんぼりとしている少女に話しかける) 配給はもらったね、今日の配給は何だったのかね。  (少女、うつむく)
泉 芳朗	どうして帰ってきた、きあ早く配給をもらわんと。  (少女 黙る)
泉 芳朗	あんた、お母さんは、どうしたの。 (少女はときれとぎれに泉に訴える。)
泉 芳朗	そうだったの、それで、病気のお母さんに代わってあんたが配給取りに来たのか。 感心だなあー。  (そこへ先ほどの群衆女1、女2が配給を受け取り帰ってくる)
群衆 女1	その子は、配給分のお金が足りないからと、帰されたのよ。
泉 芳朗	そうだったのか。おうちには誰もいないの？
少女	父ちゃんは 戦争で死んだ。 姉ちゃんは沖縄に行って、それきり手紙もこない。 家には病気の母ちゃんと二人だけ。
泉 芳朗	そうかい。それでお母さんの具合はどうなの？
少女	ゆうべから、寒気がして、布団かぶって寝ている。 頭が痛くて、熱があるって。
泉 芳朗	そうか、そりゃ困ったなあ。
群衆 女1	だれば、このトツツブル持って行きなさい。
群衆 女2	このニンジンも持って行きなさい。
群衆 女3	このアッタダイコンも持って行きなさい。
群衆 女1	アゲー！アッタドコネちば珍しい！。私も欲しいね。
群衆 女2	私にも1つください！
男4	ワンにもこのアッタドコネ、ティーチくれんね。 アッタドコネちば、ムール まさつとやー。
女1	ウガシ、ウガシ。
群衆 女3	ダメ、ダメ！ この女の子のお母さんに食べさせるのだから。
群衆 男4	(そーと、黙って取ろうとする)



群衆 女3	だめどー！				
群衆 男4	(残念がるしぐさ)				
泉 芳朗	(財布からお金を出して) 私は少しお金をあげるから、これでお母さんのために配給をもらっていきなさい。 そして、早く帰って、お母さんの看病をしてあげなさい。 (少女モジモジして金を受け取らない。 泉、少女に握らせてうなづく)				
少女	(涙ぐみながら) おじさん、ありがとう。 お婆さん、ありがとう！ (少女、うれしそうに振り返りながら走り去る)  (少女のうしろ姿を見送りながら泉がつぶやく) (女たちも、帰っていく)				
泉 芳朗	みじめだ、気の毒だ。 何とかせんといかんなあ。軍政府は、補給物資の食料を三倍に値上げすると言い始めた。 そうなったら、ますます苦しむ人が増えてくる。一日も早く日本に復帰しなければ・・・			(舞) 消す	
幕閉める					
ナレーター	昭和22年2月、軍政府は、物価統制方針を打ち出し、臨時政府に、その実施を令じたのです。住民生活はますます貧しく苦しくなってゆきました。  (教師A・B・C・D・Eが幕前に移動)  一方、教育の世界では、日本本土の新しい教育のあり方を求めて、昭和21年5月、「大島郡教育審議会」が作られ、奄美の子ども達に、本土と同じ環境で、教育をしようと、必死で努力する現場の先生方の姿が見られました。	(授業風景の準備) 8人舞台に／ 黑板		(ス) ナレーターへ  (ス) 消す	

＜語句説明＞

トッチブル (かぼちゃ)	ペーリ (ぼっかり)	アマ (向こう)
うがしゅん (そんな)	クマヤ アナンドー(ここじゃないよ)	ダリョット (〜だよ)
なりっくわ (もう少し)	ヌガカイ (何でかい)	ガシナー (そうね)
むんきや (物なんか)	ウレ (ほら)	だれば (だったら)
ねんむんかい (ないもんかね)	うじっクワ (爺さん)	ワン (私)
ちゃあじゃが (そうだよ)	ナンぬ (あなたの)	ティーチ (1つ)



## 資料 2

2012年度 奄美市立芦花部中学校 夏休みの社会科研究レポート（1・2・3年共通）

### <奄美のシマグチ（奄美語）について調べよう！>

奄美のシマグチは古くから伝わるものです。「奄美語」とも言われています。  
国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が、2009年2月19日、

「奄美語」は方言ではなく独立した言語と捉えた上で、その「奄美語」が消滅の危機にさらされている、

という調査結果を発表しました。ですから、この「奄美語」を残していくためには、まず私たちが「奄美語」について少しでも知ることが必要です。

そこで、長い夏休みを利用して、シマグチ（奄美語）について、高齢者の方に直接聞いて調べてください。

※必ず誰か高齢者の方に聞くこと。直接聞くことが大切です。どうしても無理なら図書室の本やインターネットで調べてもよいです。あくまでもそれは最後の手段です。

※村や町によって言い方は少しずつちがっているものもあります。

※一つの言葉に対して、2つ以上の言い方があるものもあります。その場合は、2～3つぐらい調べたものを書いてください。

※この夏に一番思い出に残った風景を描こう！

( ) 年 名前 ( )

中1

- ① あいさつ  
 おはようございます (スガマヤウガミショウ) こんにちは (ヒンマヤウガミショウ)  
 こんばんは (ヨネヤウガミショウ)  
 ありがとうございます (アリガサマリョート) ごめんなさい (スミジュンヤ)  
 ごめんください (人の家の玄関などで) (ヒンマヤウガミショウ)  
 いらっしゃい (ウガンモレ) おじゃしました (セフナショウタ)  
 いただきます (イタダキョーラ) 召し上がれ (ビョレ)  
 ごちそうさま (マツサロョータ) おいしい (コッサリョーリヤ)

- ② 数  
 一つ (イチツ) 二つ (ニツ) 三つ (ミツ)  
 四つ (ヨーツ) 五つ (イツ)  
 一人 (ヒト) 二人 (フタリ) 三人 (ミシャーリ)  
 四人 (ヨナリ) 五人 (イツタリ)

- ③ 時期  
 明日 (アシロ) 今日 (キョウ) 昨日 (キノ)  
 今 (イマ) 去年 (コノトシ) 今年 (コトシ) 来年 (キョントシ)

- ④ 感情表現  
 うれしい (ホラシヤヤ) 楽しい ( ) おもしろい (マツラシヤヤ)  
 はずかしい (ハスカシヤヤ) イライラする (オスコシヤ)

- ⑤ 人を指すことば  
 あなた (アン) 自分 (ジブン) あの人 (アンタ)  
 あなたたち (アンタチ) 自分たち (ワケアキヤ) あの人たち (アンタチヤ)

- ⑥ 家族や友人  
 ばあちゃん (ババ) じいちゃん (ジジ) 母親 (ボウカ) 父親 (フウシヤ) 兄弟 (ケイテイ)  
 弟 (ケイテイ) 男 (オウコ) 女 (メウメ) 男たち (オウコタチ) 女たち (メウメタチ)  
 親戚 (シンリキンヤ) 友達 (トモダチ)

- ⑦ 体の部分  
 頭 (カマダ) 目 (メ) 耳 (ミミ) 鼻 (ハナ)  
 腕 (ウデ) 手 (テ) 指 (サシ) ツメ (ツメ)  
 足 (アシ)

- ⑧ 動物  
 ネコ (ネコ) 犬 (イヌ) ネズミ (ネズミ)  
 山羊 (ヤギ) 豚 (ブタ) カエル (カエル)  
 魚 (イサナ) ハブ (ハブ) ケンムン (ケンムン)

⑭ 会話文をシマグチに言い換えよう！

(ア)	「毎日、機織りがんばっていますね。」 「ヒーピンノロウ キバクハリヤー。」
(イ)	「えー、私は細織りが大好きですよ。」 「ウシダリョットーノロウガスキダリョッター。」
(ウ)	「しばらく見ないうちにとても体が大きくなったね。」 「イッタクヤンタットトデューヌフーサナトリアー。」
(エ)	「あー、この料理はとてもおいしかったよ。」 「ハッケー クンリョウリヤー マースマスカッター。」
(オ)	「えー、そうね。ありがとうございます。」 「ウシダリウンナー、アリガッサマリョータ。」
(カ)	「あなたたちは、今からどこに行くのですか？」 「ナキャナマーラダーチーモーロヨー。」
(キ)	「私たちは、今から花火見物に行くところです。」 「ワシヤ、ハマーラハサビケンブラツツナイモンダリョッター。」
(ク)	「さあ、あなたも私たちといっしょに行きましょう！」 「ディー、ナホロカフキャタムマージンロディー。」

⑮ シマグチ日記を書こう！

ある日のできごとを1～2行ぐらいで、日本語で書き、それをシマグチで書きましょう。

(1週間に1つ程度)

7 月 22 日 (金)	日本語	今日はしゅうきょう式がありました。
	シマロ	キウヤチガツキヲウノオワリタットー。
7 月 23 日 (月)	日本語	今日は初めてのラジオ体操がありました。
	シマロ	キウヤハジムットノラジオタイソウアタツトー。
8 月 1 日 (火)	日本語	今日は出こし日がありました。
	シマロ	チュウヤガツコウツナイジュンヒョー。
8 月 11 日 (土)	日本語	今日は、トビウタダマがありました。
	シマロ	キウヤトウビユノマツリノウアタツトー。
8 月 31 日 (金)	日本語	今日で夏休みもおわりです。
	シマロ	キウシ、ナツヤスミオワソョータットー。

⑪ 日本復帰の歌を教えてください、メロディーを覚えよう！

1945年に日本が戦争に負け、その後8年間は奄美群島はアメリカ軍の支配下にありました。そして、今から約60年前の1953年12月25日に日本復帰を果たしました。その8年間、奄美の民衆は「日本復帰の歌」を作り、それを歌い広めながら日本復帰を実現していきました。

### 日本復帰の歌

作詞 久野 藤盛

作曲 静 忠義

1. 太平洋の潮の音は わが同胞の血の叫び  
平和と自由を慕いつつ 起てる民族二十万  
烈々祈る 大悲願
2. われらは日本民族の 誇りと歴史を高く持し  
信託統治反対の 大スローガンの旗の下  
断固と示す 鉄の意志
3. 目指す世界の大理想 民族自決独立の  
われらが使命つらぬきて 奄美の幸と繁栄を  
断乎と守らん 民の手に
4. 二十余万の一念は 諸島くまなく火と燃えて  
日本復帰貫徹の のろしとなりて天を焼く  
いざや団結 死闘せん

民族危機の秋ぞ今

⑫ <シマグチ（奄美語）>について調べた感想を書きましょう。4～5行程度で。

1つの言葉にもいろんな意味  
がある事を知りました。鳥口か  
ら色々な言馬合をすることが  
楽しかったです。



## 2. 2 龍北中学校

調査日	2013年2月21日
調査地点	龍北中学校
調査協力者	徳永虎三郎（校長）、萩原聖司（教頭）、佐多雄児（国語科教諭）
調査者	中本謙

### 1. 方言劇

龍北中学校では、1年に一回、島口（方言）によるオリジナル劇等を披露する「島ユムタ発表会」（資料1）を行っている。

本年度の発表会は、2013年7月3日に開催された。準備、練習等は、総合的な学習の時間を利用して一カ月以上かけて行われた。全校生徒33人は、8グループに分けられ、近隣の5集落（安木屋場、円、嘉渡、幾里、秋名）に方言の指導を受けに行っている。それぞれのグループは、共通語で創作した台本等を、その地域の島口に翻訳してもらい、台詞の細かな発音まで指導してもらったとのことである。集落によっては、生徒一人にお年寄りが4人がかりで教える場面もみられたという。このような地域の方の協力もあり、当日の発表は、保護者をはじめ地域の方もたくさん訪れ、好評を博したとのことである。発表会終了後には、方言指導にあたった地域方から、賞賛の言葉をいただいたという。しかし、まれにアクセントやイントネーションが、教えたのと違うというような指摘を受けることもあるようである。それだけ地域の方は、自らの島口にプライドをもって、一生懸命教えているということのようだ。龍北中学校から提供されたオリジナル創作劇の台本、「田中一村」を参照されたい（資料2）。

### 2. 島口日めくりカレンダー 他

島口の日めくりカレンダーを作成し、生徒が交代で毎日めくっている。内容は、奄美のことわざである（資料3）。カレンダーの他にも方言で書かれた教訓を学内に掲示している（資料4）。

体育大会では、島口バージョン（龍郷町バージョン）のラジオ体操が行われている。

### 課題・まとめ

指導にあたる先生方は、島口を通して郷土の大切さを伝えたいという思いを持たれているが、学校の教職員に島口を話せる人がいないので、その点が難しいところのようである。しかし結果として、それがたくさんの地域の方に方言指導をお願いするきっかけとなり、生徒と地域の方との交流が盛んに行われるようになったという。

今後、生徒たちとの交流を楽しみにしている地域の人々のためにも、島口を通して絆を強めていきたいとのことである。お年寄りも、かつて島口の使用を禁止されていたが、今は生徒たちが発表会で堂々と使っている姿が見られて嬉しいとのことである。

生徒も地域の方も島口の取り組みを楽しんでいるが、これ以上、時間をとるのは難しいようである。現状でも総合的な学習の時間で足りないところは、学活の時間をも使っているとのことである。生徒たちは、方言劇等で島口を習うが単なる暗記になってしまっているところがあるらしい。実際、習った方言を使うことはないようだ。より中身を深めるためには、どうすればよいか課題となっている。

(文責：中本謙)

資料 1

平成24年度 「荒波タイム」 島ユムタ計画			
1. 目的			
(1) 奄美の方言の良さを味わい、奄美の文化を語り継いでいく態度を育てる。			
(2) 郷土の文化に触れ、郷土を大切にしたい気持ちを育てる。			
2. 日程			
(1) 今後の計画			
①	5月24日(木)	[1時間]	活動計画、班分け、島ユムタの内容
②	5月31日(木)	[1時間]	原稿下書き
③	6月19日(火)	[2時間]	校外活動(各集落)
④	6月25日(月)	[1時間]	発表練習
⑤	6月27日(水)	[1時間]	発表練習
⑥	7月3日(火)	[2時間]	発表練習(1時間)発表会(1時間)
(2) 各時間の内容について			
日 時	活動内容	活 動 の 流 れ	場 所
5月24日(木)	活動計画 班分け 内容の話し合い	1. 活動計画について 2. 各班に分かれ、班長・班名を決める。 3. 島ユムタの内容について話し合い、題名を決める。	多目的ホール 教室
5月31日(木)	原稿下書き	1. 原稿の下書きをする。  ・原稿用紙3枚(3枚目の最後の行まで使う)。 ・テーマは「奄美の昔話」「地域に古くから伝わる伝統行事」など。 ・6月7日までに原稿を完成させる(班の担当者は確認する)。 ・6月11日に原稿を各集落の指導者に届ける(期日厳守)。	教室
6月19日(火)	校外活動 8:20～ 10:20 登校 10:25～ 10:45	1. 各集落で、集合時間に遅れないように、各会場に現地集合する。 2. あいさつをして、真剣に取り組む。 3. お礼を述べて、登校する。 ・班の担当者は、事故等には十分気を付ける(飲み物は水筒持参)。	各集落
6月25日(月)	発表練習	1. 活動の確認をする。 2. 各班で練習する(担当者は、練習を見届ける)。	多目的ホール 教室
6月27日(水)	発表練習	1. 活動の確認をする。 2. 各班で練習する(担当者は、練習を見届ける)。	多目的ホール 教室
7月3日(火)	発表練習 (4校時に設定。 11:45～12:10)	1. 活動の確認をする。 2. 各班で最終確認をする(担当者は、練習を見届ける)。	多目的ホール 教室
・1～3校時(10分繰り上げ) ・給食 12:10～ 12:40 ・休憩 12:40～ 13:25	発表会 13:25～ 14:50	1. 開会のあいさつ 2. 文化委員会のあいさつ 3. 審査について 4. 島ユムタ発表 5. 講評 6. 閉会のあいさつ ・全員で後片付け	多目的ホール

資料 2

タイトル：「田中一村」(仮)

	(美術館にて)
A	この絵すごくない？ くん、ゆうずや、きんさんあなんな。
B	いいねえ。 いっちゃんや
C	でも、こっちの絵も素敵じゃない？ うが(めんぼん、くんゆうずだが、きんさんあなんな。
A	それは写真だよ。 うれや、シャシンじゃがな。 ?! 。。。。
B	君は絵と写真の見分けもつけられないのかい？ いんや、ゆうずと、しんしん(いんさんま(やからん。
C	バカにするなよ。 ひんなぶ、んなよ。 だったら、この絵はどうだ。 うが(めんぼん、くんゆうずや、きんさん。
AB	おお〜すごいねえ。 げげー そうやうや。
A	でも、これって確か田中一村の絵じゃなかったっけ？ うが(めんぼん、うれやきんと田中一村め、ゆうずあなん？な。
C	へ〜。って、田中一村ってだれ？ うん、田中一村ちば(たるよ。
B	えっ?! 田中一村知らないの？ いんや 田中一村、しんしん(いんさんま。
C	確か・・・むかし奄美に来てたとか来てないとか聞いたことがあ た子が きんさん、きんさん、しんしんとか、くんたんとが、きんさんとかあてー るよ。
A	そうそう。もっと詳しく話をするとね・・・ うが(めんぼん、うれやきんと田中一村め、ゆうずあなん？な。



	(昔の場面)
一村	こんにちは、お花さん、今日もきれいだね。 うがみんはうらん、お花さん、きゆうだきようこりや。
D	あっ、またあの人がいる！今日もまた変なこと言ってる。 げずー、またあんなのうり、きゆうだか、かたくと、い(ゆり)。
E	「花に話す」ってダジャレじゃないんだから はなとはな(ゆて、めやくあなから
D	おーい！いっそ〜ん！ おい、いっそ〜ん。
E	花に話しかけたりして、何してるの？ 花ちはな(やりし、ゆーしよ、
一村	・・・。
D	おいっ！聞いてんの？ おいっってば！ おい、きゆん(な、あぶ(とんは)
E	もういいや、ほうっておこう！ な(い(あや、うごんに(や(げてくう
ナレーターA	田中一村は変わり者と言われていました。来る日も来る日も彼が話 田中一村(や(わりもんちや(とんち、い(びん、あ(が(は(店 しかけるのは花や動物ばかり。見ているものは海や山ばかりで、 (ゆんや、花と(て(だ(ふん(ぼり、に(ゆん(おん(や、うみと、(や(ま(ぼり) 人と話をすることはほとんどありませんでした。 ちゆとは(な(ゆん(くと(や、て(いつ(ん(にん(たん(ち、。
D	あっ、またあの人が！ あれ、またあんな(ゆん(や
D	また、昨日と同じことしてるね。 ぎ(と、きゆとに(ゆん(くと(ぼ(ゆり)
E	おいっ！何してるの？ これ、め(ば(ゆり(よ、
一村	・・・。
E	おいっ！聞いてるの？ (のぞき込む) こ(、き(ゆん(に(や、め(ず(た)
	おお！なんじゃこりや！ お、め(う(き(り(や
D	すごーい！写真みたい！ き(ゆう(ざり、(や(しん(に(し(ゆり) これあなたが描いたんですか？ くり(や、(さ(が(かし(やん、だ(り(おん(に(や

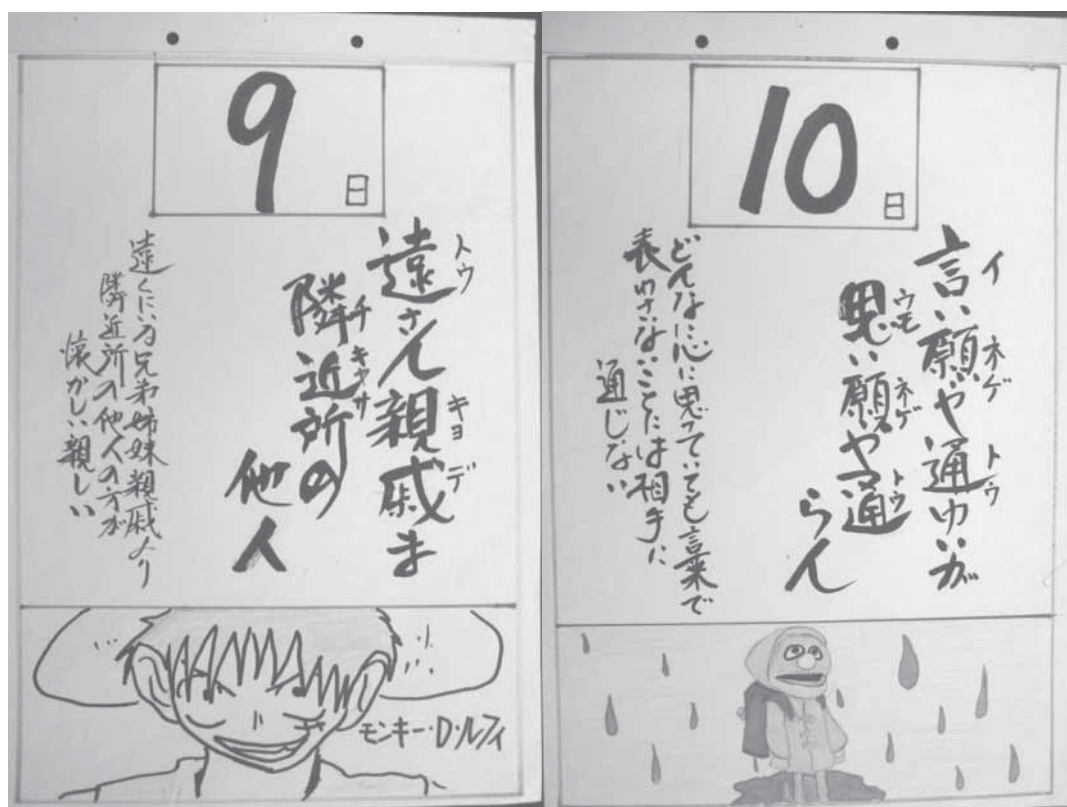
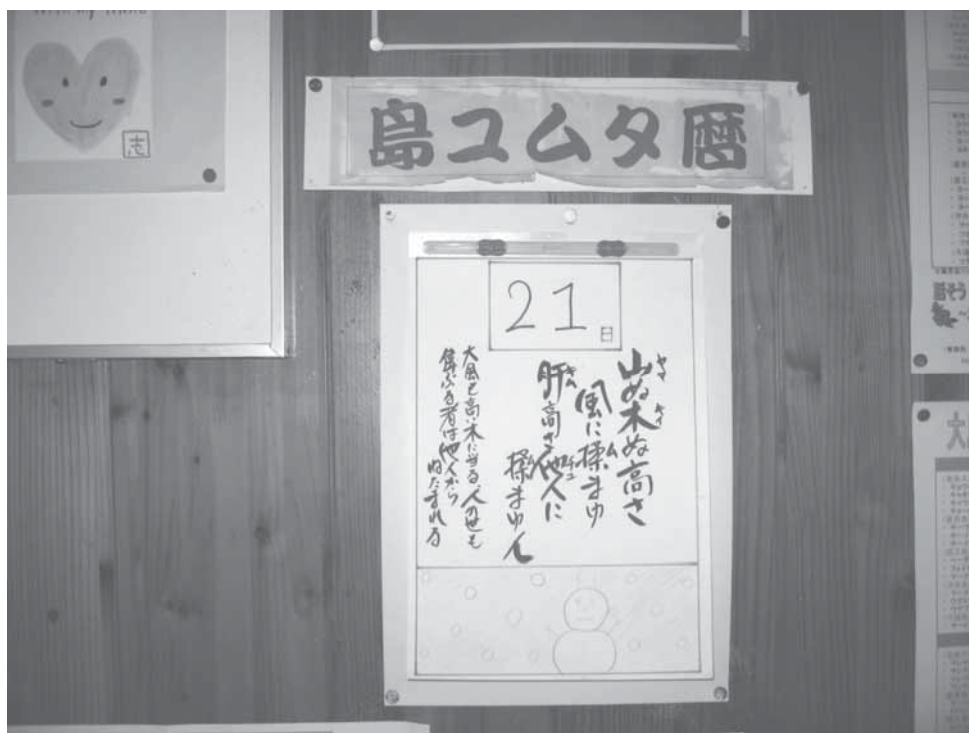
一村	<p>ああ〜、終わった〜！あ、ごめん。絵を描くのに必死で聞いてな  <small>なあ〜 おゆたっし あざい かんたん ゆうすけ せんめい せんめい</small>          かった。  <small>たっし</small></p>
E	<p>あなたは何をしていますか？  <small>いんやめー せんめい</small></p>
一村	<p>わたしは奄美の自然をテーマに絵を描いているんだよ。  <small>めんや しめい せんめい だいに ゆうすけ かんたん</small></p>
D	<p>へえ〜、すごいですね。ほかにどんな絵を描いているんですか？  <small>あざー そうめん ぶんや せんめい ゆうすけ かんたん</small>          みせてください。  <small>にしめい</small></p>
一村	<p>ほれっ。(渡す)  <small>うんー とれ</small>          わたしはこの奄美の自然が大好きなんだ。だからこの奄美の自然  <small>めんや かんたん せんめい せんめい すきー うんや かんたん せんめい</small></p>
一村	<p>を未来に残すために絵を描いているんだよ。  <small>せんめい かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small></p>
E	<p>へえ〜、でもただ田舎なだけじゃないですか？  <small>あざー かんたん かんたん かんたん かんたん</small>          生まれたときからこの景色見て育って来たから、あまりキレイっ  <small>かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small>          て感じたことないなあ。  <small>かんたん かんたん</small></p>
一村	<p>目を閉じて、耳を澄ましてみい。聞こえてくるじゃろ。鳥のさえ  <small>かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small>          ずり、風の音、波の音。これが奄美の自然の豊かさ、そのままを現  <small>かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small>          しておるんじゃ。  <small>かんたん</small></p>
DE	<p>本当だ！  <small>かんたん</small></p>
D	<p>うん。こうやって奄美の自然を感じたことってなかった。  <small>かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small></p>
一村	<p>わたしはこの奄美の自然がいつかはなくなってしまうんじゃない  <small>かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small>          かと心配しているんだ。  <small>かんたん</small></p>
E	<p>そんな奄美はこのまま変わらないよ〜。  <small>かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん かんたん</small></p>

D	<p>そうだよ。いままでこうやって自然が残ってるんだから、なくな うがしん ながしん ながしん しせんめ のことな になんか</p> <p>るはずないよ。 はずねんよ。</p>
一村	<p>本当にそうかな？今はそうかもしれんが、50年後の2012年に ほんと うがしん ながしん うがしん ながしん ながしん あとめ 2012 年</p> <p>はどうなっているか分かんぞ。 うがしん ながしん ながしん ながしん</p>
DE	<p>50年後？！ 50 年 後</p>
E	<p>やっぱりあなたは変わった人だ。 やっぱり ながしん ながしん ながしん ながしん</p>
(現代)	
A	<p>って、話だったみたいだよ。 うがしん ながしん ながしん</p> <p>で、今年がその2012年。田中一村が言ったとおり奄美の自然が うがしん ながしん 2012 年 ながしん ながしん ながしん ながしん</p> <p>なくなりはじめているよ。 うがしん ながしん ながしん</p>
C	<p>じゃあどうにかしないと。 うがしん ながしん ながしん ながしん</p>
B	<p>そのためにはまずは美浜はゴミ拾いから始めたらどうかな？ うがしん ながしん ながしん ながしん ながしん</p>
C	<p>それなら学校の行事で「リサーチきよら」っていうゴミを拾って うがしん ながしん ながしん ながしん ながしん</p> <p>調査するかつどうがあるよ。 うがしん ながしん ながしん</p>
A	<p>でも、やっぱりこれは僕たちだけじゃなくて多くの人の協力が必 うがしん ながしん ながしん ながしん ながしん ながしん ながしん ながしん</p> <p>要だね。 うがしん ながしん ながしん ながしん</p>
B	<p>そうだね。このことを多くの人に伝えられないかな。 うがしん ながしん ながしん ながしん ながしん ながしん</p> <p>う〜ん。 う〜ん</p>

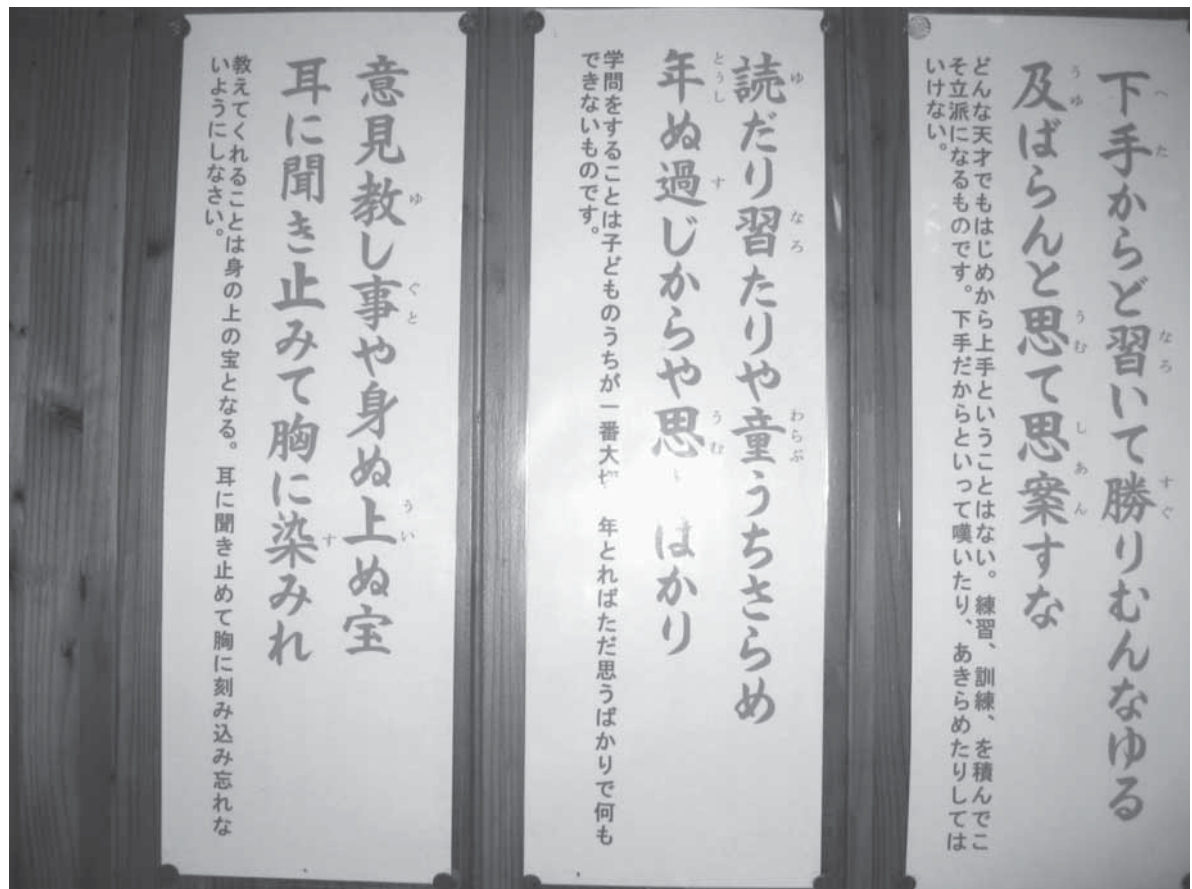




資料 3



資料 4



## 2. 3 与論町教育委員会・与論小学校

調査日	2013年2月12日、13日
調査地点	与論町教育委員会・与論小学校
調査協力者	田中国重（与論教育委員会教育長） 中園照洋（与論小学校校長） 久留理剛（与論小学校教頭）
調査者	村上呂里、大城貞俊、中本謙

### 1. 田中国重教育長を中心とした取り組み

与論島では、平成20年3月13日「ユンヌフトゥバの日に関する条例」が制定され、2月18日がユンヌフトゥバ（与論言葉）の日となった。これを受け、毎月18日をユンヌフトゥバ学習の日としている。

#### ①『与論のことわざカレンダー』

田中国重教育長が中心となり、『与論の子や孫に是非伝えたい（英訳付き）与論のことわざカレンダー』（与論町教育委員会・与論町PTA連絡協議会、平成23年9月1日）を作成した。ことわざにこめられた先人の精神・願いを伝えたいという強い思いからである。その原点には、「思<sup>ム</sup>イドゥ 運<sup>スサリ</sup>命、請<sup>フ</sup>ドゥ 幸<sup>ウブシ</sup>運」（思い願うことがその人の運命となり、願い願うことがその人の幸運につながる）ということわざを折節に語ってくれた祖父の姿がある。全家庭に配布されたとのことである。日めくりカレンダーを通して、日常的に与論の言葉に親しみ、先人の精神・願いを受けとめながら日々を送ることができるだろう。

資料1にあげたように、漢字とカタカナを組み合わせ、意味が伝わるように表記が工夫されている。表記の一つのモデルとなるようにという思いがこめられているという。国際化時代に対応できるように、英訳も附されている。多言語社会に対応する言葉の力を見通した作りとなっている。

#### ②「ユンヌ検定」

与論町教育委員会が「ユンヌ検定」を作成した。初級、中級、上級、ウルトラ級と難易度が設定され、与論の地理、自然・環境、歴史、民俗・文化・方言、教育・人物、産業・観光の各項目について問題を解く。昨年の夏休みに第1回、今年2月3日に第2回の検定が行われた。（資料2）この検定を通して、方言に関する知識が身につけられるように工夫されている。

#### ③与論カルタ競技大会

教育委員会主催ではないが、教育長も参加し、与論カルタ競技大会が第6回を迎えた。（資料3）







## 資料2 「ユンヌ検定」 中級

### 4. 民俗・文化・方言

- (1) 「チラ」という方言の意味は、どれでしょう。  
A. 頭                      ① 顔                      C. 首
- (2) 「フラジ」という方言の意味は、どれでしょう。  
④ A. 頭                      B. 顔                      C. 足
- (3) 「与論十五夜踊」の晩だけ許される「トゥンガモーキヤー」は、旧暦の何月何日でしょう。  
A. 5月15日                      ① B. 8月15日                      C. 10月15日
- (4) 「与論十五夜踊」で踊られる「アマタボーリ」には、どんな願いが込められているでしょう。  
④ A. 雨をください                      B. もちをください                      C. 水をください
- (5) 与論にいる動物で、国の天然記念物はどれでしょう。  
A. アマミノクロウサギ                      ① B. オカヤドカリ                      C. ルリカケス

### 5. 教育・人物

- (1) 与論町教育長を8年間お勤めになり、与論町民歌を作曲された益田元甫先生の説明で、誤りはどれでしょう。  
A. 氏は与論町古里出身で、生家は、古里一直線道路の東側にある。  
① B. 氏は那間尋常小学校6年を卒業した後、与論尋常高等科2年を卒業して、さらに上級学校に進学した。  
C. 18歳で、天城村立西阿木名小学校の代用教員になり、次々と検定試験に合格して、兼務や分校など合わせて、県下7高等学校の校長をされた。
- (2) あなたは、与論町民歌を覚えていますか。  
A. 知らない                      B. だいたい                      ① C. 全部覚えている
- (3) あなたは、与論町民憲章を覚えていますか  
A. 知らない                      B. だいたい                      ① C. 全部覚えている
- (4) 与論中学校ができたのは、どの時代でしょう。  
A. 明治時代                      B. 大正時代                      ① C. 昭和時代
- (5) 与論町では、中学校を卒業するまでに、自分の特技として、与論民謡・三味線・エイサー・太鼓・手踊・指笛のいくつかを身につけるようになっていきます。それは、いくつでしょう。  
A. 2つ以上                      ① B. 3つ以上                      C. 4つ以上

### 6. 産業・観光

- (1) 与論の人たちの仕事で、最も多いのはどれでしょう。  
A. お店                      B. 工場                      ① C. 農業
- (2) 与論町の農作物で、最も生産額が多いのはどれでしょう。  
A. さとうきび                      ① B. 牛                      C. さといも
- (3) 与論の漁業で、最も取れ高の多いのはどれでしょう。  
④ A. ソデイカ                      B. シビ・マグロ                      C. サワラ
- (4) イノー(内海)でつれない魚はどれでしょう。  
A. ニーバイ(ハタ)                      B. プクルビ(カワハギ)                      ① C. マグロ
- (5) 作家森瑤子の墓は、どの集落にあるでしょう。  
A. 東区                      ① B. 古里                      C. 那間



## 資料 3

### ◇ 第 6 回<sup>ユンヌ</sup>与論カルタ競技大会

開会式 午後 1 時 3 0 分～

#### 【式 次 第】

- 1 開 式 の 言 葉 (進行係)
- 2 開会のあいさつ (与論町子ども会育成連絡協議会長：大田英勝)
- 3 祝 辞 (与論町文化協会長 徳田 泰三)
- 4 ズッコケ大賞カップ返還 (昨年度下学年の部優勝 )  
( // 上学年の部優勝 )
- 5 競技上の注意 (与論カルタを創る会：清野和代)
- 6 閉 式 の 言 葉 (進行係)

閉会式 (競技終了後)

#### 【式 次 第】

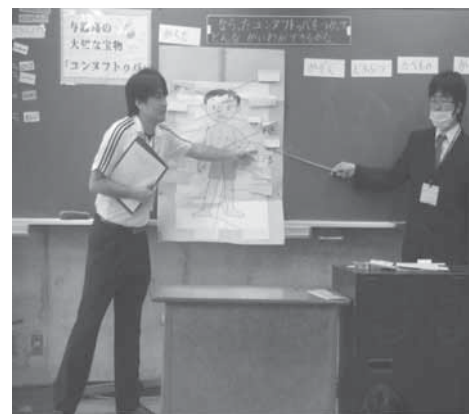
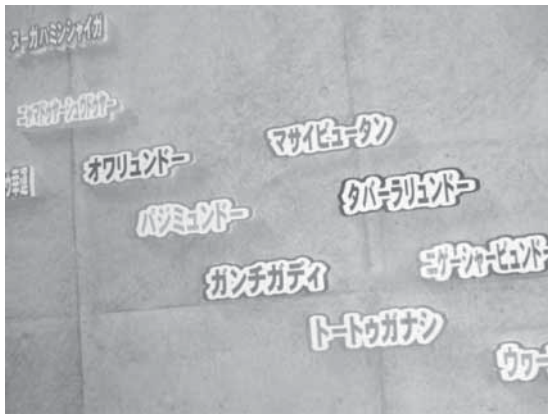
- 1 開 式 の 言 葉 (進行係)
- 2 成 績 発 表 (与論カルタを創る会：清野和代)
- 3 表 彰 (与論町子ども会育成連絡協議会長：大田英勝)
- 4 参 加 賞 授 与 (与論翔励会長：池田三千彦)
- 5 ユンヌ検定認定証及び副賞の授与 (与論翔励会長：池田三千彦)
- 6 講 評 (与論町教育委員会教育長：田中國重)
- 7 閉 式 の 言 葉 (進行係)

## 2. 与論小学校における取り組み

与論小学校では、毎月18日をユンヌフトゥバ学習の日と定めている。地域のゲストティーチャー菊 秀史氏を招き、「総合的な学習の時間」を使い、低学年・中学年・高学年と系統的に学習を行っている。菊氏の小学校時代の恩師である山元宗氏が、与論小学校で校長をしておられるとき（平成12～16年）に始まり、もう十年以上になる。カリキュラムに位置づけ、系統的に地域語学習を行っている点で先進的である。

### ①学校の言語環境

学校の至るところに「与論島の大切な宝物 ユンヌフトゥバ」という掲示がされ、保健室の前にはユンヌフトゥバで書かれたからだの図表が貼られるなど、学校全体として地域語継承を願う言語環境が整えられている。



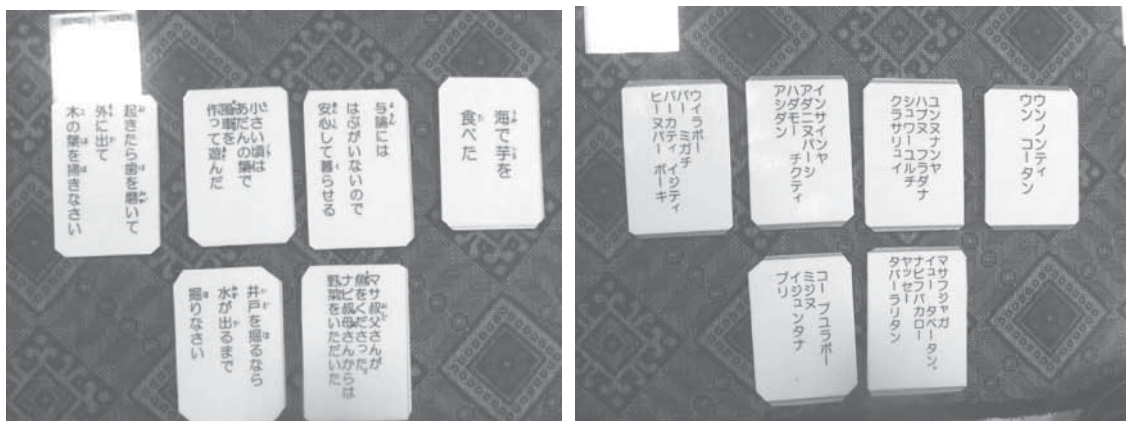
### ②パソコンを用いた教材開発

ユンヌフトゥバを継承しようとする際、課題となるのが話者が少ないということである。その課題に対応するために、久留理剛教頭が、パソコンを用い、共通語に対応したユンヌフトゥバの音声再生教材を開発した。クイズ形式で楽しくユンヌフトゥバを学習できるように工夫されている。



### ③地域の方から応募を募ったユンヌフトゥバカルタ

保護者をはじめ地域の方々に応募を募り、ユンヌフトゥバのカルタを与論小学校独自で作成し、カルタ大会を行っている。言葉遊びをかねた楽しいカルタである。



### ④菊 秀史をゲストティーチャーとする授業

担任の先生と菊 秀史氏による T・T で行われる授業は、ユンヌフトゥバによる挨拶で始まる。

低学年では、挨拶、自己紹介・家族紹介、身体部位や親族名称、食べ物、動物の名前などを学び、ごく簡単な会話ができるようにする。中学年では、形容詞や動詞なども学び、文章を書き、発表する。高学年では、場面を設定して会話出来るようにし、将来の夢をユンヌフトゥバで発表できるようにする。

資料として、低・中・高学年それぞれの学習指導案をあげる。

たとえば中学年では、形容詞の学習を行い、その中で「マサイ」と「マサン」の相違を取りあげておられた。「マサイ」は「おいしい」という意味であるが、食べている瞬間においしいと感じている主観的な状態を表す。一方「マサン」は、「〇〇はおいしい」というふうに「おいしい」という客観的な概念を表す。菊氏は、沖縄では「マーサン」として双方表すのに対し、ユンヌフトゥバではこうした繊細な相違を表現できるとし、ユンヌフトゥバが日本語研究において貴重な位置を占めることを説明された。比較言語学的な視点を持った授業であり、高度な思考力を育成するとともに、ユンヌフトゥバに対する誇りを育てる学習であるといえるだろう。こうした説明とともに、実際に活用できるように多様な場面を設定し、会話できるように指導されていた。



## 1・2年 ユンヌフトゥバ 共同指導案

平成25年2月13日(水)

活動場所: 1年教室

担 任	校 時	学 年
南・中野	3	1・2年

目標: 今まで習ったことを使って、ユンヌフトゥバでの会話を考えよう。

活 動 内 容	指導上の留意点	
	MT	AT
1 あいさつ アシスタントティチャーの菊さんとあいさつをする。 ・ 「イダウワーチタパーリ」 ・ 「ニゲーシャービュンドー」	・ 楽しい雰囲気ではめられるように明るくあいさつをする。	
2 前時までの復習をする。 ・ あいさつ ナーヤー・タバーラリュンドー・マサイ ビュータン・トートウガナシ・ガンチガ ディ・サーピタン ・ 自己紹介 ワナーヤ ○○ エービュン。 ワナー ○サイ エービュン。 ・ 家族 ウブ・パーパー・アチャ・アンマー・ ヤカ・アンニヤー・ウットゥビー ワー ヤーヌ キネーヤ、○○トゥ ○ ○・ヌ ユッタイ エービュン。 ・ 体の部位 パナ・ミン・ワタ・バギ・フラジ・ マイ・ティー・ミンタマ イダヌ ヤムイガ。○○ エービュン。 ・ 1～10までの数 ティーチ、ターチ、ミーチ、ユーチ、イチチ、ムーチ ナナチ、ヤーチ、クヌチ、トゥー フジャー、イッジャーゲラ。 ○○ タパーリ。 ・ 動物・食べ物 ・フリヤー スーゲーラ。・フリヤー ○○エービュン。 ・ヌーガ ハミンシャイガ。・○○ガ ハミンシャイ。 ・○○タパーリ。	・ 前時までの単語や絵を掲示し、手がかりにさせる。  ・ 恥ずかしがらずに言えるように、雰囲気づくりをしていく。大きな声を出している子、自分から発表している子を賞賛する。	・ 発音を聞き、おかしいところは直していく。
3 今日の学習のめあてを知る。 今まで習ったユンヌフトゥバでの会話を考えよう。	・ 会話は、複雑にならないよう注意をはらう。 ・ また、ユンヌフトゥバで言えない部分は、標準語でもいいとするなど、意欲が続くよう配慮する。	・ 練習がうまくいっていないところがあれば、声かけを行う。 ・ 各グループ、発音について直した方がよいところがあれば、伝える。
4 2, 3人のグループを作り、会話を考える。 ・ 標準語で質問して、ユンヌフトゥバで答える形を交互(相互)に行い、会話を増やす。		
5 時の予告をする。・・・会話の発表		

3, 4年ユンヌフトゥバ学習指導案

平成25年2月13日(水)

担任(岩下・丸岡)	校時(2校時)	学年(3・4年)
-----------	---------	----------

目標: 簡単な形容詞や、それを使った会話のしかたについて調べる。

活動内容	時間(分)	指導上の留意点	
		AT	MT
1 あいさつをする。 ○ 児童「きくさん イダ ウワーチタバーリ」 ○ 菊さん「サーピタン」 「勉強シニキチャンドー」	5	・ 実際にあいさつする。	・ 楽しい雰囲気始められるように明るくあいさつする。
2 今日の学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">様子を表す言葉を使って会話をしよう。</div>			
3 様子を表す言葉について知る。  ① 次の様子を表す言葉の基本形について知る。 ・ 美しい(チュラサイ)・汚い(ヤンカーサイ)・遅い(デウナサイ) ・ 苦い(インジャサイ)・甘い(ヌルベサイ)・固い(フバサイ)・軟らかい(ヤバラサイ) など  ② ～しかった, ～しくないなどの活用形について知る。  ③ ペアで, ①・②を使って, 簡単な会話を考える。 (例)・この〇〇は, 美しい。 ・あの〇〇は, 美しくない。  ・この〇〇は, あまい。 ・あの〇〇も, あまかった。	25	①・②について教える。  ※少しずつでも児童に考えさせながら教える。  ・ペアを回りながら, 質問に答える。	①・②について実際に言わせる。   ・質問に答えたり AT にたずねさせたりする。
4 本時のまとめをする。 ・ ③で考えた会話の内1つをペアで発表する。	15		
5 次時の予告を聞く。 ・ 動作を表す言葉も様子を表す言葉も使って, 簡単な会話をしよう。		・ 必要な場合は, 訂正を行う。	・ 曖昧な表現は, AT にたずね, 確認する。

## 5・6年ユンヌフトゥバ学習指導案

平成25年2月13日(水) 4校時

指導者 教諭 後藤・帖佐

AT 菊 秀史

1 題材名 夢を語ろう 1時間目/全2時間

2 目標

◎ 自分の夢について、ユンヌフトゥバでまとめる。

3 (1) 本時

過程	活動内容	時間	指導上の留意点	
			MT	AT
ふ れ る	1 あいさつ ○菊さん、及び指導者入室 ・サービタン 勉強 シニ キチャンドー ○児童 ・イダ ウワーチ タバリ ニゲーシャービュンドー	3分	○ 毎時間使うあいさつで講師の先生を迎えさせる。 ○ 他の方法があったら、教えてもらう。	○ あいさつをしながら入室する。
つ か む	2 夢の「発表会」について、知る。 ・1分間スピーチの形式で、自分の夢についてユンヌフトゥバで語る。	7分	○ 「発表会」について説明する。 ○ 漢語は、ユンヌフトゥバで表現するのが難しいものがあるので、和語を利用するとよいことを知らせる。 (例)・成長→大きくなって	○ ユンヌフトゥバの中には、表現が難しいので、あらかじめ注意することがあったら、注意しておく。
む か う	3 自分の夢についての原稿を作り、ATや友達にたずねるなどしながら、自分の力でユンヌフトゥバに直していく。 (例①) 「ぼくは、サッカー選手になりたい。」(ワナー サッカー選手 ナオチャサイ。) (例②) 「私は将来、ひとのためになる仕事をしたい。」(ワナー ウビクナリポー ビチュヌ タミナエル シグトゥ シーチャサイ。)	35分	○ まず、標準語での原稿そのものが、「発表」として、簡潔でかつ分かりやすいものになるよう助言する。	○ 質問に来た児童を指導する。

## 課題・まとめ

与論島での学校現場をめぐる取り組みは、①教育長がリーダーシップを取り、さまざまなアイディアを実践している点、②与論小学校におけるように、地域語継承を願って学校全体の言語環境が整えられ、地域語学習が年間を通して系統的に教育課程に位置づけられ

ている点、③話者の減少という課題に対して、パソコンで音声を再生し、ゲーム感覚で学ぶ IT 教材の開発を行っている点、などにおいて先進的であり、学ぶべき点が多い。こうした取り組みを通して、ユンヌフトゥバと地域への誇りが育まれているといえよう。

菊氏の授業は、比較言語学的視点を持ってなされており、「多言語社会を生きる言語学力とは何か」という問いに対する示唆に富むものであった。

「地域語学習と学力向上とは果たして両立しうるのか」という問いかけがある。軽々に答えられる問いでは決してないが、与論小学校では全国学力調査の結果は鹿児島県内でも上位を占めるという。与論小学校の取り組みからは、地域語学習が思考力や豊かな表現力を確かに育んでいることを感じた。

(文責：村上呂里)

### 3. 沖縄における学校の取り組み

#### 3. 1 伊江村教育委員会、伊江村立西小学校

調査日	2013年2月1日
調査地点	伊江村教育委員会
調査協力者	大城強（生涯学習振興課課長）、比嘉悟（指導主事）
調査者	大城貞俊

##### 1. 「イージマグチカルタ（伊江島口カルタ）」（CD付き）の作成・配布

平成24年度、イージマグチカルタを作成して、村内の小中学校へ配布、学習活動にご活用くださいと提供している。また、定価2000円で、一般村民へも販売し、喜ばれている。

##### 2. 「イージマグチ50音表」を作成中

平成25年度は、「イージマグチ50音表」を作成中で、近々に学校へ配布する予定である。（資料1参照）

※上記2点の作成については、生塩睦子（おしおむつこ）広島経済大学教授の尽力が大である。生塩睦子教授は43年間に及ぶ伊江島方言の研究調査で『伊江島方言辞典』（1999年）を著し、2003年には名誉村民章を授与されている。

##### 3. 学校への働きかけ

特になし。上記2点の活用は、学校の裁量に任せている。



#### 4. シマクトバの日の取り組み

特に委員会としての強い働きかけはしていない。

#### 5. その他の活動状況

##### (1) 「イージマグチラジオ体操」を作成、活用

「ウチナーグチラジオ体操」に倣って、西小学校の一保護者が作成し、学校で活用されている。

##### (2) 夕方、帰宅を促す放送（ 6 3 0 運動）

3年ほど前まで、村役場から夕方になると、拡声器から「自宅へ帰りましょう」というイージマグチでの呼びかけを行っていた。また、伊江島で作られた民謡などを流していた。現在は取りやめている。

##### (3) 西小学校附属幼稚園の活動が活発

西小学校の幼稚園に、伊江島出身の教諭が採用され、「イージマグチのカルタづくり」や、島の民謡を取り入れた活動など、活発に行われている。

##### (4) お年寄りとのふれあい給食

給食を、地域のお年寄りと一緒にという学校の取り組みがある。そこでイージマグチなどのやりとりがあり、微笑ましい。

調査日	2013 年 2 月 1 日
調査地点	伊江村立西小学校
調査協力者	古謝治（学校長）、仲宗根勝也（教頭）、比嘉悟（指導主事）
調査者	大城貞俊

下記の学校行事の中で、郷土の伝統的な言語文化等に親しませ、啓発し、「イージマグチ」継承の取り組みを行っている。

#### 1. 朝の読み聞かせの時間（週 1 回）での取り組み

##### (1) 「イージマグチカルタ（伊江島口カルタ）」の学習と遊び

教育委員会から配布されたカルタを活用してカルタ大会などを行っている。カルタ作成者を呼んで解説などをもお願いしている。

##### (2) 「紙芝居」の作成と読み聞かせ

「読み聞かせ」ボランティアの皆さんが、伊江島版「桃太郎」の紙芝居を作成して、読み聞かせを行っている。

## 2. 総合的な学習の時間に、地域の人々を講師に招いて学習

総合的な学習の時間で、伊江島の伝統的な文化とイージマグチの講師を招いて学習している（小学5年生）。

## 3. 「イージマグチラジオ体操」の活用

保護者の一人がつくってくれた「イージマグチラジオ体操」を、校内マラソン大会での準備体操等に活用している。

## 4. 学芸会での合唱、及び舞踊の披露

- (1) 今回の学芸会では島に伝わる民謡「砂持節」を全員で合唱予定。（資料2参照）
- (2) 島に伝わる舞踊を地域の保護者から習い、披露している。舞踊の歌詞などの意味も、指導者の皆さんが教えてくれ、イージマグチに慣れ親しむ機会になっている。

## 5. 運動会や学芸会でのアナウンス

司会、進行係が、イージマグチでの放送を取り入れている。

## 課題・まとめ

- (1) 伊江中学校をも訪問した。中学校2年生の国語の授業で、方言関連の単元で、「イージマグチカルタ」を活用して授業を行っているとのこと。
- (2) 教育課程に位置づけて、年間を通して継続的に取り組むことは困難とのこと。現場でイージマグチを使える教員がいないことや、学力向上対策等、喫緊の課題がある。
- (3) 伊江村の学校現場では、自然に素直に、イージマグチが学ばれているとの印象を受けた。
- (4) 委員会の比嘉悟先生（指導主事）に学校現場を案内をしてもらった。比嘉先生は、2007年から3年間、ポリビアのコロニアル沖縄、「ヌエバ・エスペランサ」学校へ、県からの派遣教師として赴任したとのこと。学校では3世の子どもたちが学習しているというが、「丘の一本松」の方言芝居を、字幕なしで理解し、笑う生徒たちに感激したという。自宅では両親や祖父母たちとウチナーグチを使っているとのこと。また、1世や2世は、方言の敬語指導が困難であるとの感想を述べておられたという。比嘉先生の体験を聞くことも含めて、有意義な聞き取り調査になった。

（文責：大城貞俊）

# 資料 1

ん  んしゆー 44	わ  わらび 45	ら  はらすい 46	や  やどろまぶや 47	ま  ましゆ 48	は  はーみ 49	な  なすいでい 50	た  たまたま 51	さ  さんしん 52	か  かざまーや 53	あ  あなでいか 54
いーしまぐち五十音表										
	り  ぐり 55		み  みしげ 56	ひ  ひやう 57	に  にじー 58	ち  ちぬー 59	し  しま 60	き  きびむん 61	い  いちゆでい 62	
	る  ろーはざまち 63	ゆ  ゆいぬばな 64	む  むむー 65	ふ  ふばがき 66	ぬ  ぬる 67	つ  つていん 68	す  すばー 69	く  くにぶ 70	う  うんじやーざ 71	
	れ  われがらふ 72		め  めーめ 73	へ  へいばり 74	ね  ねー 75	て  てーて 76	せ  せー 77	け  けーけいん 78	え  えーじゆんちや 79	
を  をー 80	ろ  ろー 81	よ  よーね 82	も  もー 83	ほ  ほーゆん 84	の  のほじー 85	と  とーぶ 86	そ  そーき 87	こ  こーしや 88	お  おーい 89	

## 資料 2

### 砂持節（工工四より）

〔大意〕

- 一 阿良の浜砂やヨ  
持てば禁止らりてい  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー  
たんで西泊 ハイヨ  
持たちたばり  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー

阿良の浜砂は  
持ち出そうとしたら禁止されてしまった  
  
どうか西泊の番人さんよ  
畑に運ぶのを許してください。

- 二 原やぼんた原ヨ  
道やくびり道  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー  
思ゆらば里前ハイヨ  
とうめていもり  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー

畑はパンタ原で（又は、はんた原）  
道は括れ道である  
  
私を思うなら愛しい人よ  
訪ねていらっしゃい。

- 三 原出て見ればヨ  
うく豆ぬかばしゃ  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー  
しまぬみやらびのハイヨ  
匂のかばしゃ  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー

畑にでて見たら  
籐豆の香りがただよっている  
  
島の若い娘（たち）の  
匂いも香ばしい。

- 四 真謝<sup>まゐ</sup>原<sup>はら</sup>ぬ甘藷<sup>かんじょ</sup>やヨ  
一本<sup>いっぽん</sup>から三<sup>さん</sup>策<sup>さく</sup>  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー  
赤嶺<sup>あかみね</sup>の小堀<sup>こぼり</sup> ハイヨ  
洗い所<sup>あらいどころ</sup>  
ゼイサ ゼイサ ゼイサー

真謝の畑の甘藷は  
一株<sup>いっしゅ</sup>から三つのカゴのいっぱい<sup>いっぱい</sup>とれるよ  
  
赤嶺のため池は  
とれた甘藷を洗う所である。

### ※ 別の歌

原<sup>はら</sup>やはんた<sup>はんた</sup>原<sup>はら</sup> 道<sup>みち</sup>やくびれ<sup>やくびれ</sup>道<sup>みち</sup>  
思<sup>おも</sup>ゆらば里<sup>さと</sup>前<sup>まへ</sup> とまいていまうれ

（大意）耕す畑ははんた畑であり、通る道はくびれ道でありますので、

私を心から思って下さるならば、どうぞそのお積もりで探してお出下さい。

（阿波根朝松著『集成 琉歌新釈』沖縄タイムス社）

## 3. 2 那覇市学校教育課

日時	2013 年 1 月 9 日
調査地点	那覇市
調査協力者	徳門敦子（那覇市教育委員会指導主事）
調査場所	那覇市役所
調査者	村上呂里、大城貞俊、中本謙

### 1. 島くとうば普及小冊子

#### 冊子制作のきっかけ

那覇市長翁長雄志氏のウチナーグチ継承への強い思いが原動力となっており、その背景には、次の出来事がある。

- ・世界のウチナーンチュ大会で、海外から来たウチナーンチュが故郷・沖縄でウチナーグチが通じないという話をされているのに、ショックを受けたこと。
- ・人間国宝照喜名朝一さんが、「私の人間国宝としての価値は、ウチナーグチの上に成り立っている」という話に感銘を受けたこと。

以上のきっかけにより、市長としてウチナーグチ継承に取り組もうという思いに至った（資料 1. 「4 月の市長メッセージ」 参照）。

#### メンバー・スケジュール

学校教育課のメンバーで「島くとうば普及小冊子制作委員会」を立ち上げ、平成 25 年 4 月に配布できるように、現在取り組んでいる。教本とはしないため、特に言語学、教育学等の専門家は構成員には入っていない（資料 2. 「第一回島くとうば普及小冊子制作委員会」 参照）。

#### 配布対象

那覇市内の全小・中学校全児童生徒に配布予定。

#### ねらい・内容等

冊子は、あえて教本にはしない。なぜなら、教本にすると、そこに掲載された地域の島くとうばのみが規範となってしまう恐れがあるからである。

子どもたちにあくまで島くとうばに興味関心を持ってもらうきっかけとなり、親しんでもらうことを目標としている。

学校のカリキュラムに位置づけ、冊子を活用してもらうことは考えていない。学校にお



いては、日常の挨拶等、生活科や総合的な学習の時間、教科「国語」の教材との関連学習等を想定している。家庭や地域の人とともに読み、自由に活用してもらえればよいと考えている。

### 制作する上での難しさ

集落差の激しい琉球方言は、那覇市内でも各地域毎に言葉は微妙に異なる。冊子に掲載した言葉が「正しい方言」となっては困るとの意見が多い。そのため、「あなたのおじいちゃん、おばあちゃんは何と表現するか、聞いてみよう」など、それぞれに異なる言葉にひらかれた作りになるよう、工夫している。

批判もある。たとえば、「正しく話せない人が、教えられるのですか」「バラエティ番組などで話されるウチナーグチは、ウチナーンチュから見ておかしいものがたくさんある。そういうことにならないか。ちゃんとした言葉を教えられないなら、いっそのこと全く教えない方がよいのではないか」というような批判である。

## 2. その他の取り組み

- ①ウチナーグチラジオ体操のCDを那覇市内の全小学校に配布した。
- ②たとえば首里地区の島くとうばお話大会には、首里地区の全小学校から出場する。
- ③校長会で、翁長市長より挨拶の「ハイサイだけでもいいから日常的に使いましょう」との話があった。
- ④方言クラブのある小学校がいくつかあり、地域の熱心な講師の方によって支えられている。小学生による方言コントを演じているところもあり、好評を博している。
- ⑤壺屋小学校では、組踊を学んでいる。
- ⑥「平成24年度 公立小学校における『しまくとうば』に関する取組状況調査」（資料3参照）。

## 資料 1

4月の市長メッセージ

沖縄らしい優しい社会とハイサイ運動

ハイサイ グスーヨー チューウガナビラ

朝早くからご来庁の市民の皆様、そして職員の皆さん、おはようございます。平成24年度の年度初めにあたり、ご挨拶を申し上げます。

冒頭、ウチナーグチでご挨拶いたしましたが、本日から「ハイサイ・ハイトイ運動」がスタートします。

去る3月28日にハイサイ運動のキックオフ宣言を行いました。ウチナーグチは、私たちの祖先から受け継いだ大切な文化であることは、市民の皆さまの誰もが納得しているところだと思います。ですが残念ながら、日々の生活の中でウチナーグチを耳にする機会がめっきり少なくなりました。市役所の中では、特にそう感じます。

人間国宝の照喜名朝一さんが、「私の人間国宝としての価値は、ウチナーグチの上に成り立っている」と言われたように、沖縄の歌三線、組踊やエイサーなどの大切な文化は、ウチナーグチなくしては成り立ちません。

平成24年度から始まる「沖縄21世紀ビジョン」では、その施策の機軸となる考えのひとつとして、「沖縄らしい優しい社会の構築」が掲げられています。それは沖縄の文化に根ざした地域づくりを行うことであり、私は、そのキーワードは、ウチナーグチの継承だと思っています。

ウチナーグチでは「こんにちは」を、男性は「ハイサイ」、女性は「ハイトイ」と言いますが、市役所の窓口で、その一言のウチナーグチの挨拶の実施に取り組んで行きたいと考えています。本日から始まる、ハイサイ運動に、職員の皆さんのご協力と市民の皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

また、今年度は那覇市にとりまして様々な市民サービスの向上が期待できる年です。12月には、人と環境に優しく、安心・安全な防災の拠点として機能し、市民に開かれた協働によるまちづくりに寄与する待望の新庁舎が竣工する予定です。銘刃庁舎、教育委員会庁舎が一つになった総合庁舎として、1月には供用が開始予定であり、市政の歴史に新たな1ページが記されます。

現在、本市の中心市街地のシンボルである国際通りには、東の拠点として昨年オープンした「さいおんスクエア」がありますが、西の拠点であるパレット久茂地を含めた久茂地地域に、再び行政機能が集約された新庁舎が戻ってくことで、人の流れが生まれ、賑わいが創出されることを期待しているところです。

さらに、今年度は、平成25年4月の中核市への移行に向けた正念場の年です。保健所の設置の他、福祉、都市計画、環境など、市民に身近なサービスを自らの力で進めるための大きな一歩に繋がるのが中核市への移行です。

職員の皆さんには、県からの権限委譲に伴い、様々な業務への対応に迫られる1年となりますが、私は「市民のために」と頑張る職員の力を信じており、スムーズな移行に

向けて、市を挙げて取り組みたいと決意を新たにしているところです。

来年の4月には、那覇市が、都市としての新たなステージとなる中核市として新たな一歩を踏み出すことを市民の皆様や職員の皆さんとともに心から期待したいと思います。

それ以外にも、今年度は、東日本大震災を機に決意した津波避難ビルの建設事業に着手する予定であり、渡嘉敷、座間味、粟国、渡名喜の4離島村との共存共栄にも繋がる、4離島村との連携事業も立ち上げます。その他様々な事業があり、一つ一つを取り上げることはできませんが、今年度も本市は、市民の皆さまが「いい暮らしより 楽しい暮らしを」という言葉を実感できる「協働によるまちづくり」をひたむきに目指していきたいと思っています。

さて、平成24年度は、沖縄県にとっても復帰40周年という節目の年です。

私は東京での大学時代に復帰を向かえましたが、この40年の移り変わりには、目を見張る思いがします。

これも、4次40年にわたる沖縄振興策によるものですが、道路、学校などのインフラは整備され、街並みが激変しました。また若い世代は、音楽やスポーツなど幅広い分野で活躍しており、「アメリカ世」を経験した私たち世代のように、本土に気後れすることはありません。

今思うに、復帰からの今日までの40年間という歳月は、若い世代には物怖じしない心を育て、気後れしていた世代には「ウチナンチュ」としての誇りを取り戻すために必要な時間だったという気がします。

「郷に入れば郷に従え」「住めば都」ではありませんが、私は、他府県から来た皆さまを含め、沖縄に住む人は皆「ウチナンチュ」だと思っています。「ハイサイ運動」は、ごく小さな取り組みですが、それでも心豊かに、楽しい暮らしを過ごすために大きな可能性を秘めていると思っていますので、あらためて皆さまのご協力をお願いいたします。

那覇市の発展と市民の幸せを第一に考え、駆け抜けてきた3期目の最終年にあたる今年度の冒頭にあたり、ウチナーグチで言う「一人 助き助き」による協働によるまちづくりにひたむきに取り組むことをあらためてお誓い申し上げ、年度はじめの市長メッセージといたします

平成24年4月2日  
那覇市長 翁長 雄志



## 資料 2



### 第一回島くとうば普及小冊子制作委員会



- ◆「島くとうば」をどのように捉えているか
  - ・基本的に那覇市の下級士族（平民）の言葉：日常生活の言葉
  - ・「りゅうPON」でも同様の言葉を使用している
- ◆この冊子作成の趣旨
  - ・方言の入門
  - ・「教本」ではなく、「読本」である
  - ・那覇市内の小中学生に配布するものなので小中学生の日常に使えるものにする
  - ・小学校1年生～中学校3年生まで使用できるもの
  - ・学校だけでなく、家庭でも活用してほしい

＊この本のつかいかた＊

- ◆日常生活の場面で使われる方言を用いる

- ◆場面ごとにイラストに表す

〔場面例〕

- ・朝～晩までの生活で使うもの
- ・学校生活の場面で使うもの
- ・それぞれの場面に出てくる道具（料理で使う物・食べ物・学習用具など）
- ・四季（春・夏・秋・冬）生き物や自然など
- ・冠婚葬祭
- ・行事（子どもに関係する物）そのときの会話や風習など
- ・遊び（手遊び・歌）
- ・琉歌
- ・風習

＊はじめに＊

ハイサイ！ちゅう うがなびら

みなさんが住んでいる沖縄県は、すばらしい自然と文化がたくさんあります。私たちの祖先は、言葉で文化を伝え、育んできました。沖縄県では、9月18日を「島くとうばの日」と決めて、その日を中心に島くとうばをみんなに広めるよう、呼びかけています。那覇市でも、「ハイサイ運動」をして島くとうばをみんなに広めています。小学生や中学生のみなさんも島くとうばに興味を持ってもらいたいという願いを込めてこの本を作りました。この本に出てくる島くとうばは、那覇の平民が使っていた言葉を中心に集めました。この本をきっかけにして島くとうばをもっと勉強してくださいね。

＊この本のつかいかた＊

この本は、那覇市の小中学生のみなさんが、島くとうばに興味を持ってもらいたくて作りました。1日の生活、学校、季節、行事などで使う島くとうばをイラストを入れながら楽しく学べるようにしています。最初から読んでも、好きな場面から読んでもいいように作っています。学校だけではなく、お家の人と一緒に読んだり、島くとうばでお話してみてもいいですね。自分で調べるページもあるので自分が興味を持った言葉を調べて書くのもっと楽しくなりますよ。言葉といっしょに沖縄の文化の良さも感じてくださいね。

(様式1)  
平成24年度 公立小学校における「しまくとぅば」に関する取組状況調査

番号	1. 学校名	3. 取組み				実施あり	実施なし	その他	備考
		1	2	3	4				
	〇〇小学校								
12	安 謝 小	1	1						・国語「いろいろな言葉」(小5)・運動会「うちなーぐちラジオ体操」・うちなーぐちクラブ(外部講師)・成果発表として「浦添市語やびやしまくとぅば大会」で発表
13	城 東 小	1	1						・国語「方言と共通語」(小5)で方言クイズ
14	城 北 小	1	1						・運動会「うちなーぐちラジオ体操」・首里振興会主催「方言お話し大会」に4年生代表児童出場
15	城 西 小	1	1						・給食のあいさつ「くわわっちーざびら」・学芸会で方言劇(1年)・方言クラブ(4～6年)・首里振興会主催「方言お話し大会」出場(4年生4人)
16	城 南 小	1	1						・クラブ活動(地域ボランティア講師)首里振興会主催「方言お話し大会」出場・朝の会や帰りの会で「ハイサイ」ハハタイのあいさつや簡単な方言を話題
17	真 嘉 比 小	1	1						特になし
18	泊 小	1	1	1	1				・給食のあいさつをしまくとぅばで行った・生活科「むかしあそびをしよう」で地域のお年寄りと方言を交えて交流・学芸会の劇(2年)・「平和集会」で方言の台詞(6年)・なほ市民協働大学主催「うちなーぐちで童話大会」に参加
19	大 道 小	1	1						特になし
20	松 川 小	1	1		1				・音楽「沖縄の方言の音楽に親しもう」(2年)・国語「短歌」の学習で「琉歌」に触れる(4年)・国語「方言と共通語」(5年)・道徳「ことわざ・格言」で沖縄の「黄金言葉」を紹介(4年)・全校朝会で「じんじん」を歌った・学芸会の劇で方言の台詞
21	識 名 小	1	1						特になし
22	薺 屋 小	1	1						・運動会「うちなーぐちラジオ体操」
23	若 狭 小	1	1						特になし
24	前 島 小	1	1						特になし
25	久 茂 地 小	1	1						特になし
26	神 原 小	1	1		1				・方言と共通語(国語の授業4・5年生)・学芸会のあいさつ・校内お話し大会で方言の台詞
27	真 和 志 小	1	1						・音楽「郷土の音楽」で「谷本節」(4年)・国語「かぞえましよう」で方言の教える方を紹介(1年)・放課後子ども教室で三編教室
28	与 儀 小	1	1						・総合的な学習の時間にお年寄りと交流し、沖縄民謡や方言に触れる(3年)・国語「方言と共通語」でしまくとぅばに触れる(5年)・学習発表会あいさつを一部方言で行う(1年)・劇の台詞で方言を使う(6年)
29	城 岳 小	1	1		1				特になし
30	天 妃 小	1	1						・国語「地域の言葉・時代の言葉」の単元の中で家の人が使っている方言調べ(6年)・国語「かぞえましよう」で方言の教える方を紹介(1年)
31	開 南 小	1	1						・国語「昔遊び」で方言を使った遊びをお年寄りに聞く(4年)・国語「方言と共通語」(小5)・学芸会方言を使った劇(6年)
32	垣 花 小	1	1						特になし
33	小 禄 小	1	1						特になし
34	高 良 小	1	1		1				・学芸会のあいさつ(1年)・劇のナレーションの一部(4年)・劇の台詞の一部(6年)・運動会のラジオ体操(ウチナーグチバージョン)
35	宇 栄 原 小	1	1						・運動会のラジオ体操(ウチナーグチバージョン)・職員室の出入りに「ハイサイ」「ハハタイ」を掲示
36	松 島 小	1	1						特になし
37	古 蔵 小	1	1						・国語「方言と共通語」(5年)
38	大 名 小	1	1						・首里振興会主催「方言お話し大会」に参加
39	上 間 小	1	1						・学芸会の劇で方言の台詞・お昼の放送でしまくとぅばの紹介
40	石 嶺 小	1	1						・首里振興会主催「方言お話し大会」に参加
41	仲 井 真 小	1	1						・三線クラブ
42	金 城 小	1	1		1				・国語「方言と共通語」(5年)・学芸会の劇で方言の台詞(6年)
43	曙 小	1	1						・国語「方言と共通語」(5年)・学芸会の劇で方言の台詞(6年)・PTA主催の「校内童話お話し大会」で方言のお話し(3年)
44	小 禄 南 小	1	1						特になし
45	真 地 小	1	1						・うちなーぐちクラブ「校内童話お話し大会」のアトラクションで「うちなーぐちコント」(4年)
46	さ つ き 小	1	1		1				・国語「方言と共通語」(5年)
47	銘 近 小	1	1						特になし
48	天 久 小	1	1						・検討中
		29	19	11	3	6			



### 3. 3 沖縄県教育庁

日時	2013 年 1 月 9 日
調査地点	那覇市
調査協力者	沖縄県教育庁 與那嶺律子（指導主事）、田名祐治（指導主事）
調査場所	沖縄県庁
調査者	村上呂里、大城貞俊、中本謙

地域語継承を学校教育現場でも取り組んでいきたいという思いは共通している。ただし、つぎのような課題や論点がある。

#### ○目標をどこに置くのか

琉歌や『おもろさうし』など、「文学」あるいは「伝統的な言語文化」として学んでいくのか、それとも日常的にも地域語を話せる話者を育成していくのか。

前者については、高等学校では副読本（『高校生のための郷土の文学 古典編』等）を制作するなど一定の蓄積がある。

後者については、つぎのような困難や課題がある。

①指導者の問題。地元ではない教師もいる。また世代的に地域語をすでに継承できていない教師も多い。

→対策としては、地域コーディネーターをゲストティーチャーとして活用する。

これについては、予算計上を申し出ている段階であるが、実現するか、わからない。

②「親しむ」という次元ではいけないのか。「話者」育成となると、新たに「琉球共通語」を設定しなければならなくなり、それぞれの地域語の多様性や誇りをかえって損なうことにならないか。

→アイデンティティを保持するという意味でも、親しむ程度から始めても良いのではないか。自らの言語がどのような言語なのかを知ることでもある必要ではないだろうか。

琉球方言は、集落差の激しいバラエティに富んだ言語ではあるが、大きく奄美、沖縄、宮古、八重山、与那国にわけることができる。まずは、それぞれの中心地を代表に作成しそれぞれの地域で近隣方言と比較させてみてはどうか。

③学力向上や受験対策への取り組みが最優先される中で、いかに地域語継承を位置づけていけるのか。

→根本的には、「学力」をどうとらえるのかという課題がある。地域語を話す力は、今日の教育界では「学力」として評価されない。

→入試等でも沖縄の言語文化に関わる出題を位置づけるなど、小中高大と連携して、沖縄の言語文化に関する学習を位置づけていく工夫が求められる。

（文責：村上呂里・中本謙）

## 4. 宮古における学校の取り組み

### 4. 1 下地中学校

調査日	2013年2月18日
調査地点	宮古島市立下地中学校
調査協力者	宮國勝也（校長）、謝敷勝美（国語科教諭）
調査者	中本謙、大城貞俊、村上呂里、

下地中学校では、国語科の謝敷勝美先生を中心に方言の取り組みがなされている。ここでは、これまでに謝敷先生が行った3つの取り組みを中心に報告する。

#### 1. 佐良浜方言の授業

前任校の佐良浜中学校で佐良浜方言の授業を行っている（資料1）。きっかけは、2年生の国語教材「方言と共通語」（光村図書）で、方言の簡単な特徴と定義だけしか扱われていないことに疑問を持ったからだということである。しかもその教科書の方言分布図の中に宮古島が記されていなかったことに対する疑問もあるという。

まずは、佐良浜中学校の生徒の祖母と仲良くなったこともあり、佐良浜地区の方言を掘り下げようと思ったそうである。そして、幼いころに方言の敬語を間違えて使用し、祖父に叱られたことを思い出し、授業では佐良浜方言の敬語を取り上げたとのことである。授業では、佐良浜のお年寄りにさらに十二支の由来やサシバの話も方言でしてもらい、とても盛り上がったとのことである。

#### 2. 方言お話パフォーマンス大会の取組

下地地区では「方言お話パフォーマンス大会」が行われており、そこに生徒を出場させている。本年度は、第2回目で1月26日に行われた（資料2）。演題は、金子みすゞの「わたしと小鳥と鈴と」と「こだまでしょうか」である。仲良くなった生徒の祖母に方言の翻訳をお願いしたとのことである。その方は、与那覇地区出身であったため、与那覇方言で教わったとのことである。下地地区には与那覇、川満、洲鎌、嘉手苅、上地の5つの集落があり、それぞれ微妙にニュアンスが違ふとのことであるが、地域の方々は、その違いも楽しんでいるとのことである。

#### 3. 宮古方言人体語彙の授業

宮古方言の人体語彙の授業を行ったとのことである（資料3）。概略を示すと次のように

ある。

1 時間目には方言の定義を教え、宿題として「ン」から始まることばを家族や祖父母から集めさせ、方言に感心を持たせている。

2 時間目は、昭和 2 年生まれの方の方言のゲストティーチャー（元小学校教諭）を招いて授業を行っている。導入で下地勇の「ワイド」を流し、生徒達の雰囲気盛り上げることから始めている。その後、ゲストティーチャーに実際にある方言を発音してもらい、何と言ったかグループでディスカッションをさせている。例えば、ゲストティーチャーに「クサンミヌ コーカリヤー カキフィール」（腰がかゆいから搔いてくれの意）と発音してもらい、それを 4 人一組で考えさせ、グループ毎に配られているタブレットに書き込ませるというものである。発表させると、9 グループ中 3 グループはできていたとのことである。

次に人体語彙表に方言を書き込むという作業をさせているが、生徒だけでは方言がわからないので、授業参観に来ている保護者にも参加してもらったとのことである。保護者の地域によって多少の方言差があったようだが、地域による違いはそれぞれ尊重したとのことである。

この授業を受けて、生徒からは、多くの感想（資料 4）が寄せられている。以下にいくつか示す。

1. 今までは、「意味分からん」で終わっていたものが、これからは方言を話してみたいと思った。
2. キャンプで来ている野球選手に習った方言を教えることができた。

これらの感想は一部であるが、保護者の反応もとても良かったとのことである。

授業では、方言から古典や歴史に派生させて教えることも意識しているとのことである。また I.P.A（国際音声字母表記）も紹介し、英語と宮古方言の音声の類似点についても触れ、ネフスキー（ロシアの言語学者）の宮古方言資料も紹介したという。背景に高度な言語学の知識がみえてくる。

現在は、宮古方言と学校文法との比較（例えば形容詞等）を取り上げた教材研究も行っており、非常に知的好奇心がかき立てられる内容となっている。

## 課題・まとめ

謝敷先生は、地域の方から学ぶという大切さを学生時代に体験し、それを現在の授業に活かしているそうである。そして、方言の授業を通して、次のような思いを生徒たちに伝えたいという。それは、「生徒たちが 10 年後に、方言の方が伝えやすいという地域のお年寄りと関わった時、方言は分からないということがないように、今のうちから方言を聞こうとか、知りたいというアンテナを持ってほしい」という思いである。

課題としては、共通語と異なる宮古方言の音声をどのように表記すればよいのかという問題があるようだ。

また、現状だと単発的な授業となってしまうので、学期に一回は、方言を取り扱った授業をしたいとのことである。

(文責：中本謙)

資料 1

国語科 学習指導案

日 時：平成23年9月29日（木）  
 5校時 13:35～14:25  
 対象学級：宮古島市立佐良浜中学校 2年A組  
 25名（男子14名・女子11名）  
 授 業 者：謝敷勝美

- 育成を目指す言語能力
  - (1)方言と共通語という観点から、自分たちの言語生活を振り返らせ、日本語に対する興味や関心を高めさせ、自ら方言を探究する力。
  - (2)方言や共通語について、それぞれの特徴や役割、場面に応じた使い分けなどを理解し、自らの言語生活に活かす力。
- 具体的な言語活動
 

島に生きる方言・今につながる言葉を生で聴き、実際に発音をまねて声に出したり、内容を理解することで方言の醸し出す表現の豊かさや、方言が担っている役割を確認する。
- 単元の指導と構想表「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（第2学年）

①単元（教材）名		教材名：言語② 方言と共通語	
②言語活動	ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐良浜方言の話の内容や特徴、言葉遣いについて話し合う。</li> <li>・佐良浜の方言を実際に声に出して発音し、表現の豊かさを味わう。</li> <li>・方言と共通語の果たす役割について確認し合う。</li> </ul>	
③指導事項	④重点化	③ 学 習 活 動	⑤ 評 価 規 準
ア	◎	<p>学習空間である教室の中で地域のお年寄りの方言の話を生で聴き、方言の役割や特徴を確認し合う。</p> <p>教科書や資料を活用し、方言と共通語の観点から自分達の言語生活を振り返る。</p>	<p>方言と共通語の特徴・違いについて理解し、それぞれの長所を日常生活の言語生活に活かそうとしている。</p> <p>自分達が日常用いている言葉に興味・関心を持ち、学んだことを自らの言語生活に活かそうとしている。</p>
オ	◎	<p>地域のおばあちゃん達の日常生活の中でよく耳にする方言が、相手や目的に応じて使い分けられていることを理解し、方言にもTPOがあることを確認する。</p> <p>方言を話す生活の中の一場面の1フレーズを聴き、発音をまねて実際に自分自身も声に出して言う。</p>	<p>方言と共通語とは役割が異なることを理解し、それぞれの特徴を活かし、場合によって使い分ける態度を身に付けようとしている。</p> <p>方言の長所を理解し、それを積極的に活かし、方言を取り入れた表現を試みようとしている。</p>



#### 4. 教材に関する評価規準

国語への関心・意欲・態度	伝統的な言語文化に関する事項	言語についての知識・理解・技能
・佐良浜の方言に関心を持ち、積極的に学習活動に取り組み言葉に対して興味・関心を高め、自分なりの考えをもつことができる。	・方言と共通語とでは役割が異なることを理解し、それぞれの特徴を活かし、場合によって使い分ける態度を身に付けようとしている。	・佐良浜方言のルーツを調べたり、方言の出所を学習したり、生活の中で方言を用いてお年寄りとのコミュニケーションを持つことができる。

#### 5. 教材名 言語② 方言と共通語

#### 6. 教材観

細長い形をした日本列島は、沖縄から北海道まで何千キロも離れているため地域の自然環境や風土・生活習慣が言葉も地域によって異なりが大きい。

沖縄県の離島の宮古島。かつては方言だけで生活していた人も多く、戦後、必要な知識や情報を誰もが手にすることができるようになるのと同時に、共通語教育の必要性が高まった。また、集団就職した中学卒業したばかりの方々が、正しい日本語を使えないため同僚や本土の方々とうまくコミュニケーションがとれずトラブルになったり、仕事を辞めて島に戻ってくる少年少女が少なくなかったようである。そのため学校では、日本本土の言葉遣いに近づくために「標準語励行」が強く打ち出され、学校で方言を使用することを硬く禁じた。方言を使った児童に罰として「方言札」を首からかける時代が戦後 30 年以上続いた。当時家では家族での日常会話が方言であったため、学校で思わず方言が出ることで「方言札」の罰を受けることを恐れ、会話によるコミュニケーションをあえて避けたという事例もある。遣う言葉をとられてしまった児童の存在をショックに思うと共に、「方言札」の弊害として、現在の 50 代世代からは思うように方言を使いこなせる方々は少ないことを、島の歴史的・社会的な伝統が失われていくのを目の当たりにするようで残念に思う。同時に、日常生活の中で方言を使わない世代が増えたため、方言ならではの言い表せない巧みな表現や（擬態語・擬声語を含む）、島独特の豊かな言葉が忘れられようとしている現状を憂い、どうにかしなくてはと強く思う。

「方言と共通語の果たす役割」については、小学校第5学年及び6学年の「A 話すこと・聴くこと」(1)の「ウ 共通語と方言の違いを理解し、また必要に応じて共通語で話すこと」を指導している。これを踏まえ、本教材を学習することで生徒たちが、方言と共通語のそれぞれの果たす役割についての理解を深め、共通語は地域を越え年齢を超え通じる言葉であることを考えさせたい。またそれぞれの特徴を活かし、場合によって使い分ける態度を身に付けることにつながればと思う。さらに、教室という学習の場でクラスメートと生の正しい方言を耳にすることで、お年寄りに対する言葉遣いや、島の風土や文化への興味関心を高めてほしいとも思う。

#### 7. 生徒観

##### (1) 生徒の実態

全体的に明るく物怖じしない。学校生活全般においてクラスメートや教師に対し親しみを込めた接し方をしている。しかし、言葉遣いの面で友達感覚で目上の者に対して話したり、その場に適さない言葉を遣うなど、けじめのない場面を見ることが少なくないことが気になる。

「国語科」に対して苦手意識を持っている生徒はあまり見られない。授業者の質問に対して間違っているかもしれないと思いながらも、声に出して何らかの反応がいつでもあり全体



的に学習する雰囲気を整っている学級である。しかし、授業中は理解をしているように見受けられるが、諸テストの結果は平均 70 点になかなか届かない。特に言語に対する関心が薄く、学んだことを普段の生活に活用していないことが関連しているだろうと思われる。国語科で学んだ言語力を日常生活の中で活用できるようになり、学ぶことの楽しさを実感でき、もっと学びたいという意欲の高まりにつながるような授業作りの工夫・改善を試みたい。

(2) アンケートの結果から (表の数値は、学級人数 25人 中の人数)

質問項目	評価			
	A とても あてはまる	B だいたい あてはまる	C あまりあて はまらない	D あてはまら ない
①国語の授業は楽しい。	8	15	1	1
②現在住んでいる地域が好き。	13	10	2	0
③佐良浜で話されている方言は好き。	11	10	4	0
④共通語が好き。	6	14	5	0
⑤佐良浜地区の方言に関心がある。	7	13	4	1
⑥身近に佐良浜の方言を使う人はいる。	19	6	0	0
⑦方言での会話を聞いて意味を理解できる。	4	12	8	1
⑧家での家族での会話は方言である。	1	3	12	9
⑨方言を自由に使いこなすことができる。	0	2	20	3
⑩方言をお年寄りから習いたい。	6	15	2	2

生徒達は、地域に寄せる思いや、地域の行事に対する関心も高く、現在住んでいる「佐良浜」地区に自信と誇りを持っており、殆どの生徒が好きと答えている。独特のイントネーションで話される島言葉に対しても好感を持っている生徒が多い。しかし、生徒の多くが身近に方言を話す年齢層の方が存在するとしながらも自分自身、単語での方言は話せるものの会話として使いこなせる生徒は少ない。本時の授業を通して、方言の醸し出す表現の豊かさと、佐良浜方言のルーツや出所に関心を持ち、敬語を用いた方言でお年寄りとのコミュニケーションをとれる一歩にしたい。

## 8 指導観

(1) 育てたい力をどのように付けるか

本時の育成を目指す言語能力①「方言と共通語という観点から、自分たちの言語生活を振り返らせ、日本語に対する興味や関心を高めさせ方言を探究する力。」②「方言や共通語について、それぞれの特徴や役割、場面に応じた使い分けなどを理解し、自らの言語生活に活かす力。」は一朝一夕では育てられない。しかし、今回の授業をきっかけとして自分達の言語生活を振り返らせ、日本語に興味・関心をもち、学んだことを自らの言語生活に活かすよう指導していきたい。本時は、様々な教材を活用しつつ、授業形態にも工夫を凝らしながら（個人からグループ活動、そして個人へ）取り組んでみたい。

(2)「授業改善の工夫」を本時でどう取り組むか。

「授業改善」は教師側からのアプローチのみでは成立が厳しいと考えている。教師と生徒の「信頼関係」の上に、「生徒の学ぼうという意欲」と教師の「教えようとする情熱」の強い相互作用があって初めて「授業改善」が果たせるのだと思う。本時における生徒との言葉によるキャッチボールの中で「私と生徒の信頼関係がどの程度構築できるのか」「生徒の学ぼうとする姿勢をどの程度引き出せたのか」の成否で「授業改善の工夫」を判断したい。その為の具体的なアプローチとして次の三点を工夫したい。

- ① 地域の人材の活用（地域に生きる実際の方言を語っていただく）
- ② 視聴覚機器の活用（映像により、視覚に訴える）
- ③ 学びの形態の工夫（個人で考える。グループで話し合う）

(3)「学びのみやこ」に基づく授業づくりの構想

宮古教育事務所提唱の構想によると「自ら学ぶ力をはぐくむ授業改善」は「全教育活動と通じた言語活動の充実」を図りながら、生徒個々に「分かる喜び」や「自己有用感」を与え、ア、課題把握の為の「教師との対話」、イ、自力解決のための「自分との対話」、ウ、相互解決の為の「友達との対話」の設定をモデルとしている。

また「学びの五感→ア“必要感”、イ“期待感”、ウ“充実感”、エ“受容感”オ“達成感”」の設定も意識して計画した。（「本時の授業の展開」に記す）

「本時の授業で特に観察したい点」は『グループ学習時において、ひとり一人がどのくらい自分の感想や思いを発信しているか』という点である。

ア“必要感”→何のために、何を学ぶのか、学ぶ意味とめあてを持つ。  
 イ“期待感”→学びの見通しや手順を明確にし「早く学びたい」動機を高める。  
 ウ“充実感”→学びに没頭し、試行錯誤しながらも生き生きと学ぶ。  
 エ“受容感”→他者の考えを受け入れるなど、他者との学び合いの活動。  
 オ“達成感”→自己の学習を振り返りつつ、学んだ喜びを味わう。

9 指導計画と評価計画（2時間）

時	主たる学習活動	指導上の留意点	評価規準
1 本 時	①佐良浜のお年寄りの方言の話を生で聴き、方言の役割や特徴を確認し合う。  ②日常生活の中でよく耳にする方言が相手や目的に応じて使い分けられている事を確認する。	①島に生きる言葉、今につながる言葉を生で、実際に自分の耳で聞くことにより、方言に込められた先人の思いに触れさせる。 ②方言にも「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」等があることを理解させる。	①方言と共通語のそれぞれの特徴・違いについて理解し、それぞれの長所を生活に活かそうとしている。  ②方言と共通語とでは役割が異なることを理解し、それぞれの特徴を活かし場合によって使い分ける態度を身



	③方言で話される生活の中の一場面の1フレーズを聴き、実際に自分も声に出して言う。	③方言が醸し出す表現の豊かさや魅力など、方言が担っている役割を理解させ、方言を尊重する気持ちを持たせられるような言葉を選ぶ。	に付けようとしている。 ③方言の特徴を理解し、それを積極的に活かし、方言を取り入れた表現を試みようとしている。
2	①教科書や資料を活用し、方言と共通語の観点から自分達の言語生活を振り返る。  ②方言と共通語についての学習を整理し、自分の考えや思いをまとめる。	①前時を振り返り、方言と共通語の良さをノートに書かせ、グループで話し合わせる。  ②共通語は地域間・年代間を橋渡しする役割を持っていることに気づかせる。	①方言と共通語の特徴を考え、ノートにまとめたり話し合ったりしている。  ②共通語と方言の意義について考え、日常の言語生活の向上に意欲的に取り組もうとしている。

#### 10 本時

##### (1) 本時のねらい

- ① 佐良浜方言の醸し出す表現の豊かさを味わい、理解し尊重しようとする態度を育む。
- ② 方言と共通語のそれぞれの役割について考え、特性を理解する。

##### (2) 本時の展開

	生徒の学習活動	★主な発問 ☆予想される反応	【評価】・(学びの五感)
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な右記の言葉を方言に置き換えるには、どう言えいいのか考える。</li> <li>・自分の考えた方言の表現で発表する。</li> <li>・本時のめあてを確認し、ノートに記す。</li> </ul>	<p>★クイズです「食事の用意ができましたよ。来て食べてください。」という共通語を方言で言ってみて下さい。</p> <p>☆エー、何て言うんだろう？</p> <p>★誰か発表できる人はいますか。</p> <p>☆「きし むぬー ふあい はい」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心、意欲を持って授業者の発問に答えようとしているか。【観察】</li> <li>【発表】</li> <li>(イ期待感)</li> <li>(ア必要感)</li> </ul>
展開 32分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストの話す佐良浜の方言を聴く。</li> <li>※「食事の用意ができましたよ。来て食べてください。」</li> <li>※「雨が降ってきました。干してある布団を急いで取り込んでください。」</li> <li>・孫への声かけ・お姑さんへの声かけの言葉の違いや遣い方を考え、方言にも共通語と同じよ</li> </ul>	<p>★ここで、本時の3人のゲストの皆さんに先ほどの共通語を佐良浜の方言に置き換えて喋って頂きましょう。</p> <p>★同じ言葉を目下の人(孫)と目上の人(姑)に対して喋る場合に、表現がどう変わるのかを聞き分けましょう。</p> <p>☆なるほど、こんなふうに表現するんだ。☆何が違うの？</p>	<p>地元の生きた言葉に関心を持ち、ゲストの話す方言に真剣に耳を傾けているか。【観察】</p> <p>(イ期待感)</p> <p>共通語の敬語と結びつけて方言にも敬語があることを気づく。</p>

展 開 32 分	<p>うに TPO や丁寧語・敬語・謙譲語等があることに気づく。</p> <p>・同じ内容の話（宮古の民話）を授業者と地域の講師がそれぞれの地元の方言で語るのを聴く。 〈四人一組のグループを作る〉</p> <p>・お互いに知っている方言の意味を出し合い、話の内容（ストーリーの概略）を代表がホワイトボードに記す。</p> <p>◎他者との学び合いの活動</p> <p>・各グループで話の概略を発表する。（3グループ）</p> <p>・話の共通語訳を映像で視る。</p> <p>・クイズを考える。 「生活の中の一場面」のあるフレーズの方言の意味を考え、共通語に置き換える。 グループで話し合い→発表</p> <p>・話の共通語訳を映像で視る。</p> <p>・佐良浜の方言を映像を視ながら実際に発音する。 ※「明日私の家でお祝いがあります。ぜひお越しください。」 ※「とても綺麗な装いですね。どちらへお出かけですか。」</p> <p>・伊良部島に残っている「地域の風物を愛でる歌」を聴き、生活の中の言葉（方言）について想いを馳せる。</p> <p>・歌の共通語訳を映像で視る。</p> <p>・共通語と方言の果たす役割について考える。</p>	<p>☆同じ話し方だよ</p> <p>☆違う表現がいくつかあったよ</p> <p>☆へー、同じ方言でも相手によって表現を変えていくんだなあ。共通語にもあるなあ。</p> <p>★地域によって使われる方言が違っているの、同じ話でも別々のお話のように聞こえます。では、これから同じ話を「城辺地区西城の方言」と「伊良部地区佐良浜の方言」で語ります。ストーリーをしっかりと聞き取って下さい。グループでお話の内容をまとめて発表します。</p> <p>☆先生、方言喋れる？</p> <p>☆同じ話でも、方言は地域によって全然違うなあ…</p> <p>★次の学習は、生活の中の或る場面をゲストの皆さんが方言で喋ります。皆さんは方言で話している内容をグループで話し合っ共通語訳しホワイトボードに記して下さい。</p> <p>★共通語に訳すとき、言葉遣いに気をつけましょう。</p> <p>★映像を視ながら発音しましょう。</p> <p>★秋の風物詩「サシバ」は伊良部島にとってつながりの深い渡り鳥です。そのサシバのことを詠った歌をゲストの方に歌ってもらいます。聴いて下さい。</p> <p>★方言の役割、共通語の役割はそれぞれどんなことだと思いますか。</p>	<p>・教師の話す他地区の方言と地元佐良浜の方言をしっかりと聞き、内容をくみ取ろうとしているか。【観察】</p> <p>・グループの話し合いに積極的に参加して意見を述べたり、友達の意見に耳を傾けたりしているか。【観察】（ウ充実感）</p> <p>・異なる地域の言葉を共通語がつなぐことに気づいているか。 （工受容感）</p> <div data-bbox="1125 1041 1173 1220" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1045 1243 1268 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>方言と共通語の特性について理解を深めようとしているか。 【観察】</p> </div>
ま と め 10 分	<p>・本時の自己評価や感想を記入する。</p> <p>・まとめた感想を発表する。</p> <p>・次時の予告を聴く。</p>	<p>★今日の授業を振り返って感想を書いて下さい。</p> <p>★誰か感想を発表できますか。</p>	<p>・学習を振り返り感想を書いているか。活動を行</p> <p>【観察】【発表】【ノート】</p> <p>（才達成感）</p>

(3) 本時の評価

- ① 佐良浜方言の話し出す表現の豊かさを味わい、理解し尊重しようとする態度を育めたか。
- ② 方言と共通語のそれぞれの役割について考えさせ、特性を理解するよう指導できたか。



## 資料 2

—第18回 宮古地区中学校総合文化祭—

# 第2回 方言お話しパフォーマンス大会

宮古の誇りを未来へつなげ 歴史の力と文化の光



●テーマ：砂 川 梨 音（城辺中2年） ●ポスター：下 地 深 青（久松中3年）

◇ 期日 2013年（平成25年）1月26日（土） 14:00～16:00  
◇ 場所 宮古島市中央公民館大ホール

主催 宮古地区中学校文化連盟

## 2 詩の朗読 金子みすず作 「わたしと小鳥と鈴」「こだまでしょうか」

宮古島市立下地中学校

学校長名 宮國勝也 指導者 謝敷勝美  
出演者名 宮川朋美（2年） 池間瑞希（2年） 下地沙羅（2年） 平良暁子（2年）  
村吉梨乃（2年） 来間美乃里（2年） 友利奈美（2年）



### 【出演者コメント】

私たちは、普段の会話では「アガー」や「アイジヤ」「ダイズ」ぐらいしか方言を使うことはありません。祖父や祖母の遣う方言も英語よりわからない単語が多くて聞き取ることはできません。聞き取れたらいいなあと思うことはありますが、残念ながら…。

今回は詩の朗読を楽しみます。

### 【出演目紹介】

金子みすずさんの言葉の美しい響きを「宮古方言」に翻訳していただき朗読します。小学校の頃からなじみのある「わたしと小鳥と鈴」と、昨年テレビのCMから流れた「こだまでしょうか」です。方言のもつ独特な味を伝えたいです。



# 資料 3

【中学校】授業実践報告

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 宮古島市立下地中学校

### 授業の概要

#### 授業日時・学年・教科・単元名等

授業日時：平成 25 年 2 月 15 日 5 時間目

学 年：2 学年 教科：国語

単元名：7. 自分を見つめる～さまざまな視点から、人間についての理解を深める～

教材名：言葉3「方言と共通語」

I C T 支援員によるサポート ■ 授業中 ■ 事前

#### 単元・教材の目標

①方言と共通語のという観点から、自分たちの言語活動を振り返らせ、日本語に対する興味や関心を探求する力をはぐくむさせる。

②方言と共通語について、それぞれの特徴や役割、場面に応じた使い分けを理解させる。

#### 学習の流れ

第1時 ①自分たちの地域で使われている方言の特徴を家族や祖父母からの聞き取り、調査したことを確認し合う。

②宮古島：下地地区の方言の特徴について話し合う。

第2時 ③身体部位の呼称を保護者からのアドバイスをもらい仕上げる。

【本時】④「下地地区」方言で身体部位の呼称について発音する。

第3時 ⑤方言と共通語の果たす役割について確認し合う。

#### 本時の中心となる授業形態

☐ 一斉学習 ☐ 個別学習 ■ 協働学習

#### 本時の目標（評価の観点）

①故郷（ふるさと）の方言に関心をもち、生活に活かそうとしているか。

### 情報通信技術の活用

#### 活用した場面

■ 導入 ■ 展開 ■ まとめ ■ その他（ ）

#### 活用した者

■ 教員 ■ 生徒

#### 活用する目的

■ 課題の提示 ■ 動機付け ■ 興味・関心の創出 ■ 目的や目当ての明確化

■ 教員の説明 ■ 生徒による説明

☐ 繰り返しによる定着 ■ 典型例の提示 ☐ 創作活動

☐ 失敗例の振り返り ☐ 体験の想起 ☐ 体験の代行 ■ 比較

■ 振り返り ■ 生徒同士の教え合い ☐ その他（ ）

#### 活用したコンテンツ

ジャーナルソフト 自作教材

#### 活用した機器

■ I W B ■ タブレット P C ■ 実物投影機

☐ その他（ ）

## 1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
☆「本時の学習のめあて」をノートに記し確認  ☆ゲストティーチャー紹介を聞く。  ☆方言の話を聞いて内容と対応策を考える。(グループ活動) ※なんと言っているのか ※どんな対応をとるか ☆話し合い後に班長のPCに記入。 ※問題ごとに正解を確認。  ☆授業者の説明を聴く。  ☆グループ1台のタブレットPCに身体の部位のイラストを掲示し方言での呼称を話し合い記入す。 ☆授業参観の保護者をグループに招きアドバイスをいただき、書き入れる。(世代間交流) ☆全箇所した後は個人のシートに書き入れ発音の練習をする。  ☆ゲストティーチャーに発音していただき、まねて発音する。  ☆「本時の評価・感想」を学習ノートに記す。  ☆ゲストティーチャーに続き方言で「わたしと小鳥と鈴と」を朗読	★和やかな雰囲気のやりとりの中で学習のめあてを確かめ合う。  ◎照子先生登場・自己紹介  ◎問題1 「背中が痒いので掻いてほしい」 問題2 「耳に何か入ったようだ。見てほしい」 問題3 「足が痺れているので揉んでほしい」  ★音声記号の存在を紹介し、表記について指示確認。  ★方言をひらがなで発音に近い文字で記入させる。  ★方言と共通語の観点から日本語に対する興味関心を高めさせる。 ★体の名称が入る方言の言葉を紹介し、普段の生活と関連できるようにする。  ◎身体の部位の正解紹介 関連のある言葉を紹介し生徒に発音させる。  ◎「私と小鳥と鈴と」を方言で朗読  ★余韻をもって授業を終える	○IWB ○タブレットPC 班長PCにシート配布 ↓ 1分後 IWBに9班長画面を一斉提示 [3回同作業]  事前に配布されたワークシートを開く。 班長はタブレットPCに体の部位イラスト提示  IWBに9班長画面を一斉提示  IWBに「私と小鳥と鈴と」を方言表示

## &lt;協働学習の実施状況&gt;

- ☐ 生徒が相互に教え合う場面があった    ☐ 数名が一緒に学び合う場面があった  
☐ 数名が協力したり助け合ったりする場面があった    ☐ 数名が話し合う場面があった  
☐ 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった  
☐ 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった  
☐ ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

## 2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

### (1) 活用のねらい

1. クイズに対してグループで話し合い、答えをタブレットP Cに記入し、全体で確認することで学習の雰囲気を楽しくでき、意欲的に学習に取り組ませる。
2. 普段使わない言葉を記入する際、紙媒体の場合書いたり消したりする作業に時間がかかると思われるが、タブレットP Cだと時間が紙媒体と比べ短縮できる。
3. 一斉に答えを掲示することで、各班の答えを比べさせる。
4. 電子黒板を効率よく活用することで、授業をスムーズに展開できる。

### (2) 活用により期待される効果

1. 聞き慣れない言葉を話し合い班長のタブレットP Cに記入する際、相互に教えあう場面が見られ、学習に対する意欲が高まるであろう。
2. 保護者も共に学習に取り組むことで、I C機器活用の効用について理解が深まるであろう。

## 3. 実践上の課題

1. タブレットP Cを午後の授業で使用する際、午前中他の教科で使用したためバッテリーの残量が足りない場合がある。
2. 移動教室の後のタブレットP Cを使用する際、準備に時間がかかり、さらに立ち上がるまでに時間を要し、50分の授業が展開できない。
3. 生徒の人数が多いため、電子黒板の文字が教室後方の生徒から見づらい。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、W e bでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。

# 人体各部の名称・ふるさと言葉での呼称

- ①頭 ( ) ②髪の毛 ( )  
 ③額・おでこ ( )  
 ④眉 ( )  
 ⑤目 ( )  
 ⑥目玉 ( )  
 ⑦まつげ ( )  
 ⑧顔 ( )  
 ⑨頬 ( )  
 ⑩鼻 ( )  
 ⑪耳 ( )  
 ⑫口 ( )  
 ⑬唇 ( )  
 ⑭歯 ( )  
 ⑮舌 ( )  
 ⑯喉 ( )  
 ⑰首 ( )  
 ⑱肩 ( )  
 ㉕肘 (ひじ) ( )  
 ㉖腕 ( )  
 ㉗背中 ( )  
 ㉘腰 ( )  
 ㉙尻 ( )  
 ㉚脚 (あし) ( )  
 ㉛腿 (もも) ( )  
 ㉜膝 (ひざ) ( )  
 ㉝脹ら脛(ふくらはぎ) ( )  
 ㉞爪 ( )  
 ㉟顎 (あご) ( )  
 ㊱後頭部 ( )  
 ㊲胸 ( )  
 ㊳腹 ( )  
 ㊴臍(へそ) ( )  
 ㊵脇(わき) ( )  
 ㊶手 ( )  
 ㊷手首 ( )  
 ㊸指 ( )  
 ㊹親指 ( )  
 ㊺小指 ( )  
 ㊻脛(すね) ( )  
 ㊼踵(かかと) ( )  
 ㊽踝(くるぶし) ( )  
 ㊾足の甲 ( )


## 「方言クイズ」解答用紙

Q1 くさんみぬう こーかりゃあ かきふいる

訳 (話の内容)	
対応策 (この後こうする)	



国語科ワークシート	
<p style="text-align: center;"><b>学習のめあて</b></p> <p>○故郷（ふるさと）の方言に関心をもち、生活に活かそう。</p> <p style="text-align: center;"><b>学習活動・グループ活動</b></p> <p>一、ゲストティーチャーが話す方言での「〇〇してほしい。」を聴いて、内容と対応策を話し合う。            二、身体の部位の呼称と発音を授業参観の保護者の方々・上地照子先生から教えていただく。            三、ゲストティーチャー上地照子先生が、方言朗読する金子みすゞ作「わたしと小鳥と鈴と」に続き朗読する。</p> <p style="text-align: center;"><b>学習を振り返って（目・耳に残っている言葉・感じたこと・これから実践したいことなど）</b></p> <p>方言は下地に住んでいながらよくわからなかったのが今回の授業はすごくためになりましたし地元への興味がより深められました。少子高齢化の社会に変わりつつある日本で、お年寄りの方言とコミュニケーションする機会が更に増えると思うので方言を知っておくことも役立つなと感じましたし、話せるとカッコイイなという憧れもでてくるようになりました。今回をきっかけにいろんな方言の方言に親しんでみたいですね。</p> <p>今回はありがとうございました。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">名前</div> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">             二月 十五日 金曜日 五校時           </div>





## 4. 2 県立伊良部高校

調査日	2013 年 2 月 6 日
調査地点	伊良部高校
調査協力者	砂川明（校長）、松原芳和（教頭）、漢那あや子（国語科教諭）
調査者	大城貞俊、中本謙、村上呂里

### 1. 「方言カルタ」の作成

平成 24 年度の 3 年生の「国語探究」（選択科目）の授業で、「方言カルタ」を作成。「琉球方言カルタ」の伊良部バージョン（資料 1）。担当教師が生徒と一緒に地域の言葉を楽しむために作成したという。10 月の 2～3 週間を使って作成したが、生徒は、絵入りのカルタを作成することに興味深く取り組んでいた。

ただし、生徒に地域の方言と標準語との明確な区別意識は弱く、ウチナーヤマトグチ、若者コトバも方言と勘違いして作成している生徒も見られた。また、集落ごとに言葉は違うが、それを取り入れることも許容した。

作成することを目的としたので、まだ、読み上げてカルタ大会をするという活用までは行っていないとのこと。また、来年度に継続することも、今のところ検討中とのこと。

### 2. その他

伊良部島においては、方言について、小、中学校との連携した取り組みもないという。宮古島市主催の「ミヤコフツ」大会に、小中学校では、代表者を送っているが、高校の取り組みは特別に行っていないという。伊良部のコトバを、伊良部の子どもたちは、特別なものではなく、自然に受け入れているようだ。

### 地域の取り組み

(1)『伊良部離島先人達の暮らしと島方言』（平成 24 年 4 月発行／宮古島老人クラブ連合会伊良部支部編集）

老人クラブが 70 部ほど作成した手作りの印刷物で、貴重な「伊良部コトバ」が集められている。学校蔵書の一つとして図書館に収納しているという。学校での活用の仕方などは今後の課題とのことである。

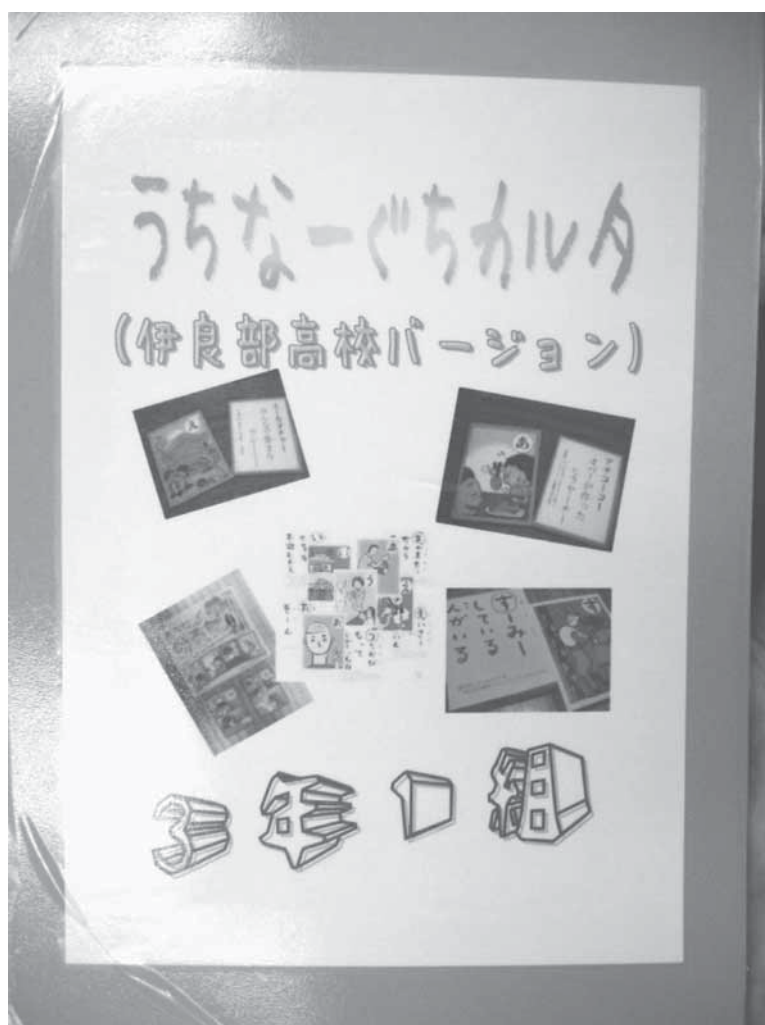
### 課題・まとめ

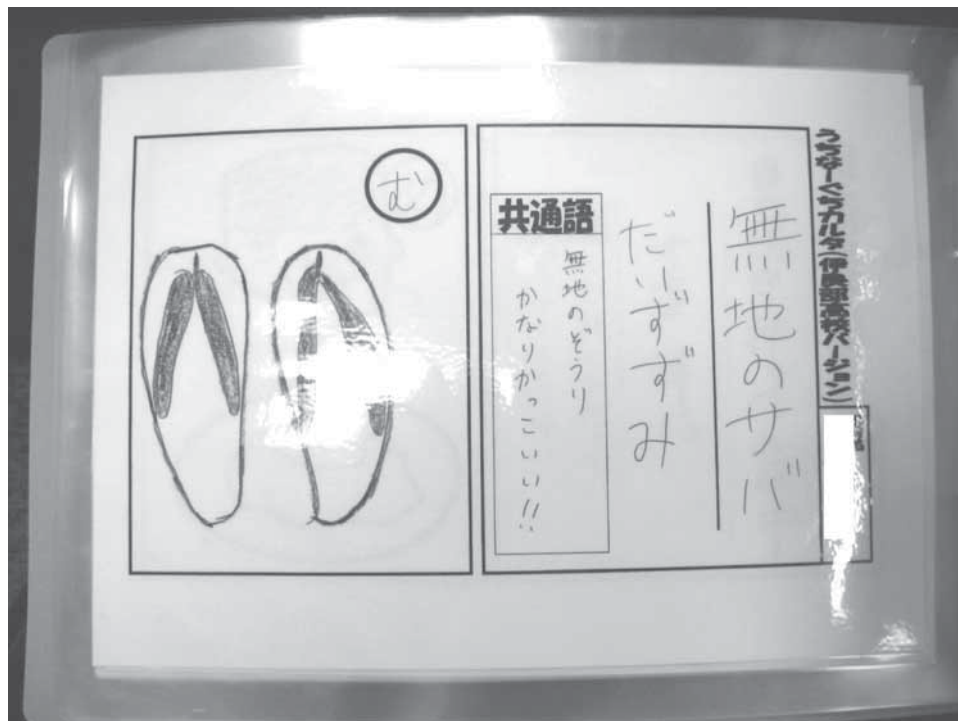
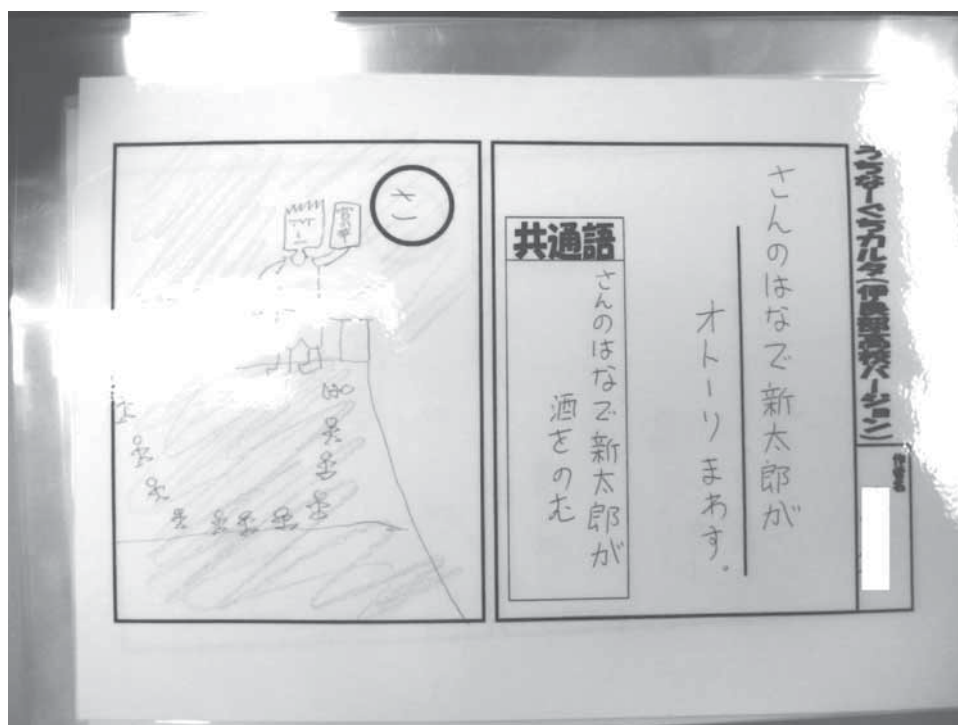
「方言カルタ」の作成も、学校全体としての取り組みではなく、一人の国語科教師の教材開発の一例である。オリジナルな教材開発であるが、持続的な取り組みではなく、また

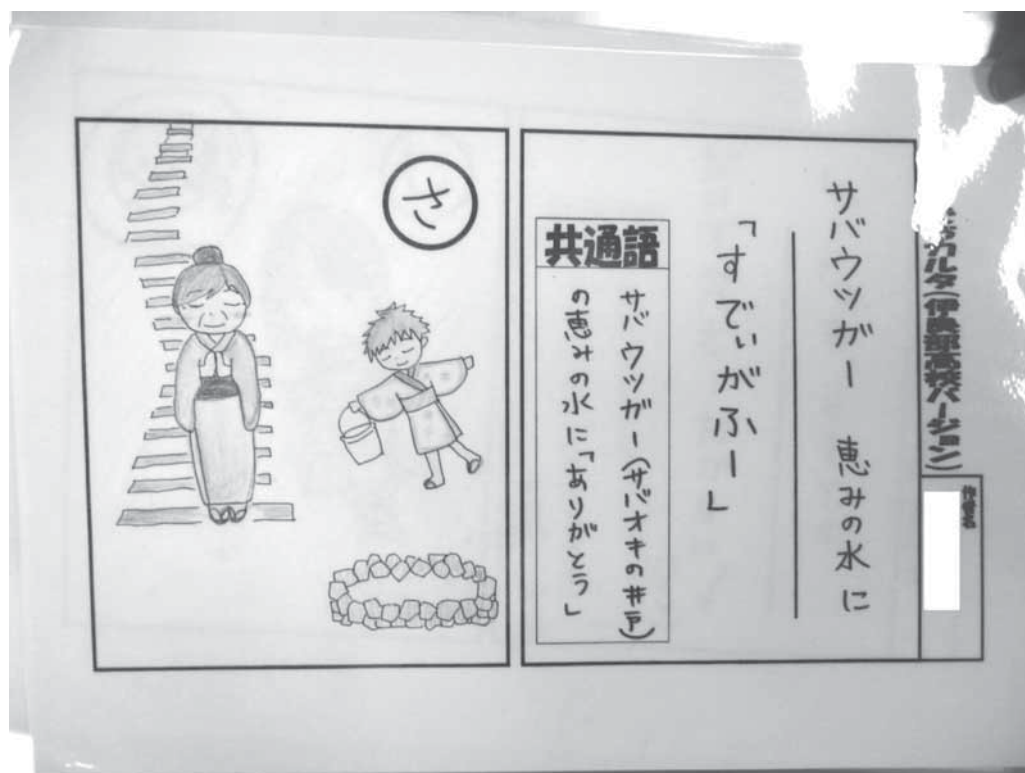
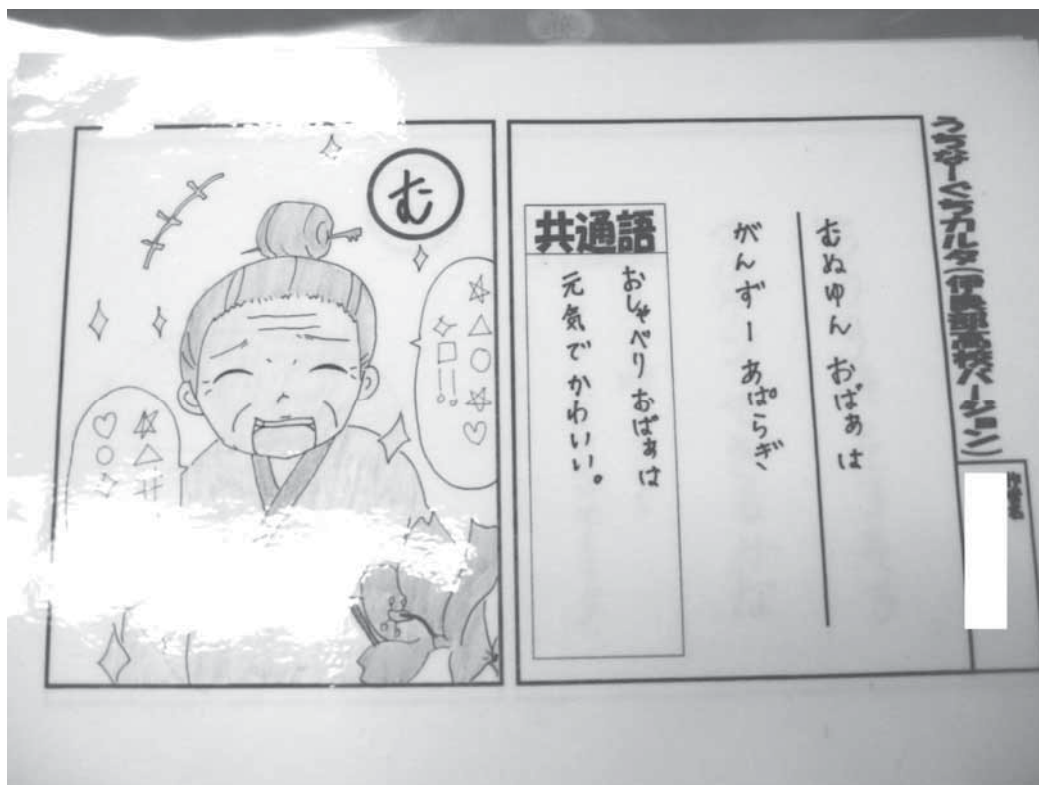
発展的な取り組みとしても、今後の課題という印象を持った。

(文責：大城貞俊)

## 資料 1







## 5. 八重山、与那国における学校の取り組み

### 5. 1 竹富小中学校

調査日	2013 年 2 月 5 日
調査地点	竹富小中学校
調査協力者	漢那憲吉（校長）
調査者	村上呂里、大城貞俊、中本謙

#### 1. テードウンムニ大会を核とした取り組み

2012 年 9 月 14 日（金）をもって、テードウンムニ（竹富言葉）大会は第 35 回を迎えた。竹富小中学校 PTA 文化部主催で老人会、婦人会、公民館などが協力し合い、年 1 回ずつひらかれるこの大会には、初回以来毎回、学校ぐるみで参加している。

ムニバッキター シマバッキー  
シマバッキー ウヤバッキルン

「言葉を忘れるのは、島を忘れることだ。島を忘れるのは、親を忘れることだ。」を合言葉に行われる。

テードウンムニ大会のねらいは、以下の通りである。

- ①島の文化・歴史・人々の心・生き方等をテードウンムニ大会を通して学ぶ機会とする。
- ②島の自然に人々がどう工夫して生きてきたか、それによって生まれた文化や人々の「うつぐみ」の心を意識させる。

「うつぐみ」とは、島の偉人・西塘様の遺訓といわれる「かしくさや うつぐみどうまざる」という言葉による。みんなで協力することこそ優れて賢いことだ、という意味であり、「うつぐみ」とは一致協力する心である。その心こそ竹富島の基本精神であるとのことである。

校長も、テードウンムニで挨拶を行う。

キュウヤ、バヤー テードウンヌ PTA ヌ テードウンムニ大会ユ。

テードウンムニヤ テードウン文化ヌ ムトドゥナリルユ。

クヌ ノンヤラン デーatinaテードウンムニユ ファーマーイナラシ マモラナッタ ナラヌティヌ デーatina行事ドゥヤリ 歴史ヌアル 大会ドゥナリルユ。

クヌ大会ユ シクミッティ ウシトゥ ニンジュウハジミ 三カムラヌ ケーラーハラ ナラシオータウカゲサーニ 盛大イ 開催シラリクトゥイナリ ヘーゴサラミーハイッティ シャリルンユ



「竹富言葉は、竹富文化の基本であり、この大事な竹富言葉は、子どもたちにも教え、守らなければならない大事な行事であり、歴史のある大会である」との思いがこめられた挨拶である。なお校長は、石垣本島新川のご出身であり、竹富言葉はこちらに赴任してから地域のお年寄りに習った。つかえながらも一生懸命挨拶することでかえって、島民は親しみを感じ、校長への信頼を増すという。

児童生徒は、物語、生活等を題材にしてテードゥンムニで発表する。たとえば 2012 年度の大会では、「夏休みの話」、「大きなかぶ」（国語教科書掲載ロシア民話「大きなかぶ」をテードゥンムニで語る）、「赤ちゃんが生まれたよ」などの発表があった。

教職員も出し物を発表する。今年の出し物は、漢那校長自らが脚本を書き、全教職員が出演する「テードゥンムニぬ授業ゆ」である。

## 2. 学校文集『あゆみ』

『あゆみ』という学校文集が、57 年間つづいている。そこには、児童生徒全員の自己紹介や発表がテードゥンムニで綴られ、掲載されている。表記の困難さなどをのりこえ、長年、文集にテードゥンムニが掲載されていることの意義は深いといえよう。

（なお、いつ頃からこのテードゥンムニによる自己紹介等の掲載が始まったかについては、確認できなかった。標準語教育・共通語教育との関連で今後の課題となる。）

## 3. 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の内、年 3 時間、テードゥンムニのわらべうたの学習を行った。また地域人材を活用し、重要無形文化財である種取祭についての学習も行う。その際、テードゥンムニの学習も自然と入ってくる。

## 4. とらばら一ま大会の作詞への応募

竹富島では、「とらばら一ま大会」（主催・石垣市）が毎年行われる。竹富小中学校では、2011 年の作詞の部に中学生全員が応募した。国語の授業「俳句」の学習と関連させ、地域の文化芸能の学習の一環として取り組んだ。国語科の佐渡山圭吾教諭の指導の下、生徒が作品を指導し、それを前新透・波照間永吉著『竹富方言辞典』（南山舎、2011 年）を活用して、テードゥンムニに訳した。さらに夏休みのテードゥンムニ教室や、両親、祖母、地域の方々からの指導を仰ぎ、完成させた。

生徒作品をあげる。

グックヌイシヌ ジッチナー ジッチナー スマリルヨーシー

（石垣の石が、一つ一つ重なるように）

ンゾシーヌ カヌシャマヨー

バヌン バイジン ジッチナー ジッチナー スマハリタルユー

(僕も努力を 一つ一つ重ねて行きたい)

ンゾシーヌ トゥバラマヨー

(友利海人・二年)

アカバナヌ シマユウ イルズミ

(ハイビスカスが 島を色染め)

バヤ ケーラユ ヒキユルシ ヨーイ

(みんなを 引き寄せるように)

バヌン サトゥユ スミラー

(私も あなたを 染めたい)

(吉澤乃愛・一年)

## 課題・まとめ

「話せる」、ただそれだけでいいのか。もっと活用する場を増やしたい。

校長先生のお話から地域の方々に謙虚に学ぶ姿勢を貫かれていることがひしひしと感じられた。こうした姿勢により、学校が地域の心や文化の拠り所となっている。その核心に、「うつぐみ」に象徴されるテードゥンムニ（竹富言葉）の継承があるといえよう。30 年を超えるテードゥンムニ大会を中心据えた地域と学校との長年にわたる連携は、地域語継承をめぐる良きモデルといえる。

学校文集『あゆみ』に、長年「ムニバッキター シマバッキー シマバッキー ウヤバッキルン」という言葉とともに、テードゥンムニによる自己紹介や創作が必ず掲載されていることも意義深い。琉球言語文化圏の地域語が、学校という場で、書記言語の世界にきちんと継続して位置づけられていることは、言語教育史において重要な意味を担うであろう。また地域語継承の大切さを子どもたちに自ずと意識させることともなるだろう。

佐渡山圭吾教諭の実践は、子どもたちの今を生きる思いを、地域の伝統的な言語文化の形式で表現するものである。俳句学習と結びつけた学習は、国語科と関連づけながら、地域の伝統的な言語文化の創造的発展の担い手を育てるものとして示唆に富む。

(文責：村上呂里)



Taketomi Elementary and Jr. High School's News Letter

# 学校便りうつぐみ

11月10日  
水曜日  
2010年(平成22年)  
発行責任  
竹富町立竹富小中学校(校長)  
竹富町字竹富545番地  
Tel 0980-85-2349  
E-mail: takesch@bronze.ocn.ne.jp

## 第33回竹富の心を受け継ぐ テードゥンムニ大会

**シマバッキター**  
シマバッキター  
ウヤバッキルン

一生懸命発表しました。  
姉妹・従姉妹のグループで発表する者、一人で発表する者、親子で発表する者など多様な内容と取り組んで、テードゥンムニで語られました。

テードゥンムニ大会の開催においては、地域の方々や、老人会、婦人会、公民館の方々にも多大なご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

お陰様で、初期の目的である「テードゥンムニで語ることにより、島の伝統文化に繋がる機会とする」を十分に達成することが出来ました。

今回学んだことを今後の日常生活の中で生かせるよう心掛けていきたいと思っております。来年の大会が楽しみです。

**シマバッキター**  
シマバッキター  
ウヤバッキルン

児童生徒、親子で楽しく発表



保育園児の発表



一年生の発表



内巻市成姉妹・内巻市春姉妹



前本とわ



新垣姉妹・西園・仲達



実利兄弟・仲達、西園



内巻市里・野保志菜



眞峰姉



三浦良太



上野義子





Taketomi Elementary and Jr. High School's News Letter

# 学校便り うつぐみ

9月14日  
水曜日  
2011年(平成23年)  
発行責任者  
竹富町立竹富小中学校(校長)  
竹富町字竹富545番地  
Tel 0980-85-2349  
E-mail: takesch@bronze.ocn.ne.jp

## 平成23年度 石垣市主催 とっぱらーま大会 歌詞の部 学校特別賞

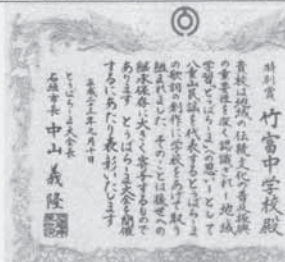
### 中学生全員が応募 友利海人君の作品を熱唱

です。生徒の作品は、すばらしく、中学生らしさが感じられる作品でした。国語科の佐渡山主吾教諭の指導の下、生徒が作品を制作し、それを竹富方言辞典(前新通著)を活用してテードウンムニに訳しました。更に夏休みのテードウンムニ教室や、両親、祖母、地域の方から指導をいただき作品を完成させました。表彰式には、生徒会長の友利海人君が学校代表として参加し、表彰を受けました。また、作詞の部から特に完成度の高かった友利海人君の作品が大浜中の生徒によって情熱的に歌われていました。会場にいた私も思わず涙が出るほどでした。指導してくれた佐渡山先生ありがとうございました。

### 生徒作品

グククスイシシ  
石垣の石が ジツチナー  
とっぱらーま大会(主催・石垣市)が真栄里公園で開催されました。大会では、歌詞の部、歌唱の部の審査があります。作詞の部の応募では、大浜中学校、竹富中学校から153点の作品が寄せられました。本校からも中学生全員が応募し、見事学校特別賞を受賞しました。中学校では国語の授業で「とっぱらーま」の歌詞創作は、地域学習として郷土の文化芸術の伝承の学習の一環で取り組んできたもの

### 賞状



アカバナヌ シマユウ イルズミ  
ハイビスカスが 鳥を色染め  
パヤケラヌ ヒキユル ヨーイ  
みんなを 引き寄せるように  
私を 染めたい  
私も あなたを 染めたい  
吉澤乃愛(一年)

アカカライヤドク ムカシハラ  
赤瓦の屋根が 昔から  
カラシヨイ  
変わらぬように  
私があなただを 思っている  
心は 変わらない  
前本とわ(二年)

ティダヌ ウミユテイラシ  
太陽が海を照らして  
スヌヨシ バヌンバ  
輝いているように 私も  
オニユ テイラシタス  
あなたを 輝かせたい  
新城優紀(一年)

ティダヌ ヒカルヨシ  
太陽が 輝くように  
ハルンティ ヒカリドク  
いつも 明るく 光っている  
内盛美奈(一年)

カジヌ シマユ ククルハラ  
風が 鳥を優しく  
ツツムヨシ  
包んでくれるように わたしも  
あなたを 優しく 包みたい  
新城愛梨(二年)

ユルティンナーアルフシヤ  
夜空にうかぶ  
フンスカヤ マルディ  
星の数は まるで  
パナドクン ヒンクドク  
私たちがやがて未来の  
イミヌカズヨシ アリドクラ  
夢の数だ  
西盛樹里(二年)

グクマーグクマーシラン  
小さくても  
ホシヤル ヒカエイトテイ  
大きな力をくれる  
星砂のように  
ヨウシ  
パヌンバ フーシヤル  
わたしも大きな力を  
ムチタル ヒドクイ ナリタルユー  
あたえらるる人になりたい  
上間ひなの(二年)

ティードウンヌ ウミヌ クミナースンガ  
竹富島の サング礁が  
シママヨヨウシ バヌンバ  
鳥を 守っているように 僕も将来  
シマモル ビードドク ナリタルユ  
鳥を守る 男になりたい  
西盛明樹(三年)

アカガライラヌ シマユアカアカ  
赤瓦が 鳥を 赤く  
スミル ヨウシ  
染めているように  
ワミミ ハナンバ  
あなたのほほを  
アカアカイ スミタスラー  
赤く 染めたい  
仲盛恵(三年)

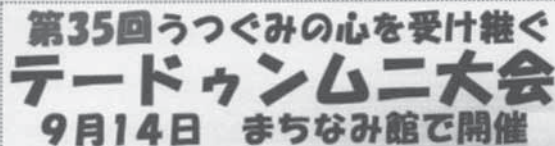
ティードウンヌカジヌ  
竹富の 風が  
シマドク ウルイルヨイ  
鳥を 潤すように  
クラス ククルドク クレイフサン  
あなたの 心を 潤したい  
友利 賢(三年)

はらーま大会  
歌詞の部表彰 後列左から2人目  
とっぱらーま大会  
歌詞の部表彰 後列左から2人目

「トバラマの起源」  
昔、真栄里村(石垣島)の仲筋家の絶世の美女カナシの愛を得ようとする何人もの若い男が燃ゆる思いで幾夜、幾月通つたが誰一人思いを遂げることができず、無念の足を引きずり我を忘れて歌い出した即興詩だとう。  
「ナカドク道から七ヶ村を通るけ、仲筋カヌシヤマ相談んぬならぬ」  
カヌシヤマヨ(愛らしい恋女よ)  
トバラマはこのような恋愛歌が元ですが、今では数多くの歌詞が創作され、家族愛、自然の美しさを詠んだ歌、郷愁を詠んだ歌などに発展していつています。  
「石垣島検島訪から転載」



金曜日  
2012年(平成24年)  
発行責任  
竹富町立竹富中学校(校長)  
竹富町字竹富 545 番地  
Tel 0980-85-2349  
taketomi@town.taketomi.okinawa.jp



第39回テンドン  
主演 小宮山孝典 中村 大志 小宮山 大志

本校では児童生徒の基調・基本となる学力を確実なものに付けた上で、その数組の一環として全児童生徒が、その学年に応じた級の資格試験の取組に挑戦しています。

英語検定は、漢字検定に次いで今年から数学検定にも受験できるようにしています。資格は、これからの学力で乗りこえて社会を目指す力の高揚であり、学ぶ意欲の証明となるものであります。

さて、平成24年度の第一回数学検定が去った8月25日(土)に英検英語検定も実施されました。その結果、見事次の児童生徒が合格しました。

英語検定は、中学一年生になつてもない期間で五級に合格したことがとても素晴らしいことであります。

また、敬福では六年生がより頑張つて見事に合格しています。

しかし、金体的には合否や受検対策や、家庭学習などの取組み方に課題が残ります。

次のチャレンジを生かして頑張りましょう。その理由としては、各学年とも未学習の多い受験級であったため、合格率が低くなったようです。

英語検定

【中一】松田 亨  
上野雅秀佐良

【小六年】内藤俊典  
吉澤心愛

【五級】  
【中二年】上野雅秀佐良  
吉澤乃愛

本校は、小中併置で、専ら人数の学級編成である。そのため、音楽科や体育といった集団の活動後の実施が難しい状況にあります。そこで、体験学習として大規模校との交流学習があり、毎年実施しています。今年も新川小が実施しました。

(1) 交流学習を通して、生に体験及び学習効果を豊かにし、見聞を広げよう。

(2) 多くの児童と集団活動を通じて、社会生活への関心を育てよう。

(3) 近及び周辺地の学校生活と、お互いの学校の良さを認め、お互いの話し合いの場を設ける。

平成24年10月19日(金)  
9:00～14:00  
三山市立新川小学校  
3参加者

4 主な活動内容  
新川小の給食に合わせ、学習活動、日給食及び体験活動、秋休みの一日の交流学習を行う。

種目	学年	男子	女子
100m	1年	澤田隆大	藤野又葉
	2年	廣田 健太	崎山一花
	3年	内藤真吾	野原莉子
	4年	松田 健	野原月愛
	5年	三浦昌太	野末未菜
	6年		元 光海
200m	5年	内藤大智	内藤大智
6年		吉田心太	
1000m	代表	内藤立太郎	内藤 楓
400mR		根原直也	森澤心愛
		上勢樹希陽	元 光海
		野原 聖	内藤 楓
		内藤正太郎	内藤美里
			上野虹紀
走り幅 跳び	5年		内藤美里
6年		吉田心太	
ソフトボ ール	代表		内藤美里

八小の体育連盟主催の「第12回八小地区小学校運動会」が、土曜日の午後、八小の運動場で開かれました。八小の児童は、この運動会に、全校児童が参加し、大いに盛り上がりました。この運動会には、八小の児童だけでなく、八小の保護者も参加し、大いに盛り上がりました。この運動会には、八小の児童だけでなく、八小の保護者も参加し、大いに盛り上がりました。





## 5. 2 宮良小学校

調査日	2013 年 2 月 5 日
調査地点	宮良小学校
調査協力者	小浜美佐子（校長）
調査者	村上呂里、大城貞俊、中本謙

### 総合学習「めえらふあ（宮良の子）プロジェクト」

本校では、教育目標の一つに「よく働き ふるさとを愛する子」を掲げている。校長としても「ふるさとを愛する子」を育てる取り組みの一環において、宮良言葉を大切にするように心がけている。校長自ら、婦人会の宮良の文化に関する学習会に参加し、学んでいる。地域学習においては、地域の方が、学校を大切にして協力を惜しまない。

その一つが、昨年取り組んだ総合学習「めえらふあ（宮良の子）プロジェクト」である。授業者の宮良綾乃教諭は、宮良出身である。

以下にその単元の概要をあげる。

○総合単元名 「めえらふあ（宮良の子）プロジェクト」

○対象：宮良小学校 3 年生

○授業者：宮良綾乃

○めざす子ども：宮良の良さを知り、宮良のことを大切にしようとする子ども。

○ねらい：自分が育った地域は、一生にわたって大きな精神的支えになるものである。それらを培ってきた先人の事や、地域に残る自然・文化を知ること、いつも感謝の気持ちを持ち、宮良地域を大切にしていこうとする心を育てる。

単元設定の理由：児童は、日常生活や学校教育活動の中で様々な人々と出会いながら成長している。その中で生活を支えている人々や、地域の人々に対して尊敬や感謝の気持ちをもって生活していくことは、児童が豊かな生活をしていくために大切なことである。そして、こうした人々と多く関わることで、宮良地域のことを良く知り、郷土を愛する心情が育つのではないかと考え、本単元を設定した。

月	意識の流れ	道徳	教科	特活	総合	日常生活・行事
4	昔、宮良に大きな津波があったんだ。			学活 明和の大津波 学校の誕生	われら探検隊 オリエンテーション	・明和の大津波の日 ・学校創立記念日
5		宮良村の戦争 3-(1) 生命尊重	社会 村たんけん 宮良絵地図 づくり	学活 平和について 考えよう	われら探検隊 宮良川のマン グループにつ いて調べよう	・村探検 ・平和集会
6	ここでも戦争はきたんだね。  村の中を探検する っておもしろいな	伝統を受け継ぐ 4-(5) 郷土愛	音楽 うねぬやジ ラバ(鼓笛)	学活 運動会 スローガン		・われら探検隊 (川下り) ・豊年祭 ・お盆 (イタスキバラ)
7	マングローブについてわかったよ。		国語 私たちの 学校行事			・運動会 ・(結願祭)
8	鼓笛での「うねぬや ジラバ」も弾けるよ うになったよ。					
9	宮良はこんなふう にできたんだ。	郷土を愛した人々(本時) 4-(5) 郷土愛 二人の兄弟の業績を通して郷土を見つめ、郷土のためにつく すことのすばらしさに気付く心を育てる。				・読書月間
10	宮良の行事や方言 がだんだんわかっ てきたぞ。楽しいな	みんなが喜ぶと 自分も嬉しい 4-(2) 勤労	社会 買い物調べ 工場見学	学活 お世話にな っている人	宮良村の 歴史・文化 (方言) 宮良の行事 文化・方言 を学ぼう	・勤労感謝集会 ・学習発表会
11	黒糖づくりを成功 させよう。	身近な自然を大切に 3-(2) 自然愛	社会 昔の道具 とくらし			・黒糖づくり ・旧十六日祭
12	自分の地域を知る って楽しいんだね。				田植え	・鼓笛引き継ぎ式

この単元の学習発表会「わくわく めえら村」では、宮良の方言を学んだ場面も位置づけて発表した。その場面をあげる。

# 宮良の方言の場面

- ・ ななみ 今年、宮良婦人会から宮小っ子みんなにプレゼントされた「方言集」中を開いてみると、宮良の方言がいっぱいのっていて、とってもおもしろかったです。
- ・ うみ 総合の時間にも、この「方言集」を使って学習しました。
- ・ あんり 体の部分を、宮良の方言で言うと～（リズムを打つ係）  
（♪リズムにのりながら）
- ・ りゅう
 

頭	全員（ツブル）
かみの毛	全員（アカマズ）
目	全員（ミー）
耳	全員（ミン）
鼻	全員（パナ）
口	全員（フツ）
首	全員（ヌビ）
かた	全員（ガゼーラ）
わき	全員（マグジャ）
手	全員（ティー）
おへそ	全員（プツォーマ）
おなか	全員（パダ）
ひざ	全員（ツプス）
足	全員（パン）
- ・ りんか・ことね いつも英語で歌っている「ヘッド・ショルダー」の歌も、これらの方言で歌うようになりますよ。  
～音楽流れるので、合わせて歌う～
- ・ せいな・ななみ どうでしたか？おもしろかったですか？（方言で言う）  
楽しかった方言の授業。これをきっかけに宮良の色々な方言を習ってみたいと思いました。  
宮良婦人会のみなさん、シカイトゥミーファイユ  
（全員）シカイトゥ ミーファイユ

## フィナーレ（全体よびかけ）

\*全体の位置についてよびかけをする（音読シナリオ）  
Aパート（コール隊2） Bパート（コール隊1・3）

- ・ ななみ 気を付け 礼

「方言集」とは、平成 24 年度に宮良の婦人会が作成した冊子のことである。全家庭に配布され、今後どのように教育の場で活用するかが課題となっている。

## 課題・まとめ

竹富小中学校と同じく、校長先生自ら地域の言葉を積極的に学ぶ姿勢が、地域の方々との連携を支え、豊かな地域学習を創り出している。地域学習の中核を担う教諭が、宮良出身であることも重要な要素であろう。

総合単元「みえらのふぁ」では、年間を通して地域学習が教科横断的に構成されている。総合単元として展開されることによって、宮良言葉が、宮良の暮らし・文化・歴史・精神世界と一体となって学習されている。こうした暮らし・文化・歴史・精神世界と関連づけて言葉を学ぶ教科横断的なカリキュラムは、地域語学習の一つのモデルとなるだろう。

(文責：村上呂里)

## 5. 3 与那国小学校

調査日	2013 年 2 月 6 日
調査地点	与那国小学校
調査協力者	田原伊明（校長）、嶺井俊宏（教頭）
調査者	中本謙、大城貞俊

### 1. 方言による地域劇

与那国小学校では、年に一回 12 月に行われる学芸会で 5、6 年生が与那国の昔話や歴史を題材とした方言による地域劇に取り組んでいる。学芸会のはじめの挨拶は、一年生が方言ですとのことである。2011 年度は「田原川物語」、2012 年度は「女酋長サンアイソバ物語」を発表している（資料 1）。方言指導は、与那国出身である校長先生をはじめ、地域の方にも協力してもらいながら行っている。因みに女酋長サンアイソバの物語は、昨年の方言によるお話大会でも題材として用いられ、3 年生が八重山大会に出場している。

方言による地域劇は、地域の方からとても評判が良く、称讃を浴びるが、校長先生としては、方言の発音の間違い等も指摘してほしいとのことである。そのような評価をすることが本来の与那国方言の継承に繋がると考えている。

### 2. 校内放送

与那国小学校では、与那国の歴史や昔話の読みきかせを給食時間に校内放送で行ってい



る。校長先生が読み聞かせをすることもあれば、昔のお婆さんが話した昔話をCD化して放送することもあるという。例えば「ハイドナン伝説」等がある。

子どもたちは、はじめは何だか分からず、「お経みたい」といっていたそうである。しかし、意味を教えて繰り返し流しているうちに理解できるようになってきたとのことである。放送は、外にも流れ、近隣の人々も懐かしがって喜んでいるという。

### 3. カルタの作成

与那国方言のカルタを作成し2013年の新春のお楽しみ会で行っている。各学年に配布して日常的に使えるようにしているとのことである（資料2）。地域の方からは表現の違い等の指摘がなされたという。

### 4. 替え歌の作成

沖縄テレビ放送の番組「ゆがふうふう」で流れるウチナーグチ数え歌「おおきなわ」の与那国方言バージョンを作成し、3、4年生21名が2013年2月初旬に開催された八重山地区の音楽祭で発表した。CD化したらどうかという提案も出されているとのことである。調査中に子供たち3名が、目の前で振り付けをしながら元気に歌ってくれた。

### 課題・まとめ

校長の田原先生は、方言が失われていくのを目の当たりにし、「何とかしなければならぬいし、文化だから継承したい」という思いがあるという。現状として、老年層でさえもすぐに方言が出てこなくなっているとのことである。

現在、授業で方言を扱ってはいないが、総合的な学習の時間を使って地元の民謡を習わせたりしたいとのことである。

与那国小学校の生徒は、両親ともに与那国出身者は少なく、3世代での同居も少ないので、日常的に与那国の方言を耳にする機会はほとんどないという。そのため、イントネーションも含め正確な発音が課題とのことである。与那国のことばには、「か」の音が2種類（喉頭化音  $k^h a$  と非喉頭化音  $ka$ ）ある等、共通語にはない音韻もあるので、正確に継承していきたいとのことである。

（文責 中本謙）

資料 1

2011年度 5.6年

田原川物語	
3の場面終了後 工事完成後に珍道中 アサッカティを真似て	
あさや	ヨイサー ヨイサー
あさや	<p>やっと、最後の工事が完成したぞー！            ハッ、タバル ミットゥヌ クウジヤ スーシ ウワリ アラーグナンギドゥアタン            スヤ            ナイガラヤ バラサルクトゥヤ ヌーン ミヌンキ ナイドィキルンティヤ</p> <p>俺のオジーをつれて、新しい川を見せに、散歩でもいこうかなー            バンタ ダーヌ アサ スイティ タバルミットゥヌ アランピンキカイシヒナガラ            ハルマイドゥ キラルルンディ ウムイブンガ</p> <p>よし、力持ち（真友の）の前黒島のれんに手伝ってもらおうー            トゥイシヤナラヌンガラ フチマティヌ レンキ タンディティ ヒラルルンディ            ドゥ イシブル</p> <p>おーい！ 前黒島のれーん！ 俺のオジーを連れてきてくれないかー            オーイ！ フチマティヌ レーン バンタダーヌ アサ カイシワインニヤー</p> <p>はやく はやくー タイグドォー レーン タイグドォー            こっちだ、こっちだー クマドォー レーン クマンキカイシワレー</p> <p>（れんはミニカーをひいて登場 オジーはミニカーに乗って登場）            おー！！ おれは、そんなにひまじゃないけど・・・            ウー！            ケダムタヌアサヤ アヌヤ イチン ヒマンディドゥ ウムイブルスゥヤ</p>
あさや	<p>今日は工事が完成したので、少し、村の中を歩いてみよう！            スーヤ タバルミットゥヌ クウジガ シマインキナイシ バンタダーヌ アサンキ            タバルミットゥヌ ハルンタ ンナリドゥ キラルルンディ ウムイティヨー            れん、頼むどー            タンディ レン タシキヒリヨー</p>
れん	きついなー。 おれはできない。 ハーッ？ ナンギ アヌヤ ナラヌン
あさや	<p>そんなこというな。 終わったら おさけいっぱいのみすからよ。            ンニィ ンドゥナ アトゥガラ サギティ マーシク ヌマミルンガラユー</p>

れん	<p>二人で車を引いて歩きだす</p> <p>オジー、ここは『カンタブル』 水が冷たくて、夏は足を洗っていた所どー</p> <p>アサー、クマヤ カンタブルドォー</p> <p>ミンヤ ヒチンタティティ ナチヌバスヤ ティハン アライブタルトゥグルドゥー</p>
じいさん	<p>ウーッ</p>
れん	<p>オジー、ここは『アンガイハマティ』 小さな浜があって船の荷揚げをしていた所どー なつかしーなー</p> <p>アサー クマヤ アンガイハマティドゥー</p> <p>グマタティヌ ハマガアイティン フニヌニンタ ウルシブタルトゥグルドゥー</p>
じいさん	<p>ウーッ</p>
れん	<p>オジー、ここは『ながやま』 川の中の離れ島だった所どー 今ではすっかり、陸続きだなー (ながやまおたけ)</p> <p>アサー クマヤ ナガヤマドゥ ミットゥヌ ナガヌ チマドゥ アタルンガ</p> <p>ナイヤ ミットゥヌ クウジキティ アイティティヒラリルンドォー</p>
じいさん	<p>ウーッ</p>
れん	<p>オジー、ここは『バンニヌユ』 大浜当行様が川の流れをよく観察しにきていた場所どー</p> <p>アサー クマヤ バンニヌユドゥ クマガラヤ アランピタァ スナイムランタァ</p> <p>ブール ンナリルンドォー</p>
じいさん	<p>ウーッ</p>
	<p>オジー、ここは未来の『島仲村』</p> <p>アサー クマヤ ナイガラ ンマナガムラキドゥ ナルンディドォー</p> <p>埋め立てして土地が広がったおかげで、ティンダバナの上に住んでいた島仲村の住人は、ここに移り住むことができたんだって</p> <p>ミットゥヌクウジキティ ベンリンキィナイドキルンガラ ンマナガムラヌトゥガ</p> <p>ブール テゥンダヌウイガラ クマンキ クンディドゥンドゥンスヤ スナイムラヤ</p> <p>マイサルムランキィ ナルンドォー</p>
れん	<p>オジー、ここは、『島仲橋』 たしか、百年後にはリバーサイドと名がつくほどいい土地になっているさー！</p> <p>アサー クマヤハチガ カガイティ ンマナガバチンデドゥ ナイブル</p> <p>バンター クー マグゥヌダイニヤ サギティンタヌミ ウタタキティ ウドゥイ</p> <p>アンブトゥグルドォー</p>

あさや	カラオケか〜 いいな〜 ♪ながやま♪
れん	オジー、十山御嶽についたどー 工事の完成を祝って、みんな盛り上がってるねー アサー トゥヤマウガンドォー タバルミットツヌアランピガデギティ プールシ ダイドーキブル 俺達も盛り上がるとするかー バンタバギン カマンキイティティ ダイキルンドー オジー行くぞー！ アサー ヒルンドー  ♪くどうぎ♪ (バックミュージック) → ナレーター

平成24年度 与那国小学校 学芸会  
高学年（5・6年生）劇シナリオ

## 女酋長 サンアイ イソバ 物語



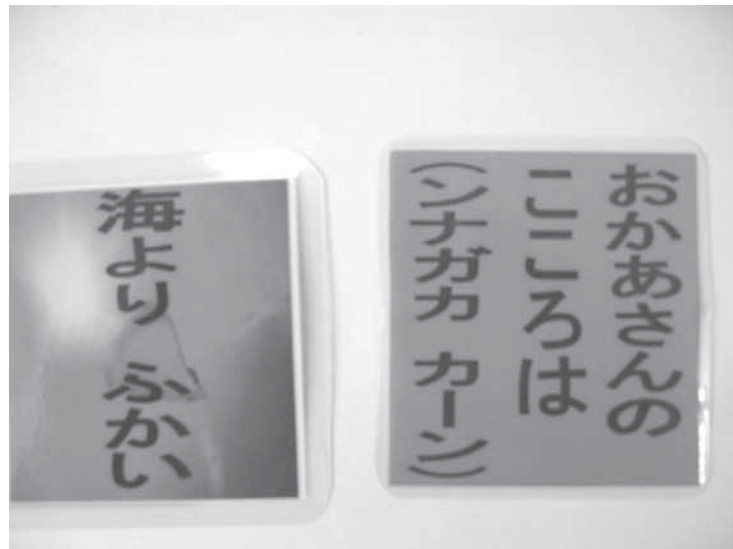
与那国小学校	年 番
名 前	



## サンアイ イソバ 物語

役割	「 」:セリフ ～:人物の出入りしかた ※行動	備考
ナレーター (りお)	<p>～ サンアイ イソバの紹介編 (第一部) ～</p> <p>「今から約500年ぐらい前のお話です。サンアイの木 (ガジュマルの木) がたくさん植えてある村があり、その村はサンアイ村と呼ばれていました。その村を守っていたのが、サンアイ イソバです。サンアイ イソバは体が大きく、力も強く、知恵もある女酋長でした。」</p> <p>～イソバの兄弟4人登場～</p> <p>※クワを持ち登場し舞台の中央で仕事のような事をする。</p>	<p>BGM ( )</p> <p>スクリーンに映像を流す</p> <p>(現在のサンアイ村)</p>
弟① (なつき)	「もう少しで、田んぼができるぞ。」	BGM (若船ディラバ)
弟② (しゅん)	「ここに、村ができるのか。」	
弟③ (ひな)	「村の人が、豊かで幸せに暮らせるようにしなければ。」	
弟④ (りゅうすけ)	「この島は水が豊富で米作りにも適している。」	
弟① (なつき)	「周りを海に囲まれ、魚もたくさんとれる。」	
弟② (しゅん)	「しかし、海賊にもねらわれやすい島だ。」	
弟③ (ひな)	「大丈夫だよ。みんなで協力して、島を守っていこう。」	
弟④ (りゅうすけ)	「そうだ、僕たちには力持ちで、頭のいい、サンアイ イソバがついている。」	
弟全員	「そうだ、この島にはサンアイ イソバがついている。」	
イソバ (みく)	<p>～ サンアイ イソバ登場 ～</p> <p>「さあ、村ができたぞ。ここはダティグ村だ。」</p> <p>「この村は島の東側にあつて、船の行き来を監視することができる、大事な村だ。」</p> <p>「ダティグ村はお前が阿司として村を大切に守ってくれ。」</p>	
弟① (なつき)	「はい、まかせてください。しっかりと村人達を守ります。」	
イソバ (みく)	<p>「弟達よ、ダティグ村・ドゥナンバラ村・ダンヌ村・ティバル村、それぞれの村をしっかりと頼むぞ。」</p> <p>「兄弟みんなで力を合わせて、この島を守ろう」</p>	
弟全員	「はい、村人が安心して暮らせるように、みんなで力を合わせてがんばろう。」	
ナレーター (りお)	<p>～弟達退場～</p> <p>「サンアイ イソバは島の東の方にドゥナンバラ ダティグ村を作り、西の方にはダンヌ村・ティバル村を作って4人の兄弟を阿司として配置し、村を守らせました。」</p>	

資料 2



## おわりに

今回の調査で感じたことは、どこの学校も、郷土に対する愛着がとても強いということである。それぞれ、方言の継承・保存に係る取り組み方の違いはあるが、地域の文化に誇りを持たせ、継承させていきたいという思いは、ひしひしと伝わってきた。そして、それは、方言の指導者である地域の人々との交流に繋がり、お年寄りを敬い、思いやる心をも育んでいるのである。

学校現場の現状に鑑みると、学力向上の問題等もあり、なかなか方言を取り扱う時間を増やすのは難しいかもしれない。しかし、与論小学校のように方言の授業を教育課程の中に組み込んで毎月1回実施し、学力も鹿児島県で上位を保っている学校もあった。今後、学校教育の中で方言を取り扱いたいという学校が増えてくる可能性もあるが、そこには少なからず課題もあるようだ。例えば、今回の調査で見えてきたのは、やはり方言を指導できる教員が少ないということ、そして方言を覚えても使う場がなく、その場かぎりになってしまうこと等があげられる。また、地域によっては、近隣の集落との方言差があり、どの方言を扱うか問題となってしまうこともあるということである。

このようにいくつか課題はあるが、方言を学び、継承していくことのメリットは大きく、郷土を大切にする心を育み、文化の継承等にも関わっている。国語科教育的な側面からみても、古典文学等との関わりも深く、何よりも方言を知るということは、共通語との比較に繋がり、より豊かで鋭敏な言語感覚を養うことにもなるのではないかと考えられる。

今後、学校において新たにどのような方言の継承・保存に係る取り組みがなされるのか、楽しみである。

### 謝辞

今回、急な依頼にもかかわらず、お忙しい中、調査をお引き受け下さった学校関係の皆様は心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 保育園・幼稚園における取組

石原昌英



# 保育園・幼稚園における取組

石原昌英

## 1. はじめに

本章では、保育園及び幼稚園における取組について述べる。調査の対象としたのは宮古島市西原在のひよどり保育園（インタビュー調査）と那覇市立幼稚園（アンケート調査）である。

## 2. ひよどり保育園での取組

ひよどり保育園は、筆者のインターネット検索によりその活動を知った<sup>1</sup>。現地において、花城千枝子園長にインタビューをして、その活動について伺った。花城によると、宮古島市西原は近隣の池間島からの移住者の子孫が多く、池間島方言が話されているようである。保育園児はほとんどが宮古島市西原で生活しているが、両親は地域の方言が話せない。祖父母が方言を話すと、子どもは「英語を話しているみたい」と反応することがあるようである。

ひよどり保育園の取組で注目されるのは、大学の言語研究者の支援を受けて、地域で話されている池間島方言を使った音声 CD 付の方言絵本『カナルおばーぬゆがたい みまむいぶすぬはなす<sup>2</sup>』（作話 花城千枝子）を 2011 年 3 月に制作し、それを保育園児への読み聞かせに活用していることである。花城は絵本の前文で次のように述べている。

昭和 30 年代までの西原の日常語は方言でした。現在、50 歳以上の祖父母の日常語は、標準語と方言の二言語です。若くなるにつれて方言が使える人は減少し、幼児や小・中学生は標準語の一言語だけが日常語となっています。（中略）車田千種さんが来園されましたので、助言をお願いしたところ、この村ならではの意味合いの「三世代二言語」、方言と標準語による子育てを助言していただきました。（p.1）

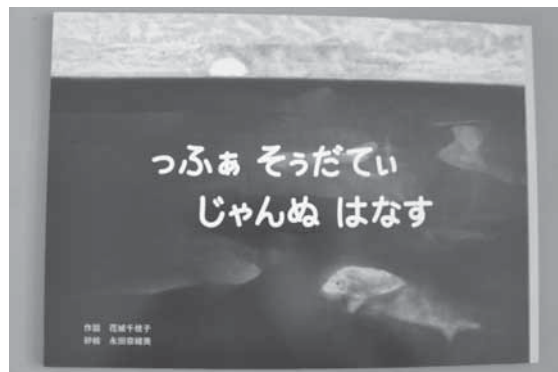
つまり、祖父母・父母だけではなく、子どもも方言と標準語の二言語話者となることを子育ての目標とするということである。そのためには、父母世代が話せるようにならなければならない。この方言絵本と 2012 年 12 月に発刊された CD 付方言絵本『つふあ そうだてい じゃんぬ はなす<sup>3</sup>』（作話 花城千枝子）が契機となって、「三世代二言語」教育が

<sup>1</sup>ひよどり保育園は、財団法人奄美文化財団が管理している WEB ページ「方言ってなんだろう？地域の言葉を調べてみよう！方言から学ぶ文化多様性」（<http://hougen.gakushu.net/index.html>）の「未来に伝えたい言葉 方言ムービー」の宮古方言編で紹介されている。

<sup>2</sup>日本語訳は、『カナルおばーのゆがたい 見守り星の話』である。

<sup>3</sup>日本語訳は、『子育てジュゴンの話』である。

進展することが期待される。



花城によると、方言絵本の読み聞かせが始まると、保育園児は保育士の方によってきて、真剣に話を聞くようである。保育士も聞けるけど話せない者が多かったが、取組を通してだんだんと話せるようになってきているらしい。沖縄県内及び奄美地区での保育園での取組については調査を実施していないが、ひよどり保育園での効果を考えると、方言絵本（紙芝居）を使った読み聞かせは効果的な取組であると言えそうである。

### 3. 那覇市立幼稚園での取組

次にアンケート調査及びメールによるインタビュー調査をもとに那覇市立幼稚園における取組について述べる。那覇市立幼稚園 35 園にアンケートを送付し、20 園から回答があった（回収率 57%）。アンケート調査の結果は次の通りである<sup>4</sup>。

---

<sup>4</sup>アンケートの質問項目は下記の通りであった。

- 1) 貴幼稚園では、地域の言語（方言）を取り入れた活動を実施していますか。  
過去に実施したことがある・（現在）実施している場合
- 2) その内容（選択肢）。
- 3) 定期的に教えているとしたら、その頻度は。
- 4) 誰が幼稚園児に地域の言語を教えているのですか。（複数回答可）
- 5) どのような教材（テキスト）を使っていますか。
- 6) 幼稚園児・保護者の反応はどうですか。
- 7) 地域言語を取り入れた活動について何か課題・要望はございますか。  
（現在は）実施していない場合
- 8) その理由は何ですか。（複数回答可）
- 9) 上記について、教える人、教材等の紹介・提供があれば、実施を検討いたしますか。

まず、幼稚園で地域の言語（方言）を取り入れた活動を実施しているかどうか聞いた。20園のうち18園が「現在実施している」と回答し、過去に実施したことがあると回答したのが1園、現在も過去も実施していないと回答したのが1園であった。回答した幼稚園の9割が方言を取り入れて活動を現在行っているので、幼稚園での活動は活発であると言える。

次に、活動の内容を選択肢（複数回答可）で聞いた。回答結果は下記の通りである。

生活発表会等で教える。（11園）

紙芝居・絵本の読み聞かせをする。（10園）

カルタであそぶ。（6園）

図書館に方言で書かれた絵本を置いている。（7園）

方言の唄を歌う。（15園）

ゲームをする。（7園）

方言で挨拶をする。（14園）

その他（4園）

最も多いのが「方言の唄を歌う」で、「方言で挨拶をする」「生活発表会等で教える」「紙芝居・絵本の読み聞かせをする」が続いている。その他には、方言ラジオ体操をしている幼稚園もある。生活発表会では、高良幼稚園のように方言劇を上演している幼稚園もある。高良幼稚園の平成24年度生活発表会の資料「たからようちえん せいかつはっぴょうかい」によると方言劇「がーなむいのゆらい」（がーな森の由来）について次の記述がある<sup>5</sup>。

ねらい

- ・ 地域の伝統文化に興味関心を持ち、郷土愛を育む。
- ・ 沖縄語（ウチナーグチ）の面白さと楽しさを知り、園生活に活用する。

子ども達の姿

- ・ 個々の興味関心度の差があったが、みんなで劇の演出を考え出し合っていく過程で身近なものとなり、役を通して「がーなむいの由来」が地域にあることに対して誇りを持つようになってきた。
- ・ 沖縄語（ウチナーグチ）が園生活の中で自然に活用されている。（挨拶・喜びの表現）

先生達の思い

- ・ 郷土や地域に誇りを持ち、郷土愛を育み、自信を持たせたい。

---

<sup>5</sup>高良幼稚園では、園児の母親達の協力により、この劇を題材に大型紙芝居を作成したようである。

- ・ 自信を持って、伸び伸びと表現できる子になってほしい。
- ・ 沖縄語（ウチナーグチ）を心から愛し、生活の中で使ってほしい。

方言劇を通して、郷土の文化とことばに対して興味をもって欲しいとのねらいに対して、子ども達は、日常の挨拶に使うようになってきているようである。後述のように、このような行動について、保護者は好意的に見ている。高良幼稚園では、主任教諭が熱心に取り組み、地域の高齢者も協力的である。同幼稚園での取組をみると、幼稚園児に方言劇を指導することは、地域のことばに対して関心を持たせることに効果がありそうである。

活動の頻度は、次の通りである。毎日行っているのは1園、週2回が1園、月1回が3園、月2回が3園、年2回が1園、年5回が2園であった（無回答が4園あった）。頻度からすると、活動は活発とは言えない。

次に、だれが方言を教えているのかを聞いたが、結果は次の通りである。話せる先生が教えている幼稚園が9園、地域のお年寄りが教えているのが3園であった。他には、つぎのような回答があった。

- ボランティアの島くとうばの先生による指導
- ウチナーグチ普及協会（「沖縄語普及協議会」【筆者】）の3名の先生、ラジオ沖縄の方言ニュースキャスター伊狩典子先生から月1回ご指導を受けています。
- 担任が、自分達が教わってきた方言を伝えている。
- わらべうた、テレビからの沖縄のうた

話せる先生が教えている幼稚園が9園もあるが、その中に20～40歳代の先生がいるのかは気になるところである。

次に、教材（テキスト）について自由記述方式で聞いたが、以下の回答があった。

- 沖縄の絵本・CD・テープ等
- 絵カード
- ボランティアの先生がリトミックを取り入れながら指導し、園では、手作りのカード（うちなーぐち）を準備している。
- 園から幼児の生活に応じた内容をお願いしています。（年間カリキュラムを作成中です。）
- 手作りのカット集
- 特になし（昔話を方言で演じる、食前食後のあいさつ等）
- 特にない（手作りのペーパーサート）
- 教材は特にないですが踊りのたびに民謡は耳にしています。

- 「おきなわのわらべうた AB」、手作り教材（動物や野菜のイラスト等）
- うちなーぐち絵本、わらべうたの本など
- わらべうたの本
- フラッシュカード、音楽教材
- うたの CD

教材については、CD 等を除いては、教材を手作りしている。絵本やわらべ唄の本も利用しているという回答が3園からあった。ここから、印刷された教材（絵本・紙芝居等）が少ないということが推測される。

次に、幼稚園児とその保護者の反応を自由記述方式で聞いた。以下の回答があった。

- 園児も喜んで使う、保護者の反応もよい
- 家庭での食事前に、方言で言うことがあり、おどろいたようです
- 子ども達においては覚えるのが早く、日常生活において方言を使う姿がみられる。発表会で披露したときは保護者からすばらしいと好評でした。しかし、本園は県外からの転勤族が多く、その方達（保護者）の多くはあまり関心を示していません。
- お招き会や集会などで沖縄の歌（「ていんさぐぬ花」や「ちんぬくじゅーしー」）を披露し好評である。
- 最初の頃は意味がわからず退屈そうであったが、指導者や幼稚園教諭と話し合い身近な物からウチナーグチを取り入れることにした。また、紙芝居や大型絵本を利用してウチナーグチの楽しさを伝えた。保護者、地域からの反応がよくなってきた。もちろん園児達も生活の中で自然に使うようになってきた。
- とても喜んで参加している。
- 保護者の方は喜んでくださっている。園児は自然に取り入れている。
- 「教える」意識を持たず「使う」ことを中心に実践しているためか、幼児も保護者も喜んでいる。幼児は沖縄のことばに愛着を感じてくれ、日常的に「黄金言葉<sup>6</sup>」を大切なことばとして認識しているようです。
- 楽しく参加している
- 朝の挨拶で使っているが園児には定着し、自然に言えるようになった。
- 保護者にもとても評判は良い。
- 園児はとても興味を示して、わらべうたを口ずさんだり、おやつや弁当の時おもしろ出したようにあいさつで使ったりしている。

---

<sup>6</sup>（くがにくとうば：ことわざ、格言、金言）



- 喜んで、活動にとりくんでいる。
- 「知っている」「聞いたことある」等と、子どもたちの反応は高いように思われる。
- 忘れやすい、意味を理解させにくい。
- 方言に親しんでいる。
- とても喜び、興味を示している。

「わすれやすい、意味を理解させにくい。」という反応を除いては、ほとんどの幼稚園の取組について幼稚園児及び保護者は好意的な反応を示しているようである。アンケート回答では記述されていないが、幼稚園児が方言を使うことによって、保護者だけで無く祖父母も喜んでいるであろうことが推測される。

次に、方言を取り入れた活動に関する課題・要望について自由記述方式で聞いた。下記の回答があった。

- うちなあ口に関する適当な教材が少ないこと
- 職員が方言を話せないで、まずは、職員から勉強しなくては
- 方言に関しては、小学校との連携がなく活動が幼稚園修了とともにとぎれてしまっている。
- 教師向け講座等あれば、教師も自信をもって子ども達に教えることができると思う。
- 特に悩んだのは！！どの地域の方言を学校では教えたらよいかです。那覇市内は他地域からの移住者が多く、自分の地域の言葉に誇りを持っているから。先生方も糸満・八重山・宮古・那覇・南風原出身で困った。
- 教えてくれる人の人材不足
- 正しい方言を使える職員がいないので地域の方、家族に教えてもらっている。
- 課題・親世代が話せない、又学級担任、主任さえ話せないのが実態である。対応策として、今は園児が方言に興味、関心が持てるように生活や遊びの場面で方言が使える者（人）がその役割を果たすべきだと自覚し実践している。
- 教師自身の方言のスキルがないため、自信を持って園児へ伝えることができません。専任の先生の派遣による園児への直接の御指導と教師への講習会などをしていただけるとありがたいです。
- わらべうたや単語等の CD（音源）があるとよい。（方言を話せる職員がいらない為、子どもたちに伝えようと思ってもイントネーションが違っていたりするので。）
- うちなーぐちのスペシャリストなどを募集し、子どもたちに指導してくださる方がいればよい。（昨年まで教えて下さっていた地域の方が体調不良で今年度は指導してもらっていない状況です。）

- 職員も方言を話せる者がいないので発表会等の時には、職員の家族に聞きとりしたりインターネットを利用して調べた。
- 幼児、小学生向けの方言の解説本（マンガ）があるといいです。
- 保育者があまり（ほとんど）方言を知らないので学ぶ機会があると良いと思う。
- なかなか定着しない
- お年寄りとの自然な交流の中から方言に親しめるような環境づくりをしていきたい。
- 教師が話せない。教材がない。地域によって方言もちがう。
- ふだんの保育の中で、地域言語を取り入れる場面は多いが、話せる先生（特に若者）がいない

まとめると、講師養成と教材作成が主な課題であると言える。幼稚園教諭の多くが方言を話せないので、自信を持って教えることができない。また、保護者も話せないので、幼稚園児が家庭で方言を使う機会がない。このような課題の解決策の一つが、地域の高齢者が幼稚園での活動に積極的に参加することである。しかし、より確実な方策は、幼稚園教諭や保護者を対象とした方言講座等を開設し、基本的なことばを教えるようにすることであろう。もう一つの課題は、教材が不足していることである。前節で述べたひよどり保育園での CD 付きの方言絵本のような教材を作ることができれば、それを活用した効果的な指導ができると考えられる。しかし、そのためには、公的・私的な支援が必要であろう。また、教材を作るために、方言話者と幼稚園教諭が、何をどのように作るのかを協議することが望ましい。

他には、幼稚園と小学校の連携という課題と方言の多様性から派生する課題がある。幼稚園としては、幼稚園での指導で培われた地域のことばや文化への興味関心が、小学校でも持続されることを望んでいる。小学校での取組がなければ、そのような興味関心は途絶えてしまうことになる。従って、幼稚園と小学校の連携は、危機的な状況にある方言の保存・継承の観点から重要な課題である。また、どの方言を教えるのかについては、基本的には、幼稚園が立地している地域の方言を教えることであろう。前節で述べたひよどり保育園は、池間島からの移住者の子孫が多く、池間方言が話されている地域に立地しているので、方言絵本でも池間方言が使われている。那覇市においては、宮古島市西原のように一地域からの移住者の子孫が集住し、移住者の故郷のことばが圧倒的に話されている地域は存在しないであろう。もしそうであれば、校区で話されている方言を教えればいいであろう。しかし、那覇市は他地域からの移住者が多く、言語的多様性に富んでいることは事実であるので、方言の多様性を肯定的にとらえ、移住者のことばを否定したり、蔑視したりすることがないようにしなければならない。

#### 4. おわりに

本章で述べたように、危機的な状況にある方言の保存・継承に向けた取組は、保育園・幼稚園から始めることが可能である。子ども達の多くは、まだ読み書きができないであろうが、方言絵本・紙芝居等を読み聞かせること、地域の童唄などを教えること、方言劇で指導することなどを通して、地域で継承されてきたことばと文化に対する興味関心を養うことは可能であろう。また、方言の挨拶を教えることも、日常生活で方言を使うことに意識を持たせることに有効かも知れない。これらの取組を通して、子ども達が地域におけることばの多様性に気づき、地域の方言や文化に誇りを持つようにしたいというのが、保育園・幼稚園の先生方の希望である。

このような取組が継続されるためには、人材の養成と教材（絵本・紙芝居、CD・DVD等）の作成が必要である。人材養成については、先生や保護者を対象とした方言講座や方言勉強会を開設することも一つの方策となる。第4章で述べるように、そのような講座に講師を派遣するNPO団体があるので、より効果的な取組・活動ができるように保育園・幼稚園とNPO団体が連携することも必要であろう。教材作成についても、NPO団体や地域のお年寄りと協働で、地域の昔話や童唄を教材にすることもできるし、子ども達がよく知っている日本の昔話や童謡を地域のことばに訳して教材にすることもできる。教材については、ひよどり保育園で使われている方言絵本や第4章で紹介しているかごしま地域文化創造事業奄美地区実行委員会が作成した『島唄から学ぶ奄美のことば』が参考となるだろう。

# 行政機関、NP0 法人、マスコミ等での取組

石 原 昌 英

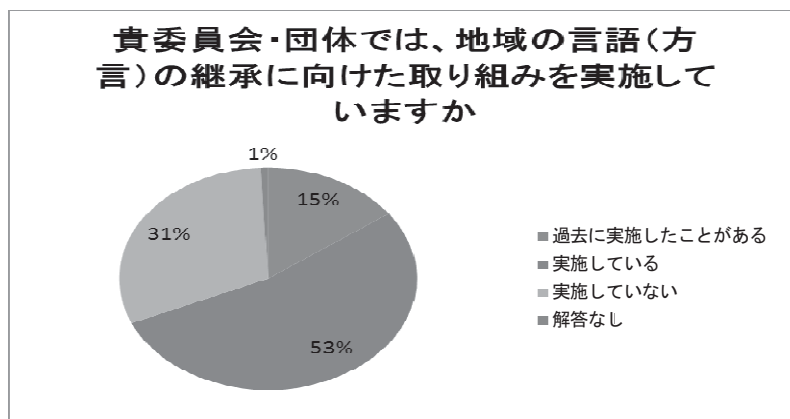
## 1. はじめに

本章では、危機的な状況にある方言の保存・継承に係る取組を実施している可能性のある組織・団体等を対象に実施したアンケート調査とインタビュー調査の結果に加えて文献調査及びインターネット調査の結果に基づいて、琉球諸島及び奄美群島の地域方言の保存・継承について、どのような取組が行われているのかを述べる<sup>1</sup>。

## 2. アンケート調査回答結果について【概要】

アンケート調査の対象は、教育委員会、文化協会、図書館、公民館、沖縄芝居劇団、マスコミ、NPO 法人等の 306 件で、131 件の回答（回収率 43%）があった。本節では、アンケート回答をもとに、危機的な状況にある方言を保存・継承する取組について、その概要を述べる<sup>2</sup>。

まず、地域の方言を保存・継承する取組を実施しているかどうかを聞いた。回答結果は下記の通りである。



<sup>1</sup>本章では、沖縄で話されていることばについて、「沖縄語」「沖縄方言」「ウチナーグチ」「うちなあぐち」「しまくとぅば」「琉球諸語」などの用語を使っている。基本的には「沖縄方言」を使うが、アンケートの回答や参考とした資料に「沖縄方言」以外の用語が使われている場合に、その用語を使うことにする。

<sup>2</sup>アンケートの質問項目は下記の通りであった。

1) 地域の言語（方言）の保存・継承に向けた取組を実施しているか。

現在実施しているとしたら

2) その内容 3) 定期的な取組としたら、その頻度 4) どのような教材（テキスト）を使っているか 5) 課題・要望は何か。

現在は実施していない場合

6) その理由はなにか 7) 教える人、教材等の紹介・提供があれば、実施を検討するか。

なお、本章の最後にアンケート調査の自由記述回答が列挙されている。



現在、取組を実施していると回答したのが53%で、過去に実施したことがある（が現在は実施していない）と回答したのが15%で、（現在も過去も）実施していないと答えたのが31%であった<sup>3</sup>。

次に、自由記述方式で教材について聞いた。教材については、一部で市販の書籍やカルタ・紙芝居（自作）を用いている場合はあるが、ほとんどが特に教材を指定しているわけではなく、講師が自前で作ったプリントを使ったり、図書館やNPO団体から借りたりしているようである。なお、沖縄芝居の台本が教材として使われることもある。

取組に関する課題・要望についても自由記述方式で聞いたが、課題や要望をまとめると次のようになる。

- 1) 活動資金・講師が不足している。
- 2) 教材（DVD・テキスト）の作成を支援してほしい。
- 3) 教材・指導案・指導方法、記録保存、知識の啓蒙等で、大学の専門家の協力が必要である。
- 4) 地域によってことばが異なるため、どの地域のことばを教えるのかが問題となる。
- 5) 若者が方言を保存・継承するための取組に積極的に参加しない。
- 6) 学校教育との連携が必要である。
- 7) 沖縄芝居などの地域文化に対する関心が高まってほしい。

ここから見てくるのは、行政や教育機関からの支援や協力がなかなか得られないという状況下で、方言の衰退を懸念している高齢者が、方言を残そうと尽力しているが、継承する立場にある若者が関心を持っていないという構図である。このような状況が続けば、方言の保存・継承に向けた取組を実施する者がいなくなり、方言の衰退が急速に進むであろうことが予測される。また、奄美・琉球諸島は言語的多様性に富み、地域により方言が異なるので、どの方言を教えればいいのか悩んでいるようである。

現在、取組を実施していないという回答に対して、その理由を自由記述形式で聞いた。主な理由は下記の通りである<sup>4</sup>。

- 1) 予算・人材が不足している。

---

<sup>3</sup>具体的な取組の内容等については第3節以降で述べる。

<sup>4</sup>「実施しない理由」とは言えないが、住民の言語意識に関する次の記述もあった。

- 1) 住民の多くが地域外（県外）の出身者が多いので、地域のことばに対する愛着があまりないのではないか。
- 2) 住民が方言などの重要性を一般的に認識していないのではないか。
- 3) 親や子どものまわりの大人が方言を知らなくて、方言を使わず共通語で接しているので、子どもたちが方言に接する機会がないのではないか。

- 2) 地域の方言が消滅するという危機感がない。
- 3) 住民からの要望がないので、必要性がない。

なお、これらの理由については、何らかの対策を施すことで改善することは可能である。予算については公的な補助が必要と思われるが、受講料を課すことも検討する必要があるだろう。英語などの外国語を、独学ではなく、英会話学校等で習う場合、無料で習うということはほとんどない。方言の習得も「外国語学習」としてみなすというような発想の転換が必要になってくるかもしれない。また、人材については、言語教育の専門家の協力を仰いで講師を養成する必要がある。方言の話者が高齢化して、講師のなり手が減少しているということもアンケートで指摘されているので、いかにして若手の講師を養成するのが検討される必要がある。次に、危機感がないということについては、八丈町のように専門家による住民対象の講演会を開催することで、現状を認識する機会を与えることができる。また、沖縄県内の地方紙は、県内で話されている方言に関して積極的に取り上げているが、新聞記事を通して現状を認識する機会を与えることができる。このような取組を通して、地域の方言を学びたいという方向に住民の意識を変えることができるなら、住民からの要望が高まり、取組の必要性がでてくるとと思われる。

現在取組を実施していないと回答した団体に、講師や教材の紹介・提供があれば、方言講座などの取組を実施することを検討するかと聞いたところ、42%が「検討する」、8%が「検討しない」と答え、50%は無回答であった。

### 3. 行政組織・教育委員会などの取り組み

本節では、行政組織（県及び市町村）と教育委員会などの公的な組織の取組について述べる。沖縄県では、平成18年3月31日に9月18日を「しまくとうばの日」と定め、沖縄県内で受け継がれてきた地域のことば（「しまくとうば」）の保存・継承に取り組むことを宣言した。なぜ、9月18日かというと、沖縄方言で「ことば」は「くとうば」であるが、「918」を沖縄方言で発音すると「くとうば」となるので、語呂合わせで9月18日を「しまくとうばの日」としたのである。

わずか3条から成る条例であるが、しまくとうばと文化の関係を認識したうえで、その継承の重要性を理解し、地域の方言の普及・促進      言い換えると、保存・継承      に全県的に取り組むことが謳われている。

しまくとうばの日に関する条例

平成18年3月31日  
条例第35号

しまくとうばの日に関する条例をここに公布する。

しまくとうばの日に関する条例

(趣旨)

第1条 県内各地域において世代を越えて受け継がれてきたしまくとうばは、本県文化の基層であり、しまくとうばを次世代へ継承していくことが重要であることにかんがみ、県民のしまくとうばに対する関心と理解を深め、もってしまくとうばの普及の促進を図るため、しまくとうばの日を設ける。

(しまくとうばの日)

第2条 しまくとうばの日は、9月18日とする。

(事業)

第3条 県は、しまくとうばの日の啓発に努めるとともに、その日を中心としてしまくとうばの普及促進のための事業を行うものとする。

2 県は、市町村及び関係団体に対し、しまくとうばの普及促進のための事業が行われるよう協力を求めるものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

沖縄方言の「しま」には「(地理的な) 島」という意味だけではなく「地域」という意味もあり、「しまくとうば」とは「沖縄県の島々のことば」という意味だけではなく「地域のことば」という意味も含んでいる。したがって、「しまくとうばの日」は条例第1条にあるように「県内各地域において世代を越えて受け継がれてきたしまくとうば」の保存・継承を謳ったものであり、首里方言や那覇方言のような「有力」な方言を普及しようというものではない。沖縄島及び周辺離島、宮古島及び周辺離島、石垣島及び周辺離島、与那国島は島によって言葉が異なり、同じ島内でも地域によって言葉が異なると言われている。しまの言葉の普及促進を謳った「しまくとうばの日に関する条例」は、このような言語的多様性を肯定的に評価し、その多様性を保持するという意図が表明されていると言える。

平成18年9月18日の「しまくとうばの日」を記念してしまくとうばによる喜劇『ウチナーグチ万歳』(大城立裕作・幸喜良秀演出)が9月17日に上演された。内容は、「1879年の廃藩置県から戦後までの沖縄。皇民化教育下での標準語励行、伊波普猷らの一中ストライキ事件、柳宗悦らの方言論争、ハワイ移民、兵役、戦争など歴史的事件を通し、言葉の受難を体験した沖縄の人々のアイデンティティを見詰め直し「しまくとうば」にある「チムグクル」の大事さと呼び掛ける」(『琉球新報』2006年9月18日)ものであった。他にもシンポジウムや「しまくとうば語やびら大会」などのしまくとうばの普及を図ることを目的としたイベントが開催された。沖縄県文化協会主催による「しまくとうば語やびら大会」は平成18年以前から開催され、平成24年の大会は18回目であった。

平成18年以来、9月18日の「しまくとうばの日」の前後にはしまくとうばの保存・継承に関するシンポジウムが開催されている。例えば、平成21年には、9月18日に「しまくとうばの復権、再活性化に果たすメディアの役割」をテーマに、9月20日には「ウチナーグチマディンサツタルバスイ 『方

言札・標準語励行』で得たもの、失ったもの!」<sup>5</sup>をテーマとしたシンポジウムが開催された。また、平成24年9月15日には「『復帰』40年 沖縄をしまくとうばで語る」をテーマとしたシンポジウムがあった。「しまくとうばの日に関する条例」の第3条1項には、「県は、しまくとうばの日の啓発に努めるとともに、その日を中心としてしまくとうばの普及促進のための事業を行うものとする。」とあるが、上記のように、9月18日の「しまくとうばの日」は、毎年のように沖縄県民に地域のことばの保存・継承について考える機会を提供していると言える。

「第3次沖縄県文化振興計画」（平成20年3月）では、しまくとうばの重要性が次のように謳われている。

多様な「しまくとうば」は、郷土に対するアイデンティティを確立させるものであり、沖縄文化の根源となるものであるが、「しまくとうば」の語り手の減少など早急な記録調査や保存・継承が重要課題となっている。(p.10)

沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課では、このような認識に基づきしまくとうばの保存・継承にむけた取組を支援している。そのひとつが沖縄県文化振興会に委託して平成24年度から実施している「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」である。しまくとうばの保存・継承に関わる事業だけが支援対象ではないが、平成24年度の第1回及び第2回募集では次の事業への支援が決定されている<sup>6</sup>。

【団体名】 特定非営利法人アジアクラブ

【事業名】 琉球諸語の保存・継承に向けたネットワーク事業

【内 容】 協議会設立準備ワーキンググループを結成し、琉球諸語継承の認識・目的・目標の設定や取組手法、組織のあり方などの検討を実施。それらの検討事項の検証と継続事業に向けた取り組みとして「モデル事業」を計画・実施する。

【団体名】 沖縄童唄普及研究会

【事業名】 沖縄わらべ唄・島くとうば普及継承の人材育成・教材作成の為の市場調査事業

【内 容】 活動団体の一般社団法人化事業を遂行し、組織のアウトライン作成、団体PR事業を実施。わらべ唄、伝統行事ワークショップ等を実施し、伝統文化継承事業の基盤づくりに取り組む。

---

<sup>5</sup> 「ウチナーグチマディンサツタルバスイ」とは「沖縄語までやられてしまったのか」の意である。

<sup>6</sup> 沖縄文化振興会のウェブページ (<http://okicul-pr.jp/300/350/>) より抜粋した。なお、「琉球諸語の保存・継承に向けたネットワーク事業」については、その内容について第4節で詳述する。

- 【団体名】 特定非営利活動法人Okinawa Hands on NPO
- 【事業名】 シニアしまくとうば伝承伝言ポートフォリオ事業
- 【内 容】 沖縄本島にあるFMコミュニティラジオ局と連携し、琉球諸語であるしまくとうば（地域の訛り）の語り手の音と映像を、人生の軌跡としてポートフォリオ化することで、「わけあり、こだわり、その地域だけ」でしか学べない素材を収集する。これらをカスタマイズすることで、次世代ウチナーンチュのみならず、海外ウチナーンチュたちに沖縄の言葉に含まれるアイデンティティの伝承、普及を図る。

沖縄県が、しまくとうばの保存・継承にむけた民間の取組を支援する事業を実施するということはこれまでなかった。沖縄県は、琉球・沖縄の文化の基層であるしまくとうばが消滅の危機に瀕しているということを認識し、2006年以來、大学の専門家等を委員とする「しまくとうば検討委員会」「しまくとうばアドバイザー・ボード」などを設置し、いかにしてしまくとうばの保存・継承に努めるかを検討してきた。上記の事業は、このような議論をとおして実施に結びついたものと見ることができる。



沖縄県の「しまくとうばの日に関する条例」の第3条2項には「県は、市町村及び関係団体に対し、しまくとうばの普及促進のための事業が行われるよう協力を求めるものとする。」とあるが、沖縄県内の市町村で、しまくとうばの普及促進に最も熱心に取り組んでいるのは那覇市である。平成19年3月20日に那覇市議会が「しまくとうば」の普及促進を図ることを決議した<sup>7</sup>。

#### 「しまくとうば」の普及促進に関する宣言決議

私たちの暮らす沖縄においては、琉球舞踊をはじめ、歌、三線、沖縄芝居、エイサー等、極めて個性的で特有の文化を有している。これらの彩り豊かな郷土文化を支え土台となっているのが、「しまくとうば」である。

「しまくとうば」は、県内各地域の暮らしの中で語り継がれ愛着をもって使われてきた言葉であり、地域固有の文化的資源である。

しかしながら、「しまくとうば」は、過去の標準語励行教育を通じ使用が制限された歴史があり、最近では話すことはもとより、聞くこともできない世代が増加しているため、沖縄の貴重な言語文化の喪失につながりかねないことが危惧されている。

このような中、本県においては、昨年3月、「しまくとうば」を次世代へ承継していくため「しまくとうばの日」に関する条例を制定し、9月18日を「しまくとうばの日」と定めた。

私たちは、本条例の趣旨に基づき、脈々と伝えられてきた伝統文化の「灯」を消さぬよう「しまくとうば」の価値を再認識し、自信と誇りを持ちながら次世代へ承継していく責務があると考えます。

よって、本市議会は「しまくとうば」の普及促進を図り、市民、県民一人一人が「しまくとうば」に対する関心と理解を深め、生活の中で「しまくとうば」に親しめるようあらゆる努力を傾注することをここに宣言する。

以上、決議する。

平成19年（2007年）3月20日  
那覇市議会

その後5年間は目立った取り組みはなかったが、平成24年度から、先駆的な取り組みを実施するようになった。まず、4月から「ハイサイ・ハイタイ運動」を実施し、那覇市の職員が、市役所を訪れる市民に「ハイサイ」「ハイタイ」と挨拶をするようになった。翁長市長は、那覇市の「市長室WEB出張所」に掲載されている市長メッセージで次のように挨拶している<sup>8</sup>。

ハイサイ グスーヨー チューウガナビラ

朝早くからご来庁の市民の皆様、そして職員の皆さん、おはようございます。平成24年度の年度初めにあたり、ご挨拶を申し上げます。冒頭、ウチナーグチでご挨拶いたしました但、本日から「ハイサイ・ハイタイ運動」がスタートします。

去る3月28日にハイサイ運動のキックオフ宣言を行いました但、ウチナーグチは、私たちの祖先から受け継いだ大切な文化であることは、市民の皆さまの誰もが納得しているところだと思います。

<sup>7</sup>沖縄県において、平成24年度までに、しまくとうばの普及促進を宣言した市町村は、那覇市、南城市、浦添市、宜野湾市、宮古島市、嘉手納町、南風原町、渡嘉敷村を含め22市町村である（『琉球新報』2012年11月4日）。

<sup>8</sup> <http://www.city.naha.okinawa.jp/admin/mayor/index/index.html> を参照のこと。

ですが残念ながら、日々の生活の中でウチナーグチを耳にする機会がめっきり少なくなりました。市役所の中では、特にそう感じます。

人間国宝の照喜名朝一さんが、「私の人間国宝としての価値は、ウチナーグチの上に成り立っている」と言われたように、沖縄の歌三線、組踊やエイサーなどの大切な文化は、ウチナーグチなくしては成り立ちません。

平成24年度から始まる「沖縄21世紀ビジョン」では、その施策の機軸となる考えのひとつとして、「沖縄らしい優しい社会の構築」が掲げられています。それは沖縄の文化に根ざした地域づくりを行うことであり、私は、そのキーワードは、ウチナーグチの継承だと思っています。

ウチナーグチでは「こんにちは」を、男性は「ハイサイ」、女性は「ハイタイ」と言いますが、市役所の窓口で、その一言のウチナーグチの挨拶の実施に取り組んで行きたいと考えています。本日から始まる、ハイサイ運動に、職員の皆さんのご協力と市民の皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

（「4月のメッセージ：那覇市」より抜粋）

那覇市長のウチナーグチ（しまくとぅば）に関する危機感と、保存・継承に取り組む決意がこの挨拶に込められている。

那覇市は、ウチナーグチの保存・継承にむけた取組の一つとして、平成24年に実施された那覇市役所職員の採用試験の面接にウチナーグチを導入した。『琉球新報』（2012年10月22日）によると、1次試験通過者に送付する通知書で、面接でウチナーグチでの自己紹介が求められることを通知し、「ハイサイグスーヨーチューウガナビラ」（皆さんこんにちは）、「ニフェーデービル」（ありがとうございます）など例文を記載し、ウチナーグチが不慣れな受験者でも対応できるようにした。また、挨拶のうまさなどは、採点の対象とはせず、採用後に、市役所を訪れる市民に対してウチナーグチで挨拶をすることがあることを実感させる意図を示したようである。

那覇市の取り組みは教育現場でも実施されることになっている。教育委員会は、平成25年度4月に、市立の小中学校54校に通う全ての児童生徒に沖縄方言の小冊子を配布する準備を進めている。この小冊子では、あいさつや日常生活で用いられる基本的にフレーズを紹介しているようである。子供達が、これらのフレーズを覚えて日常生活でもウチナーグチを口にすることが期待されているのである。

鹿児島県の奄美大島地区の市町村でも、「島口」と称される地域の土着言語（方言）の保存・継承にむけた取組が「方言の日」との関連で積極的に実施されている。奄美群島広域事務組合に事務局を置くかごしま地域文化創造事業奄美地区実行委員会では、平成21年度に『島唄から学ぶ奄美のことば』を発行した。この冊子は、奄美大島北部、同南部、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の代表的な島唄の歌詞や単語の意味を解説したものである。また、「大きな古時計」や「手のひらを太陽に」などの児童向けの現代歌を各地域の島口に訳し、奄美地区の言語的多様性を例示している。なお、奄美地区の小学校では、この冊子を島口教育に用いているところもある。



大島地区の市町村の島口の保存・継承に向けた取組には次のようなものがある<sup>9</sup>。

奄美市：島口、島唄の夕べ

奄美の伝統文化である島口、島唄の継承をはかる。

大和村：学習発表会

島口劇を披露する。

字検村：児童・生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験

方言を使用し、民謡は歌を作成する活動を行う。

瀬戸内町：子ども島口・伝統芸能大会

将来の郷土の担い手である子どもたちに島の伝統や文化を伝える。

龍郷町：龍郷町島唄大会

伝統文化である島唄の継承と底辺拡大を目的とする。

喜界町：喜界町 島唄・島ゆみた大会

伝統文化である島唄・島ゆみたを小学生から一般までを対象に日頃の学習成果を発表する。

徳之島町：島口・島唄の祭典

町民に広く公募し、島口・島唄の発表を行う。

天城町：天城町ジュニア文化祭

イベントの中で小学生11名が島口劇を披露する。

伊仙町：島口を使う日

島口（方言）の保存・伝承活動を推進する。

和泊町：子ども芸能発表会

<sup>9</sup> <http://www.pref.kagoshima.jp/eq01/chiiki/oshima/kyoiku/oosimatikuhougennnnohi.html> より各市町村の取組から1件ずつをリストに載せた。

集落に伝わる物語の方言劇や島唄・伝統芸能等を高校生以下の子どもたちが披露する。

知名町：島唄・島ムニ大会

町内の小学生や老人が島唄・島ムニで舞台発表をする。

与論町：でっかい夢語り大会

各小学校5・6年生各1名、中学生各年1めいずつ「ムイドゥヌサリ」【思い願うことがその人の運命になる】ということわざのとおり『でっかい夢』を方言か英語で語る。

これらの取組からわかるように、奄美地区の市町村では島口・島唄の発表や方言劇の公演が行われている。なお、こどもが参加する取組は学校教育の一環として行われることがあるようである。

また、大島地区文化協会連絡協議会（事務局：鹿児島県大島支庁総務企画課）では、2月18日を大島地区の「方言の日」と定め、奄美地区の島口の保存・継承にむけた広報啓発活動を行っている<sup>10</sup>。さらに、同協会では、方言マップをしぜん編、いきもの編、あいさつ編、あいさつ編（2）、食事編の5編に分けて作成し、奄美大島地区の教育委員会、小・中・高等学校、市町村文化協会へ配布している。同協議会では、この方言マップが、家庭や学校で方言をつかう契機となり、方言でも挨拶を交わす学校や家庭が増えてほしいと期待しているようである（<http://www.pref.kagoshima.jp/eq01/chiiki/oshima/kyoiku/oosimatikuhougennohi.html> を参照）。

奄美大島地区の市町村のなかでも地域の方言の保存・継承にむけて取組をより積極的に実施しているのは、与論町であると言えそうである。まず、2月18日を「ユンヌフトゥバの日」（与論のことばの日）と定めて、家庭・学校及び関係団体等に協力を求め、島の言語文化の保存・継承に向けた取組を実施することを謳っている。（沖縄県の「しまくとうばの日」と同様に、数字の「2」を「ふ」と発音し、語呂合わせで「218」を「フトゥバ」としている。）

平成20年3月13日条例第4号

#### ユンヌフトゥバの日に関する条例

（趣旨）

第1条 本町固有の文化であるユンヌフトゥバが衰退しつつある現状にかんがみ、ユンヌフトゥバの素晴らしさ・大切さを認識してもらうとともに、その保存・伝承を図るため、ユンヌフトゥバの日を設ける。

（ユンヌフトゥバの日）

第2条 ユンヌフトゥバの日は、2月18日とする。

（取組）

第2条 町は、ユンヌフトゥバの日の広報啓発に努めるとともに、ユンヌフトゥバを保存・伝承するための取組を行うものとする。

2 町は、家庭・学校及び関係団体等に対し、ユンヌフトゥバを保存・伝承するための取組が行われるよう協力を求めるものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

<sup>10</sup>奄美地区では島ごとに「方言の日」の名称が異なっている。奄美大島では「シマユムタの日」「シマクトゥバの日」「島口の日」で、喜界島では「シマユミタの日」、徳之島ではシマグチ（島口）の日「シマユミタの日」、沖永良部島では「シマムニの日」、与論島では「ユンヌフトゥバの日」となっている。

与論町では、さらに、平成16年12月に定めた教育憲章を2009年8月に更新し、町をあげてユンヌフトゥバの保存・継承に努めることを謳っている。教育委員会がこのような憲章で、学校における方言に関する取組を支援することを明言することはあまりない。与論町教育憲章よりユンヌフトゥバに関連のある部分を抜粋する<sup>11</sup>。

七 与論町の総ての小中高生は、与論の自然を愛し、与論の文化（方言・三味線・島唄・エイサー等）を積極的に学び、郷土与論に誇りを持ち与論の発展に尽くします。

十 私たち与論町民は、小学生から大人まで成すべきことを積極的に勉強（調査研究）して発言し、発言したこと・自分が決定した進路・その他の目標実現のために、与論魂〔ウセーラバウセーリ、フナシラバフナシ、フナシ田ヌ米ヤ畦枕〕を発揮してチャレンジし、最後まで頑張り抜くことを誓います。

※ 我々与論町民は、時（今日）を大事にし、今を悔いなく生きるために「ヒュードゥー ヤー、ニヤマドゥーヤー」を合い言葉にします

与論魂と合い言葉がユンヌフトゥバで表されているが、公的な文書に部分的にでも方言が使用されていることは大きな意味があると言える。与論町がこのような取組（教育憲章の制定・更新）を行うことは、町民の間に危機感が共有されていることの表れでもある。

東京都の八丈町でも、平成21（2009）年2月に島のことば（八丈方言）がユネスコの『世界危機言語地図』で消滅の危機に瀕していると発表されたことを契機として、教育委員会を中心にさまざまな取組が実施されている。主な取組として次のようなものがある。

- ・ 専門家による島民向けの講演会・調査報告会
- ・ 方言カルタ大会
- ・ 学習発表会での方言劇の公演や劇団による方言劇の公演
- ・ 総合学習・国語学習のなかでの方言教育
- ・ 教職員向けの方言講座

八丈町教育委員会が企画・実施する取組では、専門家による島民向けの講演会・調査報告と教職員向けの方言講座が注目される。また、同教育委員会では、町民を含め多くの人が八丈方言に関心をもってもらうために、以前に調査して記録保存した音声資料とそのスクリプト及び日本語の注釈をネット上で公開している<sup>12</sup>。

<sup>11</sup> 与論町教育憲章の全文については（[http://www.yoron.jp/kyouiku/kiji/pub/detail.aspx?c\\_id=71&id=89&pg=1](http://www.yoron.jp/kyouiku/kiji/pub/detail.aspx?c_id=71&id=89&pg=1)）を参照のこと。

<sup>12</sup> [http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/kyouiku/hachijo\\_hogen/index.html](http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/kyouiku/hachijo_hogen/index.html) を参照のこと。



#### 4. 文化協会、公民館、NPO 団体などの取組

本節では、文化協会、公民館、NPO 団体、沖縄芝居劇団等が実施している取組について述べる。まず、地域の文化協会が教育委員会等と連携して開催する地域の方言によるお話大会・弁論大会がある。沖縄県でも鹿児島県の奄美地区でも地域の方言によるお話大会等が毎年開催されている。沖縄県では、9 月 18 日のしまくとうばの日の前後に「しまくとうば語やびら大会」が開催されるが、沖縄県文化協会がその中心となっている。大会は、2 部構成になっていて、第 1 部は幼稚園生から高校生までが出場し、第 2 部は一般・家族が出場する<sup>13</sup>。なお、最近ではしまくとうばを理解しない聴衆のために字幕が用意されている。奄美地区の各市町村でも、文化協会と教育委員会が連携して、地域の方言（島口）によるお話し大会・弁論大会が開催されているが、奄美地区全域の代表者が登壇する「奄美地区大会」は開催されていない。

公民館や図書館等での取組については、一部を除いて目立った活動はないようである。那覇市立公民館 4 館が、平成 24 年度の取組として、「うちなーぐちで出会い・つながり・広げたい！」をテーマとした講座を開設した。配付された講座案内によると、受講者は、この講座（6 回）において、うちなーぐちの大切さを学び、うちなーぐちに関する言語学的な知識を深め、うちなーぐち民話の絵本・紙芝居あるいはカルタを作り、最後に自作の教材を用いてうちなーぐちの読み聞かせや遊び方を練習したようである。また、那覇市の繁多川公民館では「挨拶（いえーさち）から始まるウチナーグチ講座」（全 7 回）を開催し、同市のほしぞら公民館では「歌っておぼえるうちなーぐち講座」（全 4 回）を開設して、成人向けの取組を実施した。

沖縄県及び奄美地区では地域の方言の保存・継承を目的とした NPO 団体がある。沖縄県では、沖縄語普及協議会<sup>14</sup>、沖縄県うちなーぐち会、語やびら沖縄語ぬ会及び宜野湾うちなーぐち会が積極的に沖縄方言（沖縄語・うちなーぐち）の保存・継承活動に取り組んでいる。なお、これらの団体は沖縄島の中南部で活動しているが、沖縄島北部には沖縄北部方言（やんばる方言）の保存・継承に努めている民間団体は設立されていないようである。沖縄島中南部以外では、石垣市の宮良婦人会が積極的に活動している。同会は、「宝ぬ島言葉（たからぬしいまむに）」という、手書きのテキストを自前で作成し、それを使って宮良のしまくとうばを教えている。宮古諸島、八重山諸島、与那国島においては、宮良婦人会以外に地域の方言を保存・継承する活動に取り組む団体は設立されていないようである。また、関東在住の沖縄出身者を中心に組織された東京沖縄語を話す会は、関東だけでなく沖縄県でも活動している。奄美大島ではしまゆむたを伝える会が奄美市を中心に奄美の島口を保存・継承する活動に積極的に取り組んでいる。同会は奄美市出身者だけでなく奄美大島各地及び奄美大島以外の島々の出身者によって構成されていて、会では奄美群島の多様な島口が飛び交っているようである。

上記の NPO 団体は、小学校・中学校に講師をクラブ活動等に派遣して子ども達に地域のことばを教えている。例えば、語やびら沖縄語の会は、浦添市内の小学校のしまくとうばクラブ活動を支援するだ

<sup>13</sup>2006 年 3 月に開催された第 8 回大会の小中高生の部は <http://www.okinawabbtv.com/culture/shimanukutuba/gakusei.htm> でネット配信されている。

<sup>14</sup>発足時は「沖縄方言普及協議会」であったが、現在は「沖縄語普及協議会」となっている。

けでなく、放課後こども教室やうちなあぐちクラブ（太陽ぬ子）でも小学生にしまくとうばを教え、前者については成果発表会も開催しているそうである。また、同会は、豊見城市立中央公民館と浦添市立中央公民館において大人向けのしまくとうば講座も開設している。他には、沖縄県うちなあぐち会と宜野湾うちなあぐち会が小学校でのしまくとうばクラブに講師を派遣している。

沖縄県には、講師を派遣するような取組は実施していないが、地域の方言の保存・継承に向けた取組を企画実施している団体もある。その中の3団体について述べる<sup>15</sup>。まず、沖縄県立博物館・美術館の指定管理者である文化の杜共同企業体は、「しまくとうばプロジェクト」という自主事業をたちあげて、月に2回ないし3回しまくとうばを継承・普及するための企画を実施している。同企業体は、現在三つの講座を実施しており、定期的にしまくとうば関係の企画を発信している。なお、企画内容については、県内大学の研究者や識者からの意見や助言を参考にしているようである。次に、沖縄ハンズオンNPOは、県や市町村の文化協会及びしまくとうば関連団体と連携をとり、「こどもしまくとうば教室」を開設し、シンポジウムやしまくとうばで行く歴史ツアー等も含むしまくとうば関連イベントを開催している。また、県内のFMコミュニティラジオ局（FMニライ、FMやんばる、FMよみたん）では、同NPOの協力のもとでしまくとうばラジオ番組を毎週放送している。さらに、同NPOは、地域に伝承される民話や神話、しきたりを調査し、それらを地元のしまくとうばに翻訳して紙芝居を作り、しまくとうば紙芝居キャラバン隊として出前紙芝居を公民館、児童館、保育園、小学校そして老人ホーム等で実施している。同NPOは、中高生のための人材育成プログラムである子ども会ジュニアリーダークラブ（沖縄市・北谷町）やハンズオンユース倶楽部の活動にしまくとうば民話紙芝居を取り入れて、若い世代がしまくとうばを継承する機会を提供することに努めている。最後に、NPO法人アジアクラブでは、平成24年度の沖縄文化活性化・創造発信支援事業（第1回募集）に採択された「琉球諸語の保存・継承に向けたネットワークの構築事業」でうちなあぐちの保存・継承に向けた4件の取組を支援している。取組の内容は下記の通りである<sup>16</sup>。

講座名：うちなあぐち勉強会「ばん」

講座内容：うちなあぐちを楽しもう！見て（紙芝居）、触れて（身体や生活道具）、遊び（ゲーム）を通して、うちなあぐちを使おう。あなたもぼくもうちなあぐち。

講座名：イマージョンでまなぶ親子うちなあぐち

講座内容：うちなあぐちでうちなあぐちを学ぶという環境の中で、子どもたちが挨拶をかわし、歌を歌い、世界中でここしかない「わたしまうちなあぐち」を感じる教育をします。

---

<sup>15</sup>文化の杜共同企業体と沖縄ハンズオンNPOに関する記述については、アンケートの自由記述を参考にした。

<sup>16</sup>同事業のリーフレットより抜粋した。

講座名：家庭で使えるうちなーぐち

講座内容：親世代へ向けた家庭で使えるうちなーぐちを教えます。普段家庭で使われなくなったうちなーぐちをお父さん・お母さんから子供たちに伝えてみませんか。琉球諸語の説明を始め、琉球諸語の中のうちなーぐち（首里・那覇言葉）を中心に教えます。

講座名：沖縄喜劇の脚本から学ぶ

講座内容：沖縄喜劇のある特定の脚本を基に、沖縄方言の講師に必要な「仮名と漢字を混ぜた表記法」や沖縄方言の文法的解説の基本事項を習熟させると同時に、その喜劇における登場人物を実際に演じられるように練習を重ねながら、沖縄方言の醍醐味も味わう。

なお、これらの取組は平成 25 年 1 月から 2 月にかけて実施されたが、うちなーぐちが保存・継承されるために、このような取組が継続して実施される必要がある。そのためにも、講師及び運営資金をどのように確保するのが大きな課題となるだろう（第 2 節を参照）。

沖縄県と奄美地域では、伝統芸能と地域の方言を結びつけた取組が実施されている。まず、両地域では地域の民謡である島唄と三線（三味線）が盛んであるが、島唄と三線を習うことにより、地域の方言に対する意識が高まり、その方言が流暢に話すことが出来るようになった人もいる。なかには、アメリカ系沖縄人の比嘉光龍氏や沖縄系ブラジル人 3 世のウエマ・アキラ氏のように、沖縄方言を母語としないが<sup>17</sup>、今では、沖縄人に沖縄方言を教えている人もいる。また、舞台演劇も地域の方言の保存・継承にむけた一つの取組となる。沖縄方言を用いた芝居は、沖縄では「沖縄芝居（うちなー芝居）」として知られているが、沖縄県文化協会から提供された資料によると現在 14 団体が沖縄芝居の保存・継承に取り組んでいる<sup>18</sup>。これらの劇団で団員（芝居役者）の多くは高齢であるが、近年は若手の役者も出てきていて、伝統的な演目だけでなく新作も演じている。沖縄芝居、特に時代劇、の台詞はすべてが沖縄方言なので、沖縄芝居を保存・継承することは沖縄方言の保存・継承にもつながると言える。また、地域の方言による演劇を学校教育に取り入れる取組も実施されていて、沖縄県や奄美地区では、幼稚園や小中高校の学習発表会等で地域の方言による劇が上演されることもある。例えば、平成 25 年 1 月 31 日に開催された沖縄市文化協会主催の沖縄市文化祭では小学生の劇と中学生の寸劇が上演された。また、沖永良部島では、ある中学校が平成 23 年度に島内の英語塾と提携して創作劇を上演した<sup>19</sup>。この劇では、日本語話者が英語話者と地域方言者の間の通訳をするという構成の台本で、台詞は日本語、英語、沖永良部方言である。生徒はこの創作劇を通して演劇を通して英語と方言の両方を学んだことだろう。この取組は三つの言語の違いに気づかせるになり、言語（の多様性）に対する意識を高めることになると期待される。さらに、沖縄県立南風原高校の郷土文化コースでは、平成 22 年の発表会で、上原直彦作・北村三郎演出・指導の沖縄芝居 台詞はすべて沖縄方言 を上演した。これらの事例が示唆するように、生徒は、

<sup>17</sup>比嘉もウエマも「沖縄方言」ではなく「沖縄語」を用いている。

<sup>18</sup>この資料に掲載されたリストに載っていない沖縄芝居劇団もある。

<sup>19</sup> <http://eigakujuku.wordpress.com/>を参照

台詞を覚えることによって、地域の方言を覚えることになるので、演劇は効果的な取組となる可能性があることを示している。

## 5. マスコミ・インターネット、書籍等での取組

最近では、新聞・ラジオ等のマスコミやインターネット、書籍等でも危機的な状況にある沖縄県、奄美地域及び八丈島の方言の保存・継承につながる取組がある。本節では、これらの言語使用領域に見られる取組を紹介する。

まず新聞について述べる<sup>20</sup>。『琉球新報』『沖縄タイムス』は、沖縄県の方言に関する記事を数多く載せている。毎年9月に「しまくとうば語やびら大会」の全県大会が開催されることは前述の通りであるが、両紙ともこの全県大会と各地区の予選大会に関する記事を載せて、大会の意義やしまくとうばの重要性を啓蒙している。『琉球新報』は社会面に3世代家族の生活の様子を描いた「がじゅまるファミリー」というもも・ココロ作の4コマ漫画を連載しているが、その中でおじいさんとおばあさんはしまくとうばで会話（日本語訳付）することもある。また、毎週日曜日に発行される子ども向けの『りゅうぼん』に掲載されている漫画では、おばあさんが男女の孫（小学生）にウチナーグチで話をしている。さらに、しまくとうばの危機や重要性に関する記事も定期的に載せていて、大学教員等が執筆している。平成24年に掲載された記事の主なもの下記通りである。

### 琉球新報

4月18日「次代へ継ぐ 復帰40年の芸能」（うちなーぐち④：話す力の養成課題、風俗習慣も捉え表現を）

4月25日「次代へ継ぐ 復帰40年の芸能」（うちなーぐち⑤：独特の発音に壁 学校教育への導入に活路）

4月23日 社説「しまくとうば衰退」（沖縄文化そのものの危機だ）

8月12日 論壇「復帰40年は沖縄方言の黎明期 文化継承へ行政支援を」

8月21日 那覇圏版「ウチナーグチ『授業に』」（飛び出せ「那覇」市長室 普及へ文化協会と議論）

8月22日 論壇「ウチナーグチは独自の言語 沖縄の誇る文化継承を」

8月23日 一面特集「9月18日は『しまくとうばの日』」

那覇市文化協会41市町村にアンケート 継承の必要性強調 効果的具体策で悩みも  
沖縄県うちなーぐち会 学校に講師派遣 触れる機会の拡大へ

真和志高 介護授業に取り入れ 実習に活かす

識者の目 宮良信詳琉球大学名誉教授 県がもっとリードを 試される自治体の本気

---

<sup>20</sup>本事業では、沖縄県那覇市で発行されている『琉球新報』『沖縄タイムス』のみを調査した。奄美地区、宮古地区、八重山地区、与那国町、八丈町で発行されている新聞を調査する十分な時間がなかった。

度

9月1日『琉球新報こども新聞』<sup>21</sup>

身近な生物 沖縄語で 石原琉大教授 普及、継承に力

8月29日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 1」

「琉球諸語の復興」(宮良信詳) 連帯強める独自言語 ユネスコ「危機」指定 重要性再認識を

8月30日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 2」

「言語併用の効能」(マーク・アンダーソン) 習得速度が向上 琉球諸語の地位高めよ

9月3日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 3」

「危機言語と教育」(パトリック・ハインリヒ) 学力格差は「抵抗」 琉球諸語を向上の資源に

9月6日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 4」

「言語権でみる琉球諸語」(ましこ ひでのり) 言語選択の保障 新しい基本的人権の視点

9月12日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 5」

「しまくとうばと経済」(石原昌英) 言語が富をもたらす 商品名にブランド力

9月13日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 6」

「インターネット」(杉田優子) 新たな文化圏の創造 世界の「沖縄好き」を話者に

9月19日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 7」

「海を渡った沖縄語」(宮平勝行) 変容しつつ世界に 歌を通したつながりも

9月20日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 8」

「外国人による研究」(ハイス・ファン・デル・ルベ) 「心の言語」習得に力 上達へ自ら環境つくる

9月26日 「いっぺーじょうとーしまくとうば 言語復興による未来像 9」

「アイデンティティー」(比嘉光龍) 形成の根源に言語 人種、民俗、国家を越える

## 沖縄タイムス

6月4日「復帰40年 時の標 13」琉球諸語の行方④(石原昌英) 継承断絶から普及へ 復帰契機に「琉球人」模索

6月5日「復帰40年 時の標 14」琉球諸語の行方⑤(石原昌英) 県民意志が継承の鍵 世界に言語復興の成功例

---

<sup>21</sup>琉球新報社が年1回9月に発行している。50名の子ども記者が関心のある分野・事項についてインタビュー等をして調べ、記事にしている。本号で、筆者は小学6年生から沖縄語についてインタビューされ、沖縄語の現状や保存・継承に向けた取組について話した。



6月21日「本土復帰40年 沖縄の自画像 58」言葉守り文化伝える

8月13日 論壇 「沖縄語普及 行政支援を 教育現場で実践し文化継承」

9月13日 論壇 「消滅の危機 琉球語救え 県・市町村の取り組み不可欠」

平成24年(2012年)は沖縄の「祖国復帰」後40年の節目であったことから、沖縄の土着言語と復帰に関連づけて記事が見られた。

ラジオでは、コミュニティ FM ラジオ局の開設により、沖縄県でも奄美地区でもしまくとうば・島口を使った番組が増えて来ている。沖縄県においては、民放の AM ラジオ局が2局あり、ラジオ沖縄の「暁(あかち)で一びる」(午前5時から午前7時)と「方言ニュース」(午後1時から:5分間)及び琉球放送の「民謡で今日(ちゅう) 拝(うが) なびら」(午後3時から4時)が長年にわたり毎週月曜日から金曜日に放送されてきた。方言ニュースでは、年配の話者がその日の新聞等から記事を取りあげて、沖縄方言に訳したり、解説したりしている。「暁で一びる」と「民謡で今日拝なびら」は琉球民謡(島唄)を放送する番組ではあるが、地域話題やパーソナリティが関心をもっている話題について、話すこともある。パーソナリティ(前者は一人、後者は二人)は、主として沖縄方言で話をしているが、日本語を使うこともある。また、聴視者からののはがきやメール・ファックスでの投稿は殆どが日本語で書かれているが、パーソナリティがそれを日本語のままで読んだり、沖縄方言に訳したりしている。

沖縄県でも奄美地区でも、コミュニティ FM 放送局が、地域のしまくとうば・島口を保存・継承するための活動に取り組んでいる。沖縄県では、FM21、FM ニライ、FM やんばる、FM よみたんの4局が、奄美地区ではあまみエフエムが積極的に活動している。これらの FM 放送局は、それぞれのしま地域の民謡やしまくとうば・島口によるニュース番組を下記の通り放送している。

FM21 (所在地: 沖縄県浦添市): 「島唄の時間」(1時間、週2回) 「ふるさとのくがにうた」(2時間、週1回) 「清子の民謡ドリントク〜うさがみそーれ〜」(1時間、週1回) 「ばが島ぬうた」(1時間、週1回)

FM ニライ (所在地: うるま市): 「ヒヤミカセー島唄」(1時間、毎日朝6時) 「肝がなさうちなーぐちニュース」(1時間、週1回) 「ニライからちゅううがなびら」(1時間、週5回)

FM やんばる (所在地: 名護市): 「沖縄民謡」(1時間、毎日朝7時)、「やんばるしまくとうばニュース」(1時間、週1回)

FM よみたん (所在地: 読谷村) 「しまくとうばニュース・ハルレー」(1時間、週1回) 「沖縄のわらべ唄であそぼ」(1時間、週1回)

あまみエフエム (所在地: 奄美市)<sup>22</sup>: 「きゅうぬゆしぐとう」(5分程度、月曜〜土)、「わきゃ島ぬ唄」(1時間、週6回)、「島ゆむ TIME」(30分、週3回)、「英会話のOVA」(12分

---

<sup>22</sup>なお、あまみエフエムは「ナキャワキャ島自慢」「キューヤヌーデー」「ヒマバン・ミショシナー」など奄美の島口をつかった番組名が多い。

程度、毎日)

このような状況を見ると、コミュニティ FM 局は地域の方言の保存・継承に積極に取り組んでいることがわかる。講座・教室等を開設して、地域の子どもや大人に、しまくとぅば・島口を教えると活動ではなく、地域の人々にしまくとぅば・島口を聴く機会を与えているのである。上記の番組のいくつかは USTREAM や YouTube でも配信されているので、地域の人々が繰り返し聴くことができるし、地域以外の人々も聴くことができる。例えば、関東在住の奄美出身者に奄美のこことばを聴く機会を与えることにもなる。また、番組へのコメントや投稿が、しまくとぅば・島口で書かれていることもあるようなので、地域の人々及び地域外在住の地域出身者に地域のこことばを使う機会を与えてもいるのである。

沖縄県で放送されているテレビ番組でも、沖縄語の保存・継承を意図していると思われる番組がある。ここでは、三つの番組を紹介する。まず最初に、NHK 沖縄放送局の「うちなーであそぼ」がある。5 分間の短い番組であるが、祖父母・父母・子供が住む三世代家族で、父母や祖父母が子供に沖縄方言や沖縄の黄金くとうば（<sup>くがに</sup> 諺・金言）を教える「うちなー劇場」（比嘉光龍や高良勉が脚本を書いている）の他に「うちなー昔話」「ウチナー絵本」「おきなわの唄」がある。元々は教育番組（E テレ）で子ども向けに放送されていたものであるが、現在では、総合テレビでも土曜日（月の最終土曜日を除く）でも放送されている。また、番組独自の WEB ページがあり、過去の放送も見ることができる（<http://www.nhk.or.jp/okinawa/asobo/>）。次に、毎週月曜日の夜 7 時に放送されている沖縄テレビの 30 分番組「ゆがふうふう」である。全編にわたって沖縄方言が使われるわけではないが、ところどころの短いコーナーで使われている。また、番組で歌われている「ウチナーグチ数え唄」は、保育園・幼稚園でも歌われていて、子ども達に人気があるようである。最後に、ケーブルテレビの宮古テレビで週 1 回放送されている「冴子おばあの宮古よもやま話」がある。15 分の番組で、10 分間はニュース、5 分間は地域話題を宮古方言で紹介している。ニュースを読むのは「冴子おばあ」であるが、宮古島で英語を教えている ALT が「アシスタント」としてついていて、番組の中で「おばあ」が「外国人」に宮古方言をおしえることもあるようである。

インターネット上にも危機的な状況にある方言を保存・継承する取り組みと言えるものが散見される<sup>23</sup>。その中から四つの例を紹介する。まず、「方言日記（まかひむにー）」という、沖縄県糸満市真壁出身で米国在住の女性が発信しているブログ（<http://yugurihaikarah.ti da.net/>）がある。このブログの紹介文には次のように記されている。

学生時代は学校での方言は使用禁止、家では方言。まるでアメリカで生活しているメキシコ人の子供が、学校と家庭での言語を使い分けているのと同じだ。お陰で私もバイリンガル（標準語／うちなーぐち）になった（笑）。残念ながら敬語は苦手だ。生まれ育った地域の方言に誇りを持ち、今後とも堂々と使っていきたいという意思の基に、このブログが誕生した。“まかひむにー”というのは真壁の方言という意味。

<sup>23</sup>この章の最後に奄美・沖縄の地域の言語に関係したホームページ、YouTube のリストを載せた。

ブログの「主」は子どものころから家庭で真壁方言を使っていたようなので、方言が第1言語で標準日本語が第2言語の二言語話者となったであろうことが推測される。沖縄出身者の50代・60代で、この「ゆぐりはいから」のような二言語使用者は非常に少なくなっている。ブログは真壁の方言と日本語の「二言語」で書かれていて、仕事に関する話題、日常生活に関する話題、読んだ本の紹介などが日記風に綴られている。例えば、今年（2013年）の2月23日付け日記には重松清著の「とんび」という小説の読後の感想が書かれている。長くなるが、下に一部を引用する<sup>24</sup>。

### 真壁方言

なま、ゆみーうわたん。

小学校ぬ、6年生ぬとうきに、担当ぬ、津嘉山（つかやま）じゅん子先生が、国語ぬ本、ゆみーがちーなー、泣ちめーんせーたし、「みった、先生や、泣き上戸やっさー」んでいち、からかたるくとうがあん。

うぬ、先生ねーし、わんにん、本ゆみーがちーなー、泣ちゅーたん。

くぬ、本や、うんぐとうー本やん。

あぬくるぬ、じゅんこ先生や、なまぬ、わったあーとう、同年代か、なーいひぐあーや、とうし、とうっとうーたがら分からん。

元気し、うみしえーがやー？

出だしから、タイトルぬ、内容と一、全然開けーいんねーらん話んかい、なたしが、わしりらんうちに、書ちうちきらんねーんでいうみたん。

### 日本語

今、読み終えた。

小学校6年生の時、担当の津嘉山（つかやま）じゅん子先生が国語の本を読みながら泣いていたのを、「全く、先生は泣き上戸なんだからあ。。。」とからかった事がある。

そんなじゅん子先生のように、私も本を読みながら泣いていた。

この本は、そんな本なのだ。

あの頃のじゅん子先生は今の私達と同年代かもうちよっと上の年代だったのだろう。。。。

元気でいらっしゃるだろうか。。。。

出だしからタイトルの内容とは全く関係のない話になってしまったが、忘れないうちに書いておきたいと思った。

---

<sup>24</sup>全文については、<http://yugurihaikarah.ti da.net/e4414935.html> を参照のこと。

このブログに書かれた（沖縄方言の）真壁方言の文と日本語の文を並べて語彙分析することによって、真壁方言を（独学で）学ぶことが可能である。

二番目に、「たる一の島唄 まじめな研究」(<http://taru.ti-da.net/e3457161.html>)を紹介する<sup>25</sup>。宮崎県出身の方が管理しているブログである。このブログでは、島唄の歌詞が詳しく解説され、沖縄方言の語句の説明と日本語訳がある。歌詞は漢字仮名交じり文ひらがな及びローマ字で表記されている。下に一例を一部分だけ引用する<sup>26</sup>。

2012年06月10日

想いションガネー

作詞・作曲 前川守賢 歌 饒辺勝子

一、かんしうむいぬすんくまれ 想いぬたきん語らんむん我が落ちてい着ちゅみ胸内や 逢ちやてい  
晴りらなくぬ想い ※しゅらよー想いションガネー

かんしうむいぬすんくまれ うむいぬたきんかたらんむん わがうていちちゅみ んにうちや い  
ちやていはりらなくぬうむい しゅらよーうむいしょんがねー

kaNshi 'umui nu suNkumaree 'umui nu takiNkataraNmuNwaga 'utichichumiNni'uchiya  
'ichatikataranakunu 'umuishurayoo 'umishoNkanee

○こんな思いのすむまで思いのたけを語りたいもの 私落ち着けるかしら？胸の内をあの人に会  
って晴らしたいなこの思い 愛しい人よ！貴方を想ってションガネー

語句・かんし こんな。・しゅらよー いとしい人よ！ 囃子言葉でもある。

二、一足ん早みてい逢ちやらなや あぬ森越てい行ちどうんしえー うんじゅが居める島やしが  
思いるぐとお逢ちやららん ※（くりかえしー以下省略）

ちゅひさんはやみていいちやらなや あぬむいくいていいちどうんしえー うんじゃがいめるしま  
やしが うむいるぐといちやららん

chuhwisaNhayamiti 'icharanaya 'anumuikwiti 'ichiduNshee 'unjuga 'imeerushimayashiga  
'umuirugutoo 'ichararaN

○一足でも早く会いたいよ あの山越えて行けば貴方がいる村だけど 思っているから会えないの  
語句・ちゅひさ <ちゅ 一つ+ひさ 足。・むい 山。沖縄ではあまり高い山がないため山や  
丘を「森（むい）」ということが多い。盛り上がった所、の意味。・うむいるぐと <うむい 思

<sup>25</sup>Facebookの「うちなーぐち講座 (facebookkuchiaaguchi)」というグループを管理している金城信春氏と呉屋俊光氏からこのブログを紹介された。

<sup>26</sup>全文については <http://taru.ti-da.net/e3457161.html> を参照のこと。

い。＋るくどう　こそ。＋ぐとーくくとう＋や　から。（「や」は強調）　→　思っているからこそ。

このブログは、ひらがなとローマ字での表記があるので沖縄方言の発音がわかる。また、島唄なので会話体のことばとは異なるが、日本語訳や語句の説明を通して、文（歌詞）の意味を理解することができる。

三番目に南謡出版の WEB ページ「うちなあぐち賛歌」(<http://www.haisai.co.jp/>)を紹介する。このページにアクセスするとうちなあぐちの音声が流れてくる。南謡出版が販売している小説の音読であるが、うちなあぐちを聴いて発音を学ぶことができる。またこのページには複数のバナーがあり、そこからうちなあぐち・沖縄語を学ぶページに行くことができる。例えば「うちなーぐち丁寧語が学べるうちなあーぐち日記」は、管理者がうちなあぐちで書いた日記とそこに使われている語句・文の詳しい説明がされている。また、語句の解説に丁寧文と非丁寧文の説明があるので、丁寧文を作るのに苦労している者　沖縄の若者に多いようである　には大いに役に立つだろう。長くなるが、下にその一例を引用する<sup>27</sup>。

#### 「ウランダー」世代と「アメリカ」世代　そのⅠ

新春番組んじ「O　1」んでいゆるむぬぬあいてびいたん。

「沖縄漫才ぬナンバー1」決（ち）わみゆる番組やいてびいたしが、年若（とうしわか）さる男（みきが）、なあだ20代どうやいてびいる筈（はじ）、ぬうちなあぐち混（ま）んきやあに、漫才そおいてびいたん。

紙（かび）んかい書かつとおる日本語うちなあぐちし、叫（あ）びてい、笑（わら）あする積むええそおるむんやいてびいたしが、我（わあ）が、面白（うむ）さんでい思（うみ）たしえ、「アメリカ人」ぬ事（くと）お、当た前（めえ）ぬ事（くとう）、「アメリカ」んでい言ちよおいてびいたしが、次ぬ「オランダ人」ぬん、またうぬ次ぬ「ドイツ人」ぬん、同（い）ぬ如（くとう）、「アメリカ」んでい言ちよおいてびいたん。うぬかじ、会場んかいめんせえびいたる人（ちゅ）ん達（ちやあ）や、大笑（ううわれ）えそおいてびいたん。

#### 【語句】

新春番組んじ「O　1」んでいゆるむぬぬ　**新春番組で「Oー1」というものが**。「むぬぬ」の後の「ぬ」は格助詞。

あいてびいたん　**ありました**。非丁寧文は「あたん」。

沖縄漫才ぬナンバー1決わみゆる番組やいてびいたしが　**沖縄漫才のナンバーⅠを決める番組でした**が。非丁寧文は「～やたしが」。

---

<sup>27</sup>全文については、[http://blogs.yahoo.co.jp/ababa\\_ubuu8989/32113553.html](http://blogs.yahoo.co.jp/ababa_ubuu8989/32113553.html) を参照のこと。



年若さる男、なあだ20代どうやいびいる筈 年若い男、まだ20代なのかも。非丁寧文は「～どうやる筈」。「どう」は前語を強調する助詞で、次にくる用言「やいびいん」は連体形「やいびいる」で結びます。

ぬうちなあぐち混んきやあに が、沖縄方言を混ぜて。「混んきやあに」は「混んきてい」でも「混ん

きやあま」でもよいです。

漫才そおいていたん 漫才をしていました。

紙んかい書かつとおる日本語ゆ 紙に書かれた日本語を。「日本語ゆ」の「ゆ」は日本語の「を」。

通常は話しことばでは使用しないが、ここでは、文脈上あえて使用しました。

うちなあぐちし、叫びてい 沖縄方言でしゃべり。「叫びゆん」は「叫ぶ」や「吠える」の意味ですが、

文例のように地方によっては「喋る」の意味で使用されます。例：「うちなあぐち叫びれえ」（沖縄語を喋れ）。

笑あする積むええそおるむんやいびいたしが 笑わす積もりのものでしたが。非丁寧文は「～むんやたしが」。

我が、面白さんでい思たしえ 私が面白いと思ったのは、

「アメリカ人」ぬ事お、当たてい前ぬ事 「アメリカ人」の事は、勿論、

「アミリカー」んでい言ちよおいていたしが 「アミリカー」といってましたが。「アミリカー」は合音で、「アメリカー」は開音。開音のeは合音ではiになります。ちなみに、「ウランダー」は合音で開音は「オランダー」です。

次ぬ「オランダ人」ぬん 次の「オランダ人」も

またうぬ次ぬ「ドイツ人」ぬん 又その次の「ドイツ人」も

同ぬ如 同様に。「同ぬ」は「ゆぬ」と発音する地方も多いです。

「アミリカー」んでい言ちよおいていたん 「アミリカー」と言っていました。非丁寧文は「～言ちよおたん」。

うぬかじ、会場んかいめんせえびいたる人ん達や その都度、会場の居たお客さんは。「めんせえびいたん」の非丁寧文は「めんせえたる」で、非対目上語は「居たる」。

大笑えそおいていたん 大笑いしていました。非丁寧文は「～そおたん」。

一方で、「沖縄語講座 文で覚えるうちなあぐち」ではは、日本語の文をうちなあぐちに訳することによって、うちなあぐちを学ぶことができる。長くなるが、下に一例を引用する<sup>28</sup>。

## 第90講 「ぎさん」と「らあさん（らあしやん）」

<sup>28</sup>全文については、[http://blogs.yahoo.co.jp/bunshou\\_uchinaaguchi/32416414.html](http://blogs.yahoo.co.jp/bunshou_uchinaaguchi/32416414.html) を参照のこと。

## 日本語

- ①叔父は強面そうで、おそろしそうだった。
- ②だけどまた、彼の子供はとても可愛らしい。
- ③歌もうまく、叔父の子らしくもない。
- ④その子の母親は、笑い上戸で、冗談好きだ。
- ⑤あの家族の話は面白そうだけど、本当なのか。
- ⑥本当のようですよ。

## うちなあぐち

- ①叔父（うざ） さあや、はちこうらあさぬ、あくとうらあさたん。
- ②やしがまた、彼が子（くあ） あ、でえじな、うじらあさん。
- ③歌いうじらあさぬ、叔父さあぬ子ぎさん無（ね） えん。
- ④うぬ童ぬ女ぬ親あ、笑（われ） えうじらあさぬてえふああやいぎさん。
- ⑤あっ達家人数（たあやあにんず） ぬ話やゐいりきしぎさしが、実（じゅん） にやみ。
- ⑥実にやいぎさんどお。

## 【解説】

「ぎさん」と「らあさん（首里語では『らあしゅん』）」は形容詞を形作る接尾語であり、これまでに、主に形容詞の講でも断片的に取り上げてきましたが、分かりにくいなど、いくつかの疑問も寄せられており、独立してとりあげてみたいと思います。

◆「ぎさん」は、動詞や形容詞などの用言に付くと、「～らしい」、「～そうだ」などと推量を表わしますが、名詞に付くと、「その名詞の表わす意味にふさわしいもの」の意味にもなります。意味とは別に語形としてはやはり形容詞となります。

**名詞、代名詞および一部の副詞（名詞にもなりえる副詞）に付く例：**「童（わらび）＋やい（存在動詞連用形）＋ぎさん」（子供のようだ）。「あん やい ぎさん」（そうであるようだ、そうらしい）。

原則的（基本的）には存在動詞を介して付きますが、存在動詞を略し、直接付くこともあります。

**名詞に直接付く例：**「ゆくし＋ぎさん」（うそっぽい）、「かじいぎさん（地方によっては『かじゃあぎさん』）」（粘り強そう、負けず嫌いそう）、「やあさ ぎさん」（ひもじそう）。何れも本来は、それぞれ「ゆくし やい ぎさん」、「かじい やい ぎさん」です。

**副詞に付く場合：**「ようんなあ やい ぎさん」（ゆっくりのようだ）、「ふいつちい やい ぎさん」（一日中のようだ）等。

**動詞に付く例：**「来（ち）い（動詞連用形＋いぎさん）（来そう）」、「鳴いぎさん」（鳴るようだ）。「雨降りいぎさん」（雨が降りそうだ）。「しいぎさ そおん」（《いかにも》やりそうにしている）。

**形容詞に付く例：**「はごうぎさん」(汚なそう)、「やあさぎさん」(ひもじそう)、「えんださぎさん」(おとなしそう)、「暑ぎさる衣」(暑そうな服)、「忙 (いちゆな) しぎさん」(忙しそう)、「難 (むちか、むついか) しぎさん」(難しそう)、「頑丈ぎさそおん」(元気そうにしている) 等。 形容詞に形容詞を作る接尾語が付くわけです。

◆「らあさん (らあしゃん)」は、名詞や代名詞のみに付き、「～らしい」という意味の形容詞を作ります。日本語の「～らしい」を沖縄方言風に語尾を「さん (首里語形では「しゃん」) にした語だとも考えられますが、どうでしょうか。

例：「うちなあらあさん」(沖縄らしい)、「ちゃくしらあさるしいよう」(長男らしいやり方)、「あぬ人らあさん」(あの人らしい) 等。

「名詞+ぎさん」は、「名詞+らあさん」でも殆ど同じ意味になります。たとえば、例文①の「はちこうらあさん」は「はちこうぎさん」でもよいです。

**例文①** 「はちこうらあさん」は「はちこうさん (ごわごわして肌触りが悪い、角のある言動をしているさま)」からきた語です。首里語形では「はつこうさん」です。「あくとうらあさん」の「あくとう」は「悪党」と関係ある語か。「悪党」の意味はなく「恐ろしい人」などという意味です。「だび」が「荼毘」でなく「葬式」の意味に、「焼香 (すうこう)」が「法事」の意味に、「がし」は「餓死」ではなく「飢饉」の意味に、「百姓 (ひやくしょう)」は「農民 (はるさあ)」ではなく、「平民」という意味に変異しています。

**例文②** 「うじらあさん、うじらあしゃん」には「可愛い」の他に「美しい、賢い、利口だ」などの意味もあります。

**例文③** 「歌いうじらあさん」と「うじらあさん」を接尾語のようにして「～上手」という意味になります。例「買ういうじらあさん」(買い物上手)。「笑えうじらあさん」は地方などによっては「笑いうじらあさん」ともなります。

**例文④** 日本語では「女の親」という言い方はあまりしませんが、沖縄方言では「母 (あんまあ、あやあ)」に代えていう場合が多々あります。

**例文⑤** 「家人数」は「やあぐな」という地方もあります。「ゐいりきしぎさしが」は「ゐいりきさん (面白い)」に逆接続詞「しが」が付いたものです。

**例文⑥** 「どお」は感嘆詞。感嘆詞は、「ぎさんやあ」(そうだね)、「ぎさっさあ」(らしいな)、「ぎさんよお」(らしいねえ) 等と付けます。

以上、タイプの異なる三つのブログを紹介したが、いずれも独学でうちなあぐちを学びたい人には有益なサイトである。ブログの管理者にはそのような意図はないかもしれないが、これらはうちなあぐちの保存・継承にむけた取組と言えるだろう。

最後に、「くまから・あまから」という宮古島の方言を使ったメールマガジンを紹介する<sup>29</sup>。2001年3月に創刊され、第1・3木曜日の月二回発行されていて、発行部数（登録者）は889部のようなのである。案内には次のように記されている<sup>30</sup>。

みゃーくふつ（宮古島の方言）で書く、エッセイやことわざ、みゃーくふつ講座などを掲載しています。ライターは、選りすぐりの宮古島出身の方言伝道師（？）達です。若い人の間では、使われなくなっているみゃーくふつですが、みんなで楽しみませんか？

バックナンバーはだれでもみることができるが、その一つ（部分）を下に引用する<sup>31</sup>。

「いすぱらん（石が孕む）」 ○○○○（上野・宮国出身）

いつがらぬ ばなす（いつかの話）。

母が んきゃーんな いら・・・（むかしはねえ）と語りかけてきた。

「うわー いすぱらんちーや しいっ？」（あんたは石が孕むとは知っているか？）イスパラン？あーいー すっさん（いいやしらない）とそっけなく返事をした。

いすぱらん ちいや いらっ、いすぬどう ぱらみー ふっわう なすちいぬ ばあ（いすぱらんとはね、石が妊娠して子を産むとゆうことだよ）

んきゃんぬ やーぬ 門ん つまりゅう いすぬきやあら いらっ、かならず ふっふあう なす ぼどう つん とうきんな じゅうじゅう計算な しっしい つみゅうたあー（昔は家の門に石を積む時には 必ず石が子を生むので 積む時にはしっかり計算して積んだもんだよ）

このメールマガジンは、宮古島出身者がみゃーくふつで投稿したり、コメントを書き込んだりできる。引用した投稿にあるように、日本語訳が括弧のなかに記されている。読者の中には、宮古島出身であっても、みゃーくふつがそれほど得意ではない者もいるかも知れないので、日本語訳を付すことは必要であろう。また、原文と日本語訳を使い、独学でみゃーくふつを学ぶ者もいるかもしれない。教室や教科書で言葉を学ぶこととは異なるが、メールマガジンも保存・継承にむけた取組の一つと言えるだろう。

インターネットでは、ブログやメールマガジン以外にも Facebook や YouTube といったアプリケーションもあり、この二つも地域の方言の保存・継承に活用されている。ここでは、アプリケーションの特徴から引用することはできないが、いくつか紹介したい。まず、Facebook のグループに「うちなーぐち講座（facebookkuchinaaguchi）」がある。このグループでは、うちなーぐちに堪能な者もそうでない者もできるかぎりうちなーぐちで投稿することになっているが、日本語の投稿を排除してはいない。「うちな

<sup>29</sup>金城信春氏に紹介された。

<sup>30</sup> <http://km22.web.fc2.com/>

<sup>31</sup> [http://melma.com/backnumber 33637 5765597/](http://melma.com/backnumber_33637_5765597/) 投稿者の氏名は削除した。

一ぐち初心者」が日本語で、「〇〇をうちな一ぐちで何て言いますか」のような質問してきて、メンバーがそれに答えることもある。YouTube は動画や音声の記録が投稿されてくるが、危機に瀕した言語の記録保存という観点から有益である。例えば、「Shimoji Isamu: Miyako language」という動画投稿 (<http://www.youtube.com/watch?v=GBnM6pdwZGQ>) がある。この動画では、宮古島市久松出身で、みゃーくふつでポップスを歌っている下地勇が、みゃーくふつに対する思いと黄金ことばをみゃーくふつで語っている。投稿者が日本語の注釈（翻訳）をつけているので、みゃーくふつを分からなくても、下地が語っていることの意味は理解できる。また、「うちな一ぐち、沖縄方言、そのほかの琉球諸言語の勉強のための資料」という動画が投稿されている。この動画では、投稿者のオランダ人が奄美・琉球の方言を独学で学ぶための教材・資料について沖縄方言で紹介している。この動画でも、日本語の注釈（翻訳）がつけられているので、沖縄方言で語られていることの内容を知ることが出来る。

最後に、小説等の出版に見られる取組について述べる。奄美・琉球諸島で話されている言語が詩、小説、随筆等の文学作品に表現手段として用いられることはあまりなかった。沖縄出身の作家で、地域の方言を話せる者でも、作品はほとんどが日本語で表現されていた。ところが最近では、数は多くはないが、一部または全部が沖縄方言で表現される小説（翻訳を含む）が出版されている。例えば、目取真俊著の『眼の奥の森』（2009 年、影書房）は、日本語に沖縄方言のルビがふられる形式で、部分的に「二言語」で表現されている。また、大城立裕著の『琉球組踊 続十番 真北風が吹けば』は上下 2 段に分かれていて、上段が沖縄方言で書かれ、下段にその日本語訳が書かれている。同様な形式が比嘉清著の評論集『うちなあぐち賛歌』（2006 年、三元社）でも採用されている。比嘉は、うちなあぐちを保存・継承するためには、とにかく使わなければならない、との認識にたち、書くことを勧めている（上記の南謡出版の WEB ページを参照）。新しい取組として夏目漱石の小説『吾輩は猫である』の沖縄方言訳『吾んねー猫どうやる』（宜志政信訳、2001 年、新報出版）と『坊っちゃん』の沖縄方言訳『沖縄方言版 坊っちゃん』（宜志政信訳、2003 年、新星出版）が出版されたが、2003 年以降は日本語で書かれた小説を沖縄方言に翻訳するという取組はみられないようである。メジャーではないが、上記の南謡出版の WEB ページの管理者が執筆し、同社が出版するうちなあぐち小説があるが、同ページで購入可能である。

## 6. おわりに

これまで述べたように、沖縄県及び奄美地域では、危機的な状況にある方言の保存・継承にむけてさまざまな取組が実施されている。沖縄県・那覇市・奄美群島広域圏事務組合・与論町等の行政組織及び教育委員会も地域の方言及び文化の重要性を認識し、保存・継承にむけた方策を検討・実施しているようであるが、言語政策・言語計画のレベルでの検討がされているとはいいがたい。中長期的な目標・計画を立てて、それを達成するための年度計画（ロードマップ）を策定し、計画にそって保存・継承にむけた取組を実施することを検討する必要があるだろう。また、沖縄県及び奄美地域の全市町村が同じような認識を持って、危機的な状況にある地域のことばが消滅しないような対策を連携して考える必要がある。アンケート調査を含めた今般の調査からは地域（市町村）によって危機感に差異があるように感じられた。



地域の方言の保存・継承にむけて積極的に取り組んでいる NPO 等の民間団体の活動は高く評価される。しかしながら、多くの団体は、いかにして若者の参加を促すのかという課題がある。NPO 法人沖縄ハンズオンのように、中心となって活動しているメンバーが若手で、地域の高齢者や他の NPO 法人のメンバーである高齢者と連携した取組を実施しているところもある。今後は、このような連携がより必要となってくるであろう。

ラジオ・テレビ及びインターネット上での取組は、特定の人々（講座への参加者等）ではなく、広く一般に地域の方言に触れる機会を与えるという意味で有効な保存・継承活動であると言える。しかしながら、ラジオ（AM 及び FM）の活動にも「高齢化」の課題がある。地域のことばでニュースを読んだり、地域的话题を語ったりする「パーソナリティ」はほとんどが高齢者で、若手がいらない。この課題が解決されないままだと、これらの番組はそう遠くない将来に消えてしまうことが懸念される。

沖縄県及び奄美地域において、地域の方言を母語（第一言語）とする若者はほとんどいないであろう（いたとしても非常に少ないであろう）。このような状況で、若者が地域の方言を保存・継承することの意義（理由）を理解しない限り、本章で述べた取組は、一部の高齢者が「自分達のことば」を残そうと尽力しているだけで、若者が継承する必要性があると、若者に認識されることはないであろう。その意味で、現在、活動に従事している人達は、地域の方言を継承することになる若者をいかにして活動に参加させるのかを真剣に（しかも早急に）検討し、対策をたてる必要がある。若者中心の活動を、地域の高齢者が支援するという方策も可能であろう。地域の方言の未来は、若者が継承するかどうかにかかっているのである。

## 自由記述

### 1. 実施している・実施したことのある取組の内容

- 去年の7/8（日）、7/29（日）、8/26（日）の3回に分けて『三世代の島言葉による史跡めぐり』と題して、親子3世代での参加を条件に西原地域の方言を使いながら、地域の史跡文化を訪ね、マップを作成しようというねらい。
- 講座を開いた
- 学校における地域のお年寄りによる地域の方言による昔話の語り聞かせ。
- 大学等研究調査への協力
- 国立国語研究所主催による実態調査 23 年 2 月 国立国語研究所与論町教委主催・与論島ことば調査のつどい 24 年 12 月 2 日 「でっかい夢語り大会」（内容別紙） 「与論カルタ大会」 与論小学校では総合的な学習の時間 毎月「ゆんぬふとうば学習」を取り入れている。
- 方言大会 20 年前
- 「焼内のシマユムタ宇検村方言録」 14 集落、村内すべての集落の方言・映像を DVD として収録している。2006 年～2012 年実施
- 過去に実施したことがある取り組み 町内ケーブルテレビにて、岡村隆博先生（町内在住奄美後研究者）による島口講座の放映したことがある。
- 現在実施したことがある取り組み 「アシュリー（ALT）とヤナギーの島口で英会話」という ALT と役場職員による島口と英会話を交えた会話を収録した番組を町内ケーブルテレビで放映している。
- 市で方言のお話大会を開催している。（南城市しまくとうばお話大会）また、学校によってはその予選会として、校内しまくとうば大会を開催している。
- 嘉手納町しまくとうば語やびら大会の実施。
- 本町の各地区の子供達にうちなーぐち（金武くとうば）を教え発表会を行う
- 平成 22 年度地域伝統芸能等保存事業（財団法人地域創造）において、地域に伝わる島唄の保存・継承のための DVD を作成した。
- 平成 20 年度文化財総合的把握モデル事業（文化庁）において、地域の文化遺産（方言も含む）の発掘調査を行い、現在は、地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業と名称を変えて行っている。現在方言に関する調査として、地形に関する方言名、魚介類の方言名などの調査を継続している。なお、この調査に関しては琉球大学の渡久地健氏にご意見をいただいた。
- 「島口・島唄の祭典」地域の宝である島口・島唄の保存・継承を推進することを目的として、寸劇&思い出話などを一般の方に発表してもらう。
- 町文化協会主催の「しまくとうば大会」を開催。（各地域の方言を使ったお話し大会）
- 放課後子ども教室きら☆きらりにて方言劇を行っている。学振大会・公民館祭で舞台発表をしている。
- 島クトゥバ普及小冊子を作成し、25 年度市内小中学生へ配布予定している。※那覇市では”ハイサ

イ運動”に取り組んでいます。

- 過去に実施したことがある。読谷村第2次基本構想をしまくとうばで表記し発刊。
- 琉歌を募集し琉歌集を発刊（平成6年～平成15年）。
- 各字に伝わる伝え話の記録調査、整理、資料集の発刊（昭和54年から平成15年）
- スリー語やびら沖縄口（しまくとうばによる発表会）の開催（平成6年から現在まで毎年開催）
- 記録調査した音源を歴史民俗資料館で放送（常設展中）
- 村作りの目標・あるべき姿を琉歌で掲げる。
- 『名護市史本編・10 言語』の刊行とそれに向けた調査・記録保存
- 市民グループが上記を利用した勉強会（博物館にて）
- 名護市ではほかに名護市文化協会により「シマクトゥバ大会」を開催
- 村内の小学校のクラブ活動において「方言クラブ」を行っている。地域の人材を活用し、小4～6年の児童に方言による読み聞かせや言葉（物の名前等）を教えている。
- 小学校（ヤーデイ）子ども趣味の講座（方言教室）公民館祭り（島ふつ大会等）
- 越来の方言調査（S60）・わらべ歌調査（S63～）※一部報告書として発刊
- 民話調査（S55～H2）[音声データ及びテキスト化したデータあり]※一部報告書として発刊
- 高齢者にむけて、方言での昔ばなしの朗読を行っている。
- 「しまくとうば語やびらうるま市大会」市文化協会と共催し、平成17年度より開催
- 教材：『いふわくとうば沖縄県石川市伊波方言集』伊波信光/著 石川市教育委員会 1993年刊行
- 児童生徒への芸術鑑賞会（組踊）
- しまくとうば体験事業(H23年度)
- むらや一塾（読み聞かせボランティア）
- 「市史」等刊行物への記録
- 徳之島文化祭・徳之島民謡大会を開催し、島唄及び民俗芸能の発表を行う。
- 島口・島唄の祭典を開催し、町民の皆様に島口にて各種発表をしていただいたり、島唄を披露していただいている。
- 公民館講座において、島唄教室を開講し、小学生～社会人への普及を図っている。
- 子どもシマグチ大会の開催（主管：町中央公民館）
- 本村では伊江小、島小において学芸会における取り組みのほか、地域ボランティアを活用してイージマグチを織り交ぜた朝の読み聞かせを行っている。また島の代表的な民話をイージマグチで語らせる試みや、ふれあい給食でお年寄りや給食を食べながらイージマグチや地域文化と直に触れ合う機会を作っている。
- 市文化協会と共催事業として「豊見城市しまくとうば子ども教室」を開催している。講師2名で20回の講座を開催し、最終的に発表会を開催し、沖縄県文化協会主催の「しまくとうば語やびら大会」へ市の代表者を派遣する。
- 平成24年度から伝統文化学習の日を定め毎月第3水曜日、午後4時から小学1年生から中学3年

生までを対象とし、地元人材を活用し、11 講座（教室）を実施しており、その 1 つに方言講座がある。定員は 9 名である。

- 平成 24 年 9 月 9 日、別紙チラシのとおり発表しています。
- 地元の方言である「金武クトゥバ」を継承する為に図書館文化講座として「アジクーター金武クトゥバ」を実施した。
- 講演会 演題：「ことばの持つ癒しの力」～くとうば、じんじけー～ 内容：沖縄方言の基礎知識
- おはなし会で方言の絵本を読み聞かせを実施した。
- 読み聞かせボランティアの学習会で方言のオリジナル紙芝居を三線、歌を交え実施した
- おはなし会での島ことばでの読み聞かせ
- 郷土資料の収集・閲覧・貸出
- 琉球歌加留多大会（町教育委員会、町文化協会との連携）
- 県立奄美図書館生涯学習講座「あまみならでは学舎」の中で実施
- H24. 子や孫に伝えたい島ユムタ→講座の様子を DVD に保存し、館内で視聴できるようにしている。
- H9.奄美の方言について
- H8.奄美方言おもしろ語源探索
- 大島地区方言マップの館内掲示（大島地区文化協会連絡協議会制作）
- 古文書講読
- 「しまくとうばこどもニュース」ハンズオン NPO「宮城カツエの縁め愛さ」宮城カツエ 以上に 2 組昨年からおとしにかけて番組として放送しておりました。
- 「うちなーぐち NOW」現代の若者が使う“リアルうちなーぐち”を 1 分間で完全マスター！！するラジオショートプログラムです。うちなーぐち NOW うるま放送部 検索するとこれまでのコンテンツ、約 150 本がインターネットでお聴きいただけます。
- 連載「くとうばと生きる」など、紙面でシマクトゥバの大切さを読者に気づかせるようなとりくみをしてきた。また、シマクトゥバ関係のアンケート結果などあれば即時掲
- 番組で琉球いろは歌を紹介しています
- シマグチ大会（過去に実施） 奄美民謡大賞（島唄のコンクール） シマあすびのタベ
- 方言に関する教育素材を作成しています。
- NPO 法人うちなあぐち会が作成した資料を使いあいさつ歌など基本的な内容
- 沖縄芝居の上演とワークショップ
- 旧暦 1 月 1 日、男性を中心に初御願（ハチウガン）の口上を述べる時、島言葉でおこなっている。
- 平成 20 年 手書きのテキスト発行 300 部→年に 15 回の教室を開いた。 平成 24 年 手書きのテキスト発行 700 部の内（地域の小・中高生全員へ 300 冊贈る。学校図書 40 冊。残り婦人会員と一般へ）
- 毎週一回（2 時間）勉強会（公民館で）

- 県や市町村の文化協会やしまくとうば関連団体と連携をとり、こどもしまくとうば教室やしまくとうば関連イベントの開催。(シンポジウム、しまくとうばで行く歴史ツアー等も含む)。県内のFMコミュニティラジオ局(FM ニライ、FM やんばる、FM よみたん)でしまくとうばラジオ番組を行っている。中高生のための人材育成プログラムにしまくとうば民話紙芝居を入れて普及を促している。(子ども会ジュニアリーダークラブ(沖縄市・北谷町)、ハンズオンユース倶楽部)
- しまくとうばプロジェクトという自主事業をたちあげ、月に2,3回しまくとうば継承・普及のための企画をおこなっている。現在、連続講座を3つ実施しており、定期的にしまくとうば関係の企画を発信している。企画内容は、県内大学の研究者、識者をメンバーとして一緒に考え、実施している。
- ①『ウチナーグチ(沖縄方言)練習帖』で学ぶウチナーグチ(講師:高良勉)②『ブラジル3世ウチナーンチュから学ぶウチナーグチ講座』(講師:上間明)
- ①月1回のウチナーグチユンタク会②琉歌を三線にのせての勉強会
- 中部地区婦人連合会が主催している「島クトゥバし語やびら大会」を援助し、補助金を支出している。「島クトゥバし語やびら大会」の趣旨は以下の通り。 私たちの祖先から語り継がれ、生活の中で使われてきた「島クトゥバ」を地域の無形文化財として、再確認し、若い世代を含め地域住民が各地の島クトゥバに接する機会を創出することにより「島クトゥバ」の良さを学び会員相互の親睦と和を培いながらその継承発展を図る。
- 平成20年に宜野湾市 うちなあくち会を立ち上げ 2時間の10回かける3回、合計(60時間)の市民講座、2時間の7回(合計14時間)の市民講座、2時間の7回(合計14時間)の出前講座を開催し、計100名余の修了者を排出しました。宜野湾市内の児童館で週1回、年間を通して、うちなあくち指導 宜野湾小学校でクラブ活動の中で(5ヶ年前から) 県文化協会主催のしまくとうば大会に毎年子供の部一人、一般の部一人、出場させています。
- 1、小学校、中学校で学習支援活動 2、市民講座の開催 3、FM ラジオで民話の語句やトークを担当 4、自治会や老人会、子供会等で要請に応じて講話
- 舞台作品中に沖縄本島、宮古、八重山話の歌詞・台詞唱え等を使用 学校公演の際、作品上演前に、組踊りの唱え等のワークショップ実施
- 沖縄芝居を通して、会話としての言語 身分によって異なる言語(たとえば侍の言葉づかい、百姓の言葉づかい、遊女の言葉遣いなど)
- 過去十五年間、沖縄全島の小・中・高等学校で授業の一環として沖縄芝居の公演を行っていました。現在も沖縄芝居の現役として活動中です。
- ①毎年沖縄芝居の公演をしています。うちなあくちで若者たち(舞踊家や芝居役者)を指導しています。伝統芸能の継承です。 ②沖縄演劇協会の公演「現代沖縄芝居」のうちなあくちの指導をしています。③月1回若者たちの「モアイ」の場で指導しています。
- うちな一芝居の公演
- 塾長が町立の中学校の常勤英語教師を勤めており、学校の文化祭で、「沖永良の方言と英語」による



創作劇を上演した（平成23年度） 島内4中学校の英語暗唱分を「方言に訳に」2年、3年生全員により、英語と方言で文化祭で発表（24年度）

- 島唄の伝承
- 与論小学校でアシスタントティーチャーとして授業（月一回）年10時間 与論中学校は「選択制学習」で一学期に一回（年3回） 民俗村にて授業（2時間）
- ①沖縄の歴史、文化、自然について勉強会及び小学生への学習指導 ②沖縄方言による会話の勉強会及び小学生への学習指導 ③しまくとうば大会への出場に向けて、発表原稿の作成および発表の指導
- 勉強会「会員登録：約50名（勉強会には20名弱の方々が勉強しています。）」 ①沖縄方言を話せない方に（沖縄県外出身者や比較的若い沖縄の人）を対象に沖縄方言による会話のレッスン（発音、抑揚、表現など） ②やや話せる方には先人たちが残した音声をヒアリングして、できるだけ沖縄方言でコメントする。表現も学ぶ。
- 本会は、現在小学校4校、中学校1、高校にて、方言指導しておりますが、そのほか方言指導を担う講師養成講座や介護士向けの講座などを開設し、方言普及につとめております。
- 当館青年講座として、「ていんさぐぬ花」「安波節」等、三線学習も含めその歌の内容などを学びながら並行して、自分たちで図書館で調べ学習を深めていくという講座を実施
- 「うちなーぐちで伝える未来」という青年向けの講座を開催 方言の講師やミュージシャンを招き、うちなーぐちの魅力を語ってもらいながらライブを聞いた。
- 「挨拶（いえーさち）から始まるウチナーグチ講座」H24.6.26(火)～8.7(火)全7回 毎週火曜日14時～16時 ※地域の世代交流、方言と文化の伝承をはかる
- 公民館教室（方言教室）を1年間（20回）行ったが、受講者がいなくなり現在は行っていない
- 平成21年度 平成23年度 主催事業（講座）として取り入れた
- 過去に公民館講座で方言講座を実施したことがある。
- ①島唄・しまゆみた大会を実施 ②公民館講座に喜界島学教室を開催し、その中で方言についての時間もあり、方言についての理解を深めている
- ①過去の、ウチナーグチ講座にかかわった人たちと（しまくとうば ユンタク会）を結成し、各々の継承活動への想いや意見をまとめている ②次年度にウチナーグチ指導者養成講座（10回）予定している。
- 「島口使う日 しまぐちつこわーデー」 大島地区文化協会連絡協議会では衰退しつつある。奄美方言を保存・伝承に行くことを目的として、平成19年度から2月18日を大島地区の「方言の日」と定めています。伊仙町文化協会は「島口使う日」の開催を通して島口（方言）の保存・伝承活動を指導しています。
- 和泊町においては行っておりません。他団体が行っているのに協力はしております
- 町内のしまくとうばを町文化祭の中で発表会を持ち、取り組んでいたが、H23年度から町立中央公民館に事業を受けていただいている。

- 方言マップの作成。平成20年度より「方言の日」に係る広報活動として、大島地区方言マップを作成し、学校関係機関へ配布を行っている。なお、詳細については鹿児島県のホームページの地域の情報欄大島地区に掲載してあります。
- 大島地区文化協会では毎年2月18日は方言の日と定めています。知名町では、毎年2月18日前後に「島唄・島ムニ大会」と称したイベントを開催しています。町内の小・中学校、各老人会、一般から島唄、島ムニでのトーク、島ムニ寸劇等を発表しています。
- 1. 毎週日曜、午後6時、シマユムタイム（方言コース）・解説。奄美FM（ラジオ放送）。2. 年1回「島口、島唄のタベ」方言トーク、方言劇。3. 方言ラジオ体、方言ラジオかるた作成
- 大島郡文化協会連絡協議会で、島口・島ゆみたの日を定めており、本町でも、その日にあわせて教育委員会と共に「島唄・島ゆみた」の大会を開催している。（文化協会員の出場、各小中学校の方言劇等あり）
- 毎月2回のしまくとうば勉強会を開き学びを深め、しまくとうばについての情報交換をしている。
- 他団体とタイアップし毎週1回小中高生にしまくとうば教室を行っている（沖縄ハンズオンNPOとのタイアップ）。
- 成果発表としまくとうばの普及の一環でしまくとうば on stage（イベント）を町とタイアップして開催している。（語やびら、郷土劇、民謡ライブ）
- 沖縄ハンズオンNPOが運営しているしまくとうばラジオパーソナリティとして出演している。
- しまくとうば講座→平成23年度（沖縄県「しまくとうばの日」関連事業）
- しまくとうば語やびら大会、
- 琉球歌加留多大会
- 沖縄県しまくとうば大会に毎年参加（2名）、
- 平成24年度しまくとうばで遊ぼう会講座（全10回）開催、
- 現在しまくとうばサークルがある。
- 「島むに（方言）を話す大会」（石垣市文化協会主催、方言部会主管）。「石垣方言辞典」（宮城信勇著）、「竹富方言辞典」（前新透著）、「宝ぬ島言葉」宮良婦人会発行等も参考にしています。
- 島くとうば大会を年1回実施している。地域の言語というよりも、沖縄の方言を伝え残そうということで、島くとうば大会を開いている。
- 1. 沖縄市しまくとうば・語やびら大会（年1回）、2. うちなーぐち出前講座（小学校等へ）週1回程度、3. しまくとうば部発表会（文化祭）年1回、4. うちなーぐち講座（平成12年度8月に実施）、5. 機関紙の発刊「ゆんたくひんたく」（NPO法人うちなーぐち会編）
- 名称「スリー語やびらしまくとうば」ふるさとの言葉に対する関心を高め、その価値を見直す機会を提供し、地域文化の継承と発展の一助とすることを目的に、村内在住の保育園児から一般の方を対象として行っているしまくとうばイベント。
- 市内の小中学生（20～30名）に対し、「しまくとうば教室」の講座（20回）を開催している
- 2011年6月、うちなーぐち部会が発足。毎月、講座を解説（原文どおり）している。2011年9

月、「喜劇 ウチナーグチ万歳」の舞台公演を実施。関連企画として「しまくとうばは今・・・」のフォーラム開催。 2012年9月、しまくとうばの日。関連企画として「島々ぬくとうば 語やびら大会 村々（しまじま）美らさ くとうば清らさ」を新報ホールで開催。（主催：那覇市文化協会 共催：沖縄方言普及協議会 沖縄県うちなあぐち会 琉球新報 ラジオ沖縄）

- 沖縄県文化協会主催の「しまくとうば語やびら大会」に中城村代表を毎年送り出して、シマコトウバの保存・継承に努めている。

#### 4) どのような教材(テキスト)等を使っていますか。

- 史跡・文化の案内はニシバル歴史の会というガイド団体の70代のガイドが担当するが、主な説明に方言を使用するので、その通訳的な役割を祖父祖母が子（父・母）に伝え、孫が学ぶという流れで行う。
- 自前
- DVD(14集落分)
- テキストなどは講師などが準備した自作の資料を利活用している。
- 市としては教材は使用（推奨）していないが、大会の出場にあたり出場者が使っているかはどうかは把握していない。
- テキストなし
- 自分の作文をうちなあぐちに翻訳させる子や、図書館から本を借りてくる子がいます
- 聞き取り調査した音源 琉歌
- 『名護市史本編・10 言語』
- 民話の本や、紙芝居、講師の手作りによる物もある。
- 多良間独特の言葉の発音と特殊音の標記、独自で作ったテキスト
- しまくとうばを絵で表した資料（一日の挨拶、数の数え方、色彩、自然等）
- 白銀堂の由来や沖縄の民話の紙芝居
- 講師の方々が独自に編まれたテキスト等
- 各学校による判断（地域の年配者の指導、島唄の歌詞、『瀬戸内の昔話』テキストの使用）
- 広島経済大学の生塩睦子教授が1964年から伊江島の方言を調査・研究を続け、94年に「伊江島のはなしことば」を、99年には1万2千語を収録した「伊江島方言辞典」を発刊しており、現在も年に2、3回島を訪れ、お年寄りから聞き取り調査を行っている。最近では「イージマグチかるた」を完成させ、民話を絵本にして標準語とイージマグチ版の収録作業や五十音表のイージマグチ（単語）の作成に取り組み、今後活用する予定である。
- テキストは特に使っていない。講師が独自に地元の方言を教えている。
- 講師が作成したテキスト使用
- 講師が準備した資料
- 絵本、紙芝居

- 絵本、紙芝居、一般書
- ねゐていぶ発刊の「琉球歌加留多セット」 読み札 100 枚、取り札 100 枚、琉歌意識書 CD
- 講座資料は講師の自作資料
- 各々、パーソナリティの方々におまかせしておりました。
- 琉球いろは歌早わかり表を製作しました。
- NPO 法人うちなあぐち会の資料
- 1. 沖縄暮らしと昔話 2. ウチナーグチ資料集 3. ウチナーグチに強くなる本
- 手書きのテキスト（単語、簡単な話しことばなど。動植物、人体の名称、季節、天体の呼び方、人の一生における話しことば）
- 自作テキスト「琉歌大成」の歌のみ
- 地域に伝承される民話や神話、しきたりをリサーチし、それらを地元のしまくとうばに翻訳していただき紙芝居を作り、しまくとうば紙芝居キャラバン隊として出前紙芝居を公民館、児童館、保育園、小学校そして老人ホーム等で実施している。
- 各企画、講座ごとに講師が制作したものを使用している。あるいは、講師の案をもとに事務局で作成しており、いずれにしてもオリジナルのテキストを使っている。
- ①『ウチナーグチ（沖縄方言）練習帖』（NHK 出版）②講師がレジュメを作成し受講生に配布
- ①琉球歌加留多 ②沖縄口ことわざカルタ ③沖縄方言入門たのしいウチナーグチ ④はじみらなうちなあぐち
- 仲間と一緒に手作りの教材を使っております。
- 自主制作 日本、沖縄の民話などを沖縄話に訳しときに紙芝居などに仕立てる 昔の玩具や草あみ玩具を手作り 新聞紙上に載った石原先生の論文をコピーして教材として活用
- 「乙姫劇団」という沖縄芝居の劇団が行ってきた芝居の脚本など
- 沖縄芝居の台本を使用
- 沖縄芝居の脚本とこの間血肉化されたことばをもった「私自身」の人生がテキストです
- 数々のうちなあぐちの台本
- すべて塾長の手作り
- 師匠からの伝承
- 与論小の場合、単語や文型のプリントのほか、カルタ（単語版、文型版）
- 新聞・歴史書・沖縄方言の専門書・琉歌集等及び当会作成のテキストを使用
- 沖縄口さびら船津好明著「琉球新報社発行」 私どもの会で開発した教材
- ①初みらなうちなあぐち（初級用） ②沖縄の暮らしと民話（中級用） ③その他、講師独自のテキストで指導している
- 図書館で独自に本などを借りて行った。
- NPO 沖縄方言（うちなあぐち）普及協議会会員を講師として招き毎回資料を持参してもらった
- 地域の言語を普及して考えている人に講師を依頼しテキストは講師に任せていました。

- 講師の手作り資料
- 図書館の郷土資料
- 話せる人の集まりなので特になし
- 各講座により異なる
- 大島地区各市町村へ方言に関する調査を依頼し、その調査結果を参考にしています
- 発表に向けて校區別に文化協会員が入り練習を行っています。
- 奄美の方言さんぽ、奄美方言の語源散策
- 教材はなし。地域の方々の協力で、子供達の指導あり。
- 講師からいただいた教材や、また独自で地域のしまくとうばにも対応できるようにアレンジを加えることもあります。
- 自作資料
- 講座の時は講師が作成。
- サークルは会員が作成（民話、手遊び、琉球カルタ）
- 話者（方言を語る人）が各島々、村々の老人から方言をならい各自がまとめて発表している。（八重山は今も島々、村々で話される言葉がちがい生きている）
- 教材はありません。共通語で書いた原稿を島くとうばになおして発表をしている。（正しい言葉遣いになっているかどうか？専門的には分からない。）
- 自前で作成したものを使用。
- 専任講師に一任している。
- 決まったテキストは使用していない。→一定期間、うちなーぐちの保存・継承について、部会員に自己意識啓発及び共通認識を持たせるため沖縄の言語、文化、芸能など各分野の専門家を招き、講話をしてもらった。 ①語をつくる。文を作る。 ②琉球文化の危機 ③自己紹介 ④ふいぬかん ⑤琉歌で学ぶ ⑥わらべうたで学ぶ ⑦言葉は文化遺伝子 ⑧うちなーぐちフィーリング ⑨おもろのうちなーぐち ⑩竹取物語（だきとうーや むんがたい）

#### 何か課題・要望はございますか

- 方言を話せる人が少ない。
- 方言を学ぶ意義についての認識が薄く、方言消滅の危機感がない。
- それらに対しての地域へのアプローチがなかった。
- 教育委員会の主催事業で取り組みはまだ行ったことがない
- 教師不足
- DVD化はしたが、生きる方言としてどのように次世代につなげていくかが課題である。活用方法を学校教育機関との連携が必要となる。
- 課題：上記の取り組みを行っているが、町内在住の児童・若者の島口離れは加速しており総合的な取り組みが必要である。希望：他地域の取り組み事例など参考となる資料が欲しい。



- 市内でも地域により方言は異なるために地域独自の大会を開催することや、市として「方言講座」を実施する等の取組を実施していくことが課題である。
- 一部町民しか認知していない。
- 子どもたちの参加が少ない。
- 現在はないが、いずれは行う。
- 家庭でいかに八丈語を使うようにできるか
- 50代以下への注意喚起と普及
- 島口の伝承には学校の協力なしには不可能で、伝承を義務付ける必要を感じている。文部省で決めてくれたら簡単なのと思う
- 方言をお話しできる方の高齢化
- 人が集まらない事が課題
- しまくとぅばを話せる方がいらっしゃるうちにたくさんのお話の録音、録画を
- 方言の意味がわからない、発音がなかなかできない等
- 「しまくとぅば語やびらうるま市大会」に出場する小中学生は、暗記して出場しているが、日常会話をするようには話せない
- しまくとぅばを継承して伝えることのできる人材育成の予算が不足
- 紙芝居や絵本等、教材購入や作成の予算が不足
- 日常生活の中でしまくとぅばを使う取り組みが必要
- 新成人アンケートをとると、年々「島口を話せない・分かるけど話せない」という方々が増えてきている。
- 大島方言の一般的『日本語』にはない発音が難しい。
- イージマグチの保存、活用は急速に取り込まなければならぬ課題であり、「イージマグチ講座」など地道な取り組みで村民が方言を使う気運を高めていく必要がある。イージマグチにちなんだ行事の開催など今後検討していきたい。
- 沖縄県で見本となる教材を提供して欲しい。
- 今後も実施していきたい
- 若い世代の参加者が少なく、世代を超えて参加しやすい場の提供
- 利用者から沖縄のわらべうた・民話のCD等の要望がある。市内地域で採訪された資料の視聴覚資料への活用が課題である。
- 課題・図書館の開館日なので駐車場が使用できない。できるだけ公共交通機関を利用していきたい。
- もっと多くの人に広めていきたいです。
- 継続できるよう、そして学びたい方の為 無料で受講できるシステムにできないか。
- 歌劇ワークショップ+舞台公演を継続的に実施できる環境の整備（資金+場所）が必要です。

- 島言葉サロンを作り、楽しい語らいの場所が出来ればうちな一ぐちの普及にもつながると思う。
- テキストの発行は金がかかる。(広告をとり資金作り) 地域で指揮をして教えてくれる方がほしい。村単位(言語がちがうため)の取り組みがほしい。
- 若い人が会員にならない。
- しまくとぅばの普及は、文化的なアイデンティティの大事な要素であります。将来においてウチナーンチュとしてのルーツを探し求める方々の為に、多様性に応じて学べるプログラムづくりが急務であります。そのために一刻も早く大学等の機関主導で地域のなまりを保管できるようなデータベースを構築して頂きたいです。
- 大学等の専門機関にしまくとぅば学科を設け、地域の継承言語であるしまくとぅばの保存と普及を同時に行っていただきたい。
- 独立採算でおこなっているため、遠方から講師を呼ぶなど、大きな企画ができない。十分な資金がない。
- 課題・講座への広報不足
- 文法・音韻など分野別のテキスト②表記法の統一
- 「島クトゥバシ語やびら大会」の活動を婦人会のメンバーだけではなく、子供たちを含めた地域の人たちにどうやって広めるかが課題になっている。
- 宜野湾市内の8つの小学校、児童館、地域の保育園等にうちなあぐちを指導しに行きたいと思っておりますが、講師になり手が少ないので講師を養成し、指導者を宜野湾市内の小学校、幼稚園、保育園、5つの児童館などへ、派遣したいと思っております。できたら金銭的な支援、援助も(教材費など)お断りいたしません。援助してほしいと思います。
- 1) 教材、活動費の援助 2) 先生方からのテキスト、指導案の制作と提供 3) しまくとぅばの正確で読みやすい表記法の考案 4) しまくとぅばの復興、再生の為に、行政、研究者、民間団体の三位一体の取り組みが必要 この三者を中心にして金銭的な協議会の起ち上げ
- 新作の組踊や歌舞劇を創作する際の台本のチェック あるいは日本語から琉歌への翻訳指導を受けたい。
- 沖縄芝居は、うちな一人が育てた大衆文化芸能です。その中には、時代背景や身分の違いによっての言葉遣いの違いなど生きたうちなあぐちが残されています。言籍を研究している方々にもぜひ、沖縄芝居を見ていただきたいと望みます。
- 沖縄方言を広めるため沖縄芝居の公演を多くの人に見てほしい。
- 沖縄芝居は台詞劇も歌劇もその脚本がなによりも優れた「テキスト」です。その脚本の編集と舞台公演のDVDを作成してください。
- うちな一芝居専用の劇場が無いため市民会館とか箱モノが大きく芝居の公演に経費がかかりすぎて実施がままなりません。
- 地域の文化を形成してきた「うちなあぐち」がなくなりつつあることに危機感を覚える。②学校教育の教科の中に沖縄方言、その他伝統文化などを取り入れるよう建言してほしい

- できれば運営費の補助がほしい
- 言語教育は幼児期からの取り組みが効果があるも、適切なテキストの作成、幼児教育を受ける団体が少ないので、行政と一体的取り組みが肝要と思われます。
- うちなーぐちを未来に伝承していくために、講座を定期的に関きたい
- NPO 沖縄方言普及協議会は首里方言を基盤にしている。地域の方言を生かすためには、地域の方を講師にすべきと再認識した。
- 現在は方言などの重要性が認識されつつあるが、以前は沖縄・奄美の離島においては小学・中学では方言は使用禁止の教育がなされて、その影響が強いように思われます・
- 特に市民からの要望はいまのところないかな
- 音声資料を十分に使いこなせずにいる
- 地域内でも、違う名称などがあり、どのウチナーグチに統一しようか課題あり
- 課題：若者の公民館事業への参画
- いずれは冊子に出来ればと思いますが、地域により発音等が違い、「知名町の方言」と1つにまとめることがむずかしいです。
- 方言は日常生活で使うことが一番であると思う。使う環境を造ってあげることが必要であると思う。
- 予算、講師の確保
- 指導者がいないので長続きしない
- 予算がない
- 日常生活の中で方言が使用されるような運動をおこす。例えば方言札があって方言が使用されなくなった教訓から今度は方言が使用されるよう何か標準語札みたいなものをつくり、島々、村々の言語を使用し守る運動が痛感される。
- 年輩の皆さんも方言を使う人も少なくなり、地域の言葉の確保が取れない。
- ほとんどの活動がボランティアでやっている為、個人負担が大きい。予算の補助を市にお願いしているが実現していない。教材費等の補助があれば助かります。
- しまくとぅば講座を開講してみたいと思っております。
- 行政（国・県・市町村）からの財政支援が必要である。
- いつでもどこでも誰でも安心して使える、信頼できる沖縄方言の参照文法・語法書が必要である。
- 事業費予算の捻出が出来ないため、県大会に向けた村大会がやれない。
- 小学校・中学校での取り組みがなされていない。

#### （現在は）実施していない場合、その理由は何ですか

- 募集条件を親子3世代としたため、人が集まらなかったため中止となった。
- お年寄りの高齢化
- 方言発表会を取りくみ中
- 内容まで制限をかけると人数の集まりが悪い。

- 特になし
- 本村独特の方言・言語が無い
- はっきりとした理由はわかりませんが、本村においては若者の大半が本土出身そのことから児童生徒 2/3 の両親が本土出身片方の親も 1/3 を占めている。生粋の沖縄人（島人）がほとんどいない。
- 専門かつ担当の職員がいないため
- 日常で地域言語を使用しているのをよく見かけているため、消滅の危機に瀕しているという意識がないから
- 予算と人材
- 資料の保存の面で郷土資料の受入を行っている。よみきかせ会でボランティアの方がたまに方言で語ることがある。それ以外の具体的な取組は行っていない。他部署で対応
- 近年の行事予定としてはとりあげたことがないため
- 次年度事業で取り組む予定（具体案検討中）
- 教育委員会にまかせているため
- 図書館としては、どのような取り組みをすればよいのか、よく分からない。※方言。言語等に関する資料の収集（主に図書資料）については鋭意努力しています。
- 宮古の方言については、地域によって違いがあるため、どの地域を中心に行うのか、というのが今後の検討課題である。
- 南城市教育委員会主催でしまくとぅば大会があり、利用者の要望により資料の提供、貸出を行っている
- 教育委員会で実施しているため
- 図書館よりは博物館や文化課の業務と考えます 文化課が市史編集で地域住民の方に聞き取り調査（録音）などを行っていたようです。
- ニュースの内容などは、方言で伝えているわけではありません。（方言で伝えても、ほとんどの人が理解できない為）。しかし伝統行事など、方言で伝えるべきところは、地元の人に確認を取り、正確な発音で伝えられるよう注意しています。
- すでに多くの民間文化団体の事業や方言に関する投稿類を取り上げることによって側面的な協力をしている。
- 一回1000円（場所代、講師代として）とした7回講座で受講者がいなかった。
- （実施しない理由という訳ではありませんが）徳之島交流ひろば「ほーらい館」の利用者は小さな子供から高齢者まで幅広い年齢層の為、身近で地域の言語（方言）に触れる機会を多く子供達が自然に方言を耳にすることができる場を提供できていると思う。
- あまり必要性がないから
- 手段・方法がわからない。小さな団体では限界があるのかなと。
- 現在、「沖縄芝居」や「組踊」で用いられる方言を取り上げた講座の開催を検討中。ただし芝居にも造詣が深く「首里言葉」と「地域の言葉」の違いなどについても講義できるといった（講師）人材

探しに苦慮している。

- 当センターでは指定管理者による施設の管理を実施しています。貸館事業において文化団体による「島唄の夕べ」と題して継承に向けた取り組みを実施しておりますが、当センター主催では行っておりません。
- 場所、時間的なことなど確保が難しかったため
- 市民のニーズに応じて、講座を随時企画しているため。
- 方言などの重要性を一般的に認識していないのでは？
- 現在の小・中・高生の親や学生の周囲の人が方言を使わず共通語で接し、そういった人々も方言を知らない状況であると思われます。
- 幅広いジャンルの講座を開催するため
- 市民からの要望がない
- 計画された講座を優先実施したため
- 過去に和泊町史等で行っているため
- 平成25年度公民館講座（しまくとうば講座）予定。6.26/7.3/7.10
- 文化協会での受け持ちが困難になったため。
- 文化協会会員でそのような活動やサークル等がなく、県主催のしまくとうば大会にも当協会からの選出はありません。現在、南城市教育委員会主催のしまくとうば大会があり、小・中学校・一般からの出場者の中から県大会へ推薦という形をとっています。
- 実施の体制が整っていない
- 各字で字誌を発刊や計画しており、保存や継承をしているから。
- 人材不足。

## 備考

- (3)初めての試みでした
- (3)「岡村隆博先生の島口講座」平成11年4/21～12/22（計30回）（週1回） 「アシュリー（ALT）とヤナギー島口で英会話」平成24年6/26～（計7回）（月1回）
- (3)年に1回、県大会への予選も兼ねております。
- (3)子ども趣味の講座
- (3)定期的ではない
- (3)上記の各イベントは年に1回。公民館講座は年15回（1教室）
- 講座は20回開催する。毎週土曜日に開催。主に夏休み期間中を利用。
- 地域言語として、定期的な取組はないが定例おはなし会は月3回実施している。
- 大会は年1回（もとぶ展開催に合わせ、町民体育館で実施・12月）図書館のおはなし会や、各学校でも取り組んでいる。
- 市立図書館としては実施しておりません。



- (2010年4月1日より、沖縄県立宮古分館から移管)
- 教育委員会に任せる
- (3) 奄美民謡大賞、シマあすびの夕べ(年1回実施している)
- (3) 平成23年度1月11～2月22日 7回講座
- (1) 繁多川の島言葉(シマクトバ)の上手な人を「シマクトバすぐりむん」と認定して、地域の行事(総会、敬老会、新年会等)ごとに、シマクトバで挨拶させている。(3) 繁多川100周年記念誌、編集委員会の会員(12名)で、繁多川まいいを島言葉で案内する文案を作成中。
- (3) H25年活動(婦人会での取り組みのためむづかしい)継続は無理、次の会長は方言を知らないため取り組みがなされていない点。
- 毎火曜日(公民館本館以外必ず)
- (3) しまくとうばの取り組みとしては毎日です。各ラジオ番組や教室は週1回の頻度で行っています。※ラジオ番組を地域のコミュニティー放送局で運営することが世代間交流の起点となり、そこから生じるプログラムをカスタマイズしワークショップとして開催している。
- (3) ①2012年5月～7月(10回)(春頃再開講予定) ②2012年12月～2013年1月(10回)(2月から再開講予定)
- (3) 現在 宜野湾市の中央公民館で月3回のサークル活動、勉強会、研修会、第2、第4土曜日(1時から3時まで) 第3土曜日 地域でうちなあぐち指導、宜野湾市立小学校にうちなあぐち指導しております 県文化協会主催のしまくとうば大会に毎年子供一人、一般人一人、出場させております。その他、老人施設、老人ホーム、地域のミニデイサービスへの慰問、子育てサロン うちなあのわらべうた指導など。
- (3) 年1回、機関誌の発行 市町村文化協会しまくとうば部の支援 会員の学習会(月1～2回) 史跡、歌碑めぐり(年1回) その他 (10)実施しているが、教材などの紹介、提供をしていただけたらとてもありがたい。
- (3) 年3、4回の公演を実施することにより、年間を通し稽古できる状況を作る
- (3) ①芝居公演に向けての指導は週1～2回になります。 ②映画の出演のリハでもうちなあぐちで話しています。
- (3) 程度は日本と方言、英語を交えて授業をじっししている。
- (3) ①会員の勉強会月3回 ②小学校でのうちなあぐちクラブなどの指導年10回×3校 ③公民館において、しまくとうば教室の指導20回×2市 ④浦添市語やびらしまくとうば大会開催年1回 ⑤しまくとうば語やびら大会への派遣及び引率年1回
- (3) 会報「うちなあぐちかわら版」の発行、現在17号(2004年3月から発行) ホームページの開設、会の活動状況を広くPR(2006年3月から運用) 適宜更新、論文など、教材のダウンロードで学習支援 その他、沖縄方言辞典の再発行を文化庁、国立国語研究所、下蔵省に陳情に実現した
- 毎年2月18日前後の日曜日、一部島口かたり 二部島口劇(〇〇教授) 三部一般の方の発表 ※

毎年8月に3町民謡（島唄）大会があります ※持ち回りでを行っています（各町） ※小学校によっては発表会に島口劇を取り入れられているということもあります。 ※出身者が少なく伝承が難しいとのことがあるようです（各学長）

- 毎週日曜日の方言コース、・毎朝ラジオで、奄美の俚言、格言「今日の教訓」5分間放送、
- 年1回は「島口、島唄の夕べ」開催
- (1)平成25年2月終了(サークル)
- (3)今年度、平成25年度は3回目の発表を予定しております
- (3)平成24年7月7日(土)に行った「スリー語やびらしまくとうば」は第21回目を迎えました。
- (この講座は)平成24年度は夏休み期間中に実施した。
- (3)9月の県大会に向けて、希望者を募集して個別に選考している。
- (10)おそらく、教育委員会での公民館講座などで検討の可能性があるかと思います。

インターネット上の取組（資料）

奄美方言

タイトル：奄美大島のささやき（「奄美大島の方言」ページ）

URL： [http://surfofuminchu.web.fc2.com/amami/amami\\_dialect.html](http://surfofuminchu.web.fc2.com/amami/amami_dialect.html)

内容：奄美語の単語の一覧。意味と使用例が記載。

タイトル：ふるさと情報室（鹿児島県方言＞「奄美の方言」ページ）

URL： <http://www.osumi.or.jp/sakata/hougen/amami.htm>

内容：奄美の方言単語の一覧。奄美方言の分類の説明あり。

タイトル：奄美時間 奄美大島完全ガイド（「言葉(方言)・習慣」ページ）

URL： <http://homepage2.nifty.com/1215/ag.htm>

内容：奄美方言の単語と標準語訳がカテゴリー別に記載されている。会話表現、奄美方言の解説もあり。

タイトル：鹿児島県沖永良部島、奄美大島、沖縄県の方言

URL： [http://www.sh.rim.or.jp/~misshie/amami\\_hougen.htm](http://www.sh.rim.or.jp/~misshie/amami_hougen.htm)

内容：沖永良部、沖縄本島、奄美本島の方言の単語の対応表。

タイトル：沖縄方言研究センター 奄美方言音声データベース

URL： <http://www.ocls.u-ryukyu.ac.jp/rlang/amm/index.html>

内容：奄美方言の音声データベース。標準語、方言の双方の 50 音別索引のほか、カテゴリーや品詞別の索引もあり。

タイトル：奄美の小箱（「方言コーナー」ページ）

URL： <http://yamakyu.main.jp/amakoba/dialect/dialect.html>

内容：奄美本島南部の方言の解説と単語の一覧。一覧にはローマ字表記の発音と意味、使用例あり。

タイトル：方言ってなんだろう？地域の言葉を調べてみよう！方言から学ぶ文化多様性（「未来に伝えたい言葉 方言ムービー 奄美方言」ページ）

URL： [http://hougen.gakushu.net/movie/mov\\_03.html](http://hougen.gakushu.net/movie/mov_03.html)

内容：未来に伝えたい言葉として奄美方言を紹介しているページ。YouTube 動画あり。

タイトル：「つくってみよう 方言かるた」

URL: [http://hougen.gakushu.net/karuta/amami\\_karuta/index.html](http://hougen.gakushu.net/karuta/amami_karuta/index.html)

内容:「奄美方言(シマユムタ) 伝える会」が作成した奄美方言かるたを標準語バージョンと共に紹介。  
PDF ファイルでもウェブ上でもかるたを閲覧可能。

タイトル: 奄美大島の方言

URL: <http://masa.kizuya.jp/amami.html>

内容: 奄美方言の単語と意味の一覧が記載。単語数は少ない。

タイトル: 奄美インデックス (新南島通信 No.3～No.6)

URL: [http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin\\_3.htm](http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin_3.htm)

URL: [http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin\\_4.htm](http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin_4.htm)

URL: [http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin\\_5.htm](http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin_5.htm)

URL: [http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin\\_6.htm](http://www.synapse.ne.jp/hellokids/sinnantoutuusin/sinnantoutuusin_6.htm)

内容: 島口(奄美の方言)の入門コラム。単語や会話表現の解説や、島人の定義なども記載。

タイトル: 奄美あれこれ～シマクチ (奄美の方言) ～

URL: [http://www.geocities.jp/deep\\_red\\_cat/essays/shimakuchi.htm](http://www.geocities.jp/deep_red_cat/essays/shimakuchi.htm)

内容: 奄美の方言(シマクチ)、トン普通語についての解説。

タイトル: 奄美の風 (「【奄美方言の特徴】カテゴリのエントリ」ページ)

URL: <http://amaminokaze.com/html/modules/kuruma/index.php?cid=58>

内容: 奄美方言の辞典。右のサイドバーから単語の意味と使用例、使用地域を調べることが可能。

タイトル: のんびり奄美 (「島唄・方言・ことわざ」ページ)

URL: <http://nonbiriamami.com/pg642.html>

内容: よく耳にするシマグチの単語集。標準語での意味と例文が記載。

タイトル: 奄美自然観察記

URL: [http://blog.goo.ne.jp/inpre\\_anac/](http://blog.goo.ne.jp/inpre_anac/)

内容: 奄美方言(島口)と標準語で書かれたブログ。

タイトル: 未来に伝えたい言葉 奄美大島

URL: [http://www.youtube.com/watch?feature=player\\_embedded&v=UOYBOdux97A](http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=UOYBOdux97A)

内容: 「方言ってなんだろう?」HP より。奄美方言の継承に向けた活動の紹介など。

タイトル：奄美島口ラジオ体操ダイジェスト Mix 版（字幕あり）

URL： <http://www.youtube.com/watch?v=RihKsqOqWZg> 3分33秒

内容：奄美方言版のラジオ体操

タイトル：あずままだかの島口しゃべらんばあ！（1）

URL： <http://www.youtube.com/watch?v=xCwnZRdLvJo> 7分58秒

内容：徳之島の方言を覚えよう！という番組。

タイトル：あずままだかの島口しゃべらんばあ！（2）

URL： <http://www.youtube.com/watch?v=gFnyBHxOoM> 8分20秒

内容：徳之島の島口をマスターしようというコンセプトの番組。

タイトル：島口漫談「雨ニモマケズ」

URL： <http://www.youtube.com/watch?v=lFPMC5gvvyU> 9分48秒

内容：徳之島町生涯学習センターで行われた「第25回島口島唄の祭典」における島口漫談。

タイトル：第25回島口島唄の祭典あまがくとの話

URL： <http://www.youtube.com/watch?v=2ZrhuTy2GrA>

内容：徳之島町生涯学習センターで行われた「第25回島口島唄の祭典」における島口漫談。

タイトル：第25回島口島唄の祭典 マジムにウドゥチャン話

URL： <http://www.youtube.com/watch?v=wCtJRpIdqmk>

内容：徳之島町生涯学習センターで行われた「第25回島口島唄の祭典」における島口漫談。

沖縄方言・ウチナーグチ

タイトル：方言日記（まかびびにー）

URL： <http://yugurihaikarah.ti-da.net/>

内容：ゆぐりはいから～さんの(真壁の)方言と日本語で綴られたによるブログ。

タイトル：うちなあぐち賛歌

URL： <http://www.haisai.co.jp/>

内容：管理者のうちなあぐちに対する思いが込められている。「うちなあぐち日記」、「文で覚えるうちなあぐち」で実際にうちなあぐちで書くことが実践できる。



タイトル：たる一の島唄まじめな研究

URL: <http://taru.tida.net/>

内容：島唄の歌詞の詳しい解説。語句の説明と日本語訳がある。歌詞は漢字仮名交じり、ひらがな、ローマ字で表記されている。

タイトル：沖縄の方言～ウチナーグチ～

URL: <http://www.okinawa-oide.com/>

内容：沖縄方言の歴史と今、あいさつ/会話/もの・こと/家族・友人/食べ物等のウチナーグチ用語の一覧。沖縄独自の文化や沖縄に生息する魚についてのコンテンツも有り。

タイトル：沖縄方言辞典あじま

URL: <http://hougen.ajima.jp/>

内容：沖縄方言の用語が検索バーより検索可能。ウチナーグチ・クイズ、方言ことわざ、旅先ですぐに使える沖縄方言、沖縄方言料理編、なるべく使わないでね！の沖縄方言、等のコンテンツも有り。

タイトル：Okinawa 情報局（「かんたん☆うちなーぐち」ページ）

URL: <http://www.okinawajoho.net/pc/culture/kotoba/index.html>

内容：Okinawa 情報局によるうちなーぐちの用語紹介。50 音順の用語一覧が記載。

タイトル：ウチナーグチ辞典

URL: [http://www.koza.ne.jp/koza\\_index/uchinaguchi/words.html](http://www.koza.ne.jp/koza_index/uchinaguchi/words.html)

内容：50 音順に並べられたウチナーグチ用語の一覧。

タイトル：沖縄情報うちなーぐちフェスタ（「沖縄方言」ページ）

URL: <http://www.uchinajoho.com/okinawa/okinawabunka/hougen/index.html>

内容：うちなーぐちフェスタの沖縄方言のページ。方言のあいさつ、沖縄独自の名称、食事の表現、会話例、ことわざの記載有り。

タイトル：沖縄観光・沖縄情報 IMA（「沖縄の方言（ウチナー口）」ページ）

URL: <http://www.okinawainfo.net/uchinaguci.htm>

内容：ウチナー大和口の紹介、50 音順のウチナー口の用語一覧、離島方言のちょっとした紹介。

タイトル：沖縄の「旬」をお届け あちこーこー（「ウチナーグチ(沖縄方言)」ページ）

URL: <http://www.gyokusendo.co.jp/dialect/index.html>

内容：沖縄方言の基本用語の一覧、会話表現の紹介、地名・名前一覧、方言での食べ物の名前など。シ

ーサー、キジムナーの解説など沖縄の豆知識も有り。

タイトル：わったー沖縄(うちなー)大好き！ (「沖縄方言(島(しま)言葉(くとうば)」ページ)

URL: <http://www.geocities.jp/kiyanmasayukijp/hougenn.htm>

内容：50音順の沖縄方言の用語一覧。単語と意味のみ。

タイトル：うるま放送部 | urumax (「方言ニュース」、「うちなーぐちNOW」)

URL: <http://podcast.uruma.jp/program/14/>

URL: <http://podcast.uruma.jp/program/0/>

内容：1) 方言ニュースのポッドキャスト。ページにはニュースの日本語訳が記されている。

2) 若者が使ううちなーぐちのポッドキャスト配信。

タイトル：うちなーであそぼ

URL: <http://www.nhk.or.jp/okinawa/asobo/index.html>・

内容：NHK 沖縄制作の「うちなーであそぼ」のテレビ放送後の配信。うちなー昔話、うちなー劇場、うちなーのうた、うちなー絵本、過去の放送(スクリプト・画像付き)も。

タイトル：面白？エミお婆さんのうちなーぐち大辞典

URL: <http://homepage3.nifty.com/nangokuya/okinawayogo.html>

内容：沖縄で標準的に使われ耳にする用語辞典。50音順。

タイトル：沖縄の方言とは違う比嘉光龍先生のうちなーぐち講座

URL: [http://www.okinavita.jp/index.php?module=CMS&page\\_id=365](http://www.okinavita.jp/index.php?module=CMS&page_id=365)

内容：比嘉光龍によるおきなわ語の紹介ページ。ユネスコの琉球諸語の分類の解説、比嘉光龍によるうちなーぐち動画、すぐ使えるうちなーぐちが記載。

タイトル：沖縄こどもランド (「住まいとくらし/沖縄の方言概説」)

URL: [http://www.pref.okinawa.jp/kodomo/kurasi/b2\\_hogen.html](http://www.pref.okinawa.jp/kodomo/kurasi/b2_hogen.html)

URL: [http://www.pref.okinawa.jp/kodomo/kurasi/b2\\_01.html](http://www.pref.okinawa.jp/kodomo/kurasi/b2_01.html)

内容：沖縄の方言/ウチナーグチの概説、首里方言での体の部位、あいさつ等の単語 (音声ファイルあり)。

タイトル：沖縄の心 (しまぬくる)

URL: <http://i.uchina.com/>

内容：挨拶、会話、人、買い物や食事に関する沖縄方言の用語・表現を解説と共に記載。音声ファイル

も視聴可能。

タイトル：沖縄方言ありんくりん

URL: <http://www.nuchidutakara.com/>

内容：沖縄方言の用語や表現を紹介。県花、県木、県鳥、県魚の記載の他、沖縄に関する情報も。

タイトル：うちなーぐち（ウチナーグチ）辞典

URL: <http://uchinaaguchi.com/>

内容：ウチナーヤマトグチ、琉球語の解説の他、うちなーぐちの用語の一覧(品詞別)。

タイトル：ちゅらっと（「沖縄の方言 うちなーぐち」）

URL: <http://w1.nirai.ne.jp/churat/hougen.htm>

内容：沖縄方言の用語と標準語、宮古の方言の対応表。（語数は少ない。）

タイトル：沖縄大百科

URL: <http://word.uruma.jp/>

内容：50 音別に記載されている沖縄方言の用語の意味を調べる事が可能。

タイトル：「沖縄口辞典」

URL: [http://www.koza.ne.jp/koza\\_index/uchina\\_guchi/index.html](http://www.koza.ne.jp/koza_index/uchina_guchi/index.html)

内容：沖縄方言の用語一覧。50 音順に記載。

タイトル：沖縄のことば ウチナーグチ

URL: [http://www.hamajima.co.jp/eigo/okinawa\\_kotoba/](http://www.hamajima.co.jp/eigo/okinawa_kotoba/)

内容：沖縄の文化や歴史を簡単な英語で紹介する読み物『Heart of OKINAWA』に対応したレッスン。  
音声・動画ファイル視聴可能。

タイトル：沖縄移住やいびいい～ん！

URL: [http://www.mangohouse.jp/mango\\_book/?cat=3](http://www.mangohouse.jp/mango_book/?cat=3)

内容：うちなーぐちのよく使われる単語集。50 音順で記載。

タイトル：沖縄方言ガイド

URL: <http://www.edukeo.com/hougen/>

内容：あいさつ、買い物など、状況別の沖縄方言の表現を紹介。

タイトル：美ら島物語（「島くとうば」）

URL: <http://www.churashima.net/word/index.html>

内容：50音順のしまくとうばの単語解説。

タイトル：沖縄方言 なんくるないさ

URL: [http://utina001.seesaa.net/category/2965611\\_1.html](http://utina001.seesaa.net/category/2965611_1.html)

内容：沖縄方言の用語をブログ記事で紹介。（語数は少ない）

タイトル：沖縄語 第二次世界大戦実話、熱く語る!!

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=KobXYjU2O4>

内容：80代女性が戦争体験を沖縄語で語る内容 17分

タイトル：沖縄をしまくとうばで語るシンポ

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=Tz4z1v9pfpA>

内容：沖縄の文化人・知識人が沖縄をしまくとうば語るシンポジウム

タイトル：琉球の島々の唄者たち～琉球諸語の復興を目指して 最終回～

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=dD2K8ftFfLg>

内容：琉球の島々の民謡・島唄の歌手達が参加したイベント。島々のことばと共通語としての日本語が使われている。

タイトル：上原正稔氏 講演 ウチナーグチの起源

URL: [https://www.youtube.com/watch?v=uqk\\_gFe3cgs](https://www.youtube.com/watch?v=uqk_gFe3cgs)

内容：上原正稔氏がウチナーグチの歴史について語る。

タイトル：初御願（那覇市繁多川）ウチナーグチでの挨拶

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=39jTHY9bo7o>

内容：ウチナーグチによる新年（旧正月）の挨拶 1分

タイトル：会長挨拶は沖縄方言（島くとうば）・浦添高校同窓会総会

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=7HDTxsfHdsQ>

内容：浦添高校同窓会で、同窓会長が沖縄方言で挨拶をしている。

タイトル：うちなーぐち：大里村字古堅 うちなーそーぐわち

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=QbnMtNFEpwM>

内容：沖縄島南部での大里村古堅の旧正月の様子。老人男性のうしろで三線を演奏しているのは比嘉光龍（バイロン）氏と沖縄系ブラジル人 3 世のウエマ・アキラ氏である。

タイトル：うちなーぐち、沖縄語、そのほかの琉球諸言語の勉強のための資料

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=teEUYW7Mw1o&list=UU9w3uyy2tGqIBfbUBJy4scw>

内容：オランダ人のハイス氏がうちなーぐちの勉強の仕方をうちなーぐちで紹介している。

タイトル：Okinawan Language [沖縄語講座]（比嘉光龍ぬピリンパラン語やびら）

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=6EfwfexTB9g> (Lesson 1)

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=ZWS8AtjmfB0> (Lesson 2)

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=6jYUQuiohho> (Lesson 3)

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=RFnuHGhD3X8> (Lesson 4)

内容：比嘉光龍による沖縄語講座。英語字幕、吹き替えあり。

タイトル：Byron Fija on Ryukyuan Languages in Uchinaaguchi

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=Now3rFJH6Is> 8 分 23 秒

内容：比嘉光龍による琉球諸語の解説。

## 宮古方言

タイトル：宮古島 宮古島の方言！miyakozima

URL: <http://www.miyakojima.net/hougen/index.html>

内容：宮古島が沖縄本島の方言とは全く違うことと、宮古の中でも市町村で方言に若干違いがあることが書かれている。他に宮古の平良方言で、人間関係を表したもの、体の症状、体の一部分について記されている

タイトル：さえこオバアが宮古島方言 (Youtube)

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=ozZyYk183YE>

内容：さえこオバアが他の登場人物と宮古方言で喋りながら、自転車盗難防止の宣伝をしている動画

タイトル：ATV 宮古島 宮古フッ（宮古言葉）

URL: [http://atvm.blog58.fc2.com/blog category 14.html](http://atvm.blog58.fc2.com/blog%2Fcategory%2F14.html)

内容：宮古の方言を使って日常会話などで独り言をつぶやいているブログ

タイトル：らっく ASIA:みゃーくふつ（宮古島方言）



URL : [http://rakkasia.blog56.fc2.com/blog entry 112.html](http://rakkasia.blog56.fc2.com/blog%20entry%20112.html)

内容 : 宮古の方言の音の特徴などが書かれている

タイトル : 宮古島版ラジオ体操 (Youtube)

URL : <http://www.youtube.com/watch?v=rYcp2hzveJ4>

内容 : 宮古の方言でラジオ体操の掛け声がされている。

タイトル : 宮古島方言独特の発音 (しゃべり 砂川国夫) (Youtube)

URL : <http://www.youtube.com/watch?v=5VCG29Hfts>

内容 : 宮古島方言の独特な発音を紹介している

タイトル : 【宮古方言】 方言ソング 2 曲 ～南と北～ 【津軽弁】 (ニコニコ動画)

URL : <http://www.nicovideo.jp/watch/sm13983060>

説明 : 宮古方言と津軽弁の歌を二曲比較している

タイトル : くまから・かまから

URL : <http://km22.web.fc2.com/>

内容 : 宮古方言を使ったメールマガジン

タイトル : Shimoji Isamu: Miyako language(YouTube)

URL : <http://www.youtube.com/watch?v=GBnM6pdwZGQ>

内容 : 宮古方言でポップスを歌う下地勇氏が宮古方言 (出身地の平良市久松) への思いを語った動画。

タイトル : パッソ宮古島 ムムマッファ宮古方言篇 (Youtube)

URL : <http://twinavi.jp/article/video/2182601651>

内容 : パッソの CM でさえこオバアが宮古方言を使いながら喋っている動画

タイトル : 宮古方言の発音 あっがいたんでい！ ブログ

URL : <http://motoca.ti da.net/>

内容 : 宮古方言について研究したことが書かれていて、言語学の知識についてなども書かれている

タイトル : 宮古方言の温かさ 彦リン倶楽部 goo ブログ

URL : <http://blog.goo.ne.jp/hikorin4691/e/b8a0ecdf8e81a166d64623dbc1451d73>

内容 : 宮古方言の面白い言葉などを紹介している

## 八重山方言

タイトル：石垣の方言などなど

URL: <http://homepage3.nifty.com/k2kita/ishigakijimairoiro.htm>

内容：単語紹介

タイトル：ほらふき方言大会より、方言を学ぼう！

URL: [http://jaima.net/modules/readings/index.php?content\\_id=72](http://jaima.net/modules/readings/index.php?content_id=72)

内容：1997年のほらふき方言大会優勝原稿

タイトル：方言を話せる嫁さんづくり

URL: [http://www.terra.dti.ne.jp/~miyara/hogen/hogen\\_index.html](http://www.terra.dti.ne.jp/~miyara/hogen/hogen_index.html)

内容：宮良婦人会による方言集 なかなか量が豊富

タイトル：『石垣方言の勘違い（小グッー）』

内容: <http://a19721972.ti-da.net/e3590488.html>

内容：中舌音について

タイトル：八重山方言で、ラジオ体操！

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=mUSPVzmZAy4>

内容：沖縄県立八重山農林高校の第31回運動会の模様

タイトル：八重山方言

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=DNSK1ZXtWwQ>

内容：何かの集まりの様子 男性が方言で挨拶

タイトル：八重山の代表歌「とうばら一ま」大工哲弘氏

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=fLp1tuuKI4>

内容：冒頭に大工哲弘氏が方言で語る

タイトル：八重山方言の狂言—いしやなぎら青年文化発表会

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=81251xb34F4>

内容：青年による方言狂言の様子

## 与那国方言

タイトル：今日の社説

URL: [http://ryukyushimpo.jp/news/storyid/140942\\_storytopic/7.html](http://ryukyushimpo.jp/news/storyid/140942_storytopic/7.html)

内容：与那国語の記録・保存に努めているドイツ人研究者パトリック・ハインリヒについて書かれている『琉球新報』（2009年2月20日）の社説

タイトル：与那国語～まちくとうば～

URL: [http://blogs.yahoo.co.jp/chararin\\_ue/30118752.html](http://blogs.yahoo.co.jp/chararin_ue/30118752.html)

内容：『八重山毎日新聞』（2009年8月1日）の記事を基に与那国語消滅の危機について述べている。

タイトル：与那国方言会話集

URL: <http://wikitravel.org/ja/%E4%B8%8E%E9%82%A3%E5%9B%BD%E6%96%B9%E8%A8%80%E4%BC%9A%E8%A9%B1%E9%9B%86>

内容：与那国方言の単語と簡単な会話文を紹介している。（語彙と会話文の数は少ない）

タイトル：チョッキンと与那国

URL: [http://t.chiyoki.no/blog.jp/blog/2010/12/post\\_4825.html](http://t.chiyoki.no/blog.jp/blog/2010/12/post_4825.html)

内容：与那国語消滅の危機について

タイトル：Ikema san is interviewed in the Yonaguni language on her Yonaguni dictionary

URL: [http://www.youtube.com/watch?v=KQOD\\_gXwK4w](http://www.youtube.com/watch?v=KQOD_gXwK4w)

内容：与那国方言話者の池間苗氏に与那国方言等についてインタビューしている動画

# 方言の継承普及に必要な教材と参考資料

かりまたしげひさ

## 方言の継承普及に必要な教材と参考資料

かりまたしげひさ

### 1. はじめに

消滅の危機に瀕する琉球諸語および八丈島語（以下、消滅危機方言と略称）は、それを第一言語にする母語話者の減少、さまざまな地域の人々の混住による標準語使用の増大等によって危機的な状況は深刻さを増していたが、2009年にユネスコによって継承すべき重要な言語であるとみとめられた。どんな小さな方言も固有の体系をもった言語であり、言語の機能という点で英語や日本語と同じなら、簡単なあいさつや日常の会話だけでなく、どんな出来事もどんなに高度で複雑な考えも微妙で繊細な感情も方言によって表現できるはずである。言語の継承とは、方言を再活性化させ、次世代の人々に十分な言語運用能力を身につけさせることである。

今の英語教育は、辞典、文法書、教材が完備し、専門教師による六年間の教育をうけているにもかかわらず、十分な言語運用能力を身につけさせているとはいえない。それほどに語学教育にはむづかしい面がある。親が方言を第一言語にしていなければ、子どもたちにとって方言は母語ではない。日常的に接しなければ、方言の習得はむづかしい。

消滅危機方言の継承と普及のためには、誰でも利用できる辞典とあらゆる文法現象について解説された文法書と発達段階や習得レベルに応じた教材と方言教育の専門家養成とが必要である。しかし、おおくの消滅危機方言は、辞典も文法書も教材もない。

日本語話者が誰でも日本語教師になれるのと同じく、方言話者が誰でも教師になれるわけではない。消滅危機方言の語学教育を専門にする教師の養成も検討していかなければならない。しかし、方言教育の教師養成も教師の講習もおこなわれていない。

学習環境の整っていない消滅危機方言のまるごとの継承の困難さは容易に理解できよう。

### 2. 教科書・副読本

学校で方言教育を実施するには専用の教科書、あるいは副読本が必要だが、現在は存在しない。那覇市教育委員会が副読本の発刊を計画中との話をきく。八丈町教育委員会も既存の副読本に八丈語（八丈方言）に関する内容を数ページ割り当てる計画があるという。現在の教育制度では専用の教科書を発行するのはきわめて困難なので、市町村単位で作成できる副読本刊行、改編の動きには期待したい。

方言についての副読本を作成し、それに基づいて教育することによって学校ごとに体系的で継続的な指導が可能になる。教師のとりくみ方や父母や地域の人たちの方言教育に対する関心やとりくみ方もちがってくる。

個々の教師が、その地域出身者でないばあいもおおい。その地域出身者であってもその地域固有の方言の保有者でないばあいも少なくない。そうであれば副読本の内容を一定の基準、一定の水準でおしえ



るための教師用の指導手引書も作成しなければならない。手本となるような指導案も複数つくっておく必要がある。地域の人を TA として協力してもらうときでも、副読本があれば、協力を依頼しやすくなるし、カリキュラムも編成しやすくなる。学校内での教材や指導実践例の共有化も学校を超えたひろい地域の協力も必要である。行政や教職員組合等の取り組みが重要である。

『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』井上史雄・吉岡泰夫監修（2004）ゆまに書房

『島唄から学ぶ奄美のことば』かごしま地域文化創造事業奄美地区実行委員会編（2010）

本書は、島唄を通して小学校高学年の生徒に方言に慣れ親しんでもらい方言継承をはかろうと企画されたものである。北大島、南大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の各地区の伝統的な島唄の歌詞とその解説、生徒がよく耳にする童謡などの各地区方言訳の歌詞が収録されている。なお付録として CD がついている。

### 3. 方言辞典、語彙集

辞典は、方言を記録して継承するための道具として不可欠なものである。方言語彙や表現には人々の生活や自然との関わりなどが反映されている。地域社会にストックされてきた知的財産としての方言を文字にして登録したのが辞典である。単語を探したり意味を確認したりする辞典には、一般図書にあるような筋の展開や物語はないが、気ままにページをめくって楽しく読むこともできる。方言初心者の方言世界にはいっていくためのナビゲータになるのも辞典である。衰退し変容していく方言の継承のためには、方言を知らない若い人でも使えるような辞典の刊行がのぞまれる。おおくの方言辞典に日本語引きの索引はあるが、方言を知らない若者にとって利用しづらいものである。和琉辞典あるいは標準語引きの八丈語辞典の整備が不可欠である。

#### 3. 1. 方言辞典

『沖縄方言辞典』国立国語研究所編（1963）、大蔵省印刷局

琉球国王城首里城のあった首里の方言を対象にした辞典。首里出身の琉球文学と芸能の研究者島袋盛敏（1890 年～1970 年）氏の作成した稿本を編集したもの。B5 版 860 頁。解説編 78 頁、本文編 521 頁、索引編 208 頁の三部構成。解説編は「Ⅰ消滅危機方言概説」「Ⅱ首里方言の輪郭」「Ⅲ首里方言の音韻と表記法」「Ⅳ首里方言の文法」からなる。本文編には、ローマ字を主体にした音韻記号で表記された 14300 の方言見出し語がアルファベット順に配列されている。見出し語にはアクセント記号も付されている。島袋盛敏の研究対象でもあった琉歌や組踊などに使用される歌謡語も用例としてあがっている。本書の全語彙と全例文が首里方言話者の音声とともに琉球大学附属図書館ホームページ上で「首里那覇方言音声データベース」として公開されている。

『沖縄今帰仁方言辞典』仲宗根政善著（1983 年）、角川書店

本書は著者自身の故郷の今帰仁村与那嶺方言を収録した方言辞典。角川書店刊。約 15000 の収録語

彙が五十音順に配列されている。同書は全ての見出し項目と全ての用例にアクセントを付している。カタカナとひらがなを利用した工夫がなされた仮名文字が併用されている。仮名文字の併用によって一般の人の利用を助けている。本書の全語彙と全例文が実際の今帰仁方言話者の音声とともに琉球大学附属図書館ホームページ上で「今帰仁方言音声データベース」として公開されている。

『奄美方言分類辞典』上巻・下巻、長田須磨・須山名保子・藤井美佐子編著、笠間書院

本書は、著者長田須磨の故郷の奄美大島大和村の方言語彙を収録した方言辞典。他の辞典と異なり単語が意味分野別に配列されている。標準語引き、方言語形の五十音引きの索引があって検索が容易である。習俗や文化の意味記述が詳しく読み応えがある。近くて遠い奄美の実像が見えてくる。本書の全語彙と全例文が実際の著者長田須磨自身の音声とともに琉球大学附属図書館ホームページ上で「奄美方言音声データベース」として公開されている。

『八重山語彙』宮良當壯著（1930）、東洋文庫

戦前に刊行された沖縄県八重山諸島の方言辞典。著者は沖縄県石垣市大川出身。「八重山語総説」、方言語彙を五十音順に配列した「甲編」、標準語の逆引索引の「乙編」の3部からなる。「八重山語総説」は、序説、発音、国語との音韻比較、語法、文例の四節で構成。国際音声記号を用いた精密な記述がなされ、語法の節では名詞、代名詞、数詞、動詞、助動詞、形容詞、副詞、助詞、接続詞、感動詞の各品詞について例文をあげて記述している。60の例文を石垣島、竹富島、小浜島、鳩間島、黒島、新城島、波照間島、与那国島のそれぞれの方言に訳し仮名表記と音声記号によって示している。「甲編」の方言語彙16500語のうち、旧石垣町10400語、竹富島1900語、鳩間島1800語、小浜島1000語、新城島1000語、黒島900語、波照間島900語の方言語彙が収められている。第一書房から出版された『宮良當壯全集』の第八巻甲編（1980年）・同乙編（1981年）に再録されている。

『竹富方言辞典』前新透著、波照間永吉・高嶺方祐・入里照男編著（2011）南山社

八重山郡竹富島の約17700の方言語彙が掲載された方言辞典である。民族誌的な記述が多く、既に行われなくなった生業や風俗に関する語彙が多く含まれており、消滅危機言語の語彙の記録保存という観点から優れている。見出し語が独自の工夫のなされたかな文字と音声記号によって表記されている。見出し語ごとにアクセントも記されている。用例が豊富に記載されている。辞典を利用して竹富島方言を学ぼうとするものの理解を助けるうえで貴重である。仮名表記法を工夫して、一般読者の理解を容易にしている。標準語引き索引があり、読者の使用の便宜をはかっている。

『与論方言辞典』菊千代・高橋俊三編著（2005）武蔵野書院

本書には与論島麦屋東地区方言の語彙が15700語掲載されている。文化誌的・民俗誌的な記述がおおく、事典的な性格をもっている。とくに、漁業関係、植物関係、民俗関係の語彙の記述は優れている。方言語形の発音をあらわす仮名表記法を工夫して、一般読者の理解を容易にし、方言語形のただしい継承をたすけている。アクセント記号が全項目に記されている。標準語引き索引があり、読者の使用の便宜をはかっている。

『伊是名方言辞典』伊是名方言辞典編集委員会編（2004）伊是名村教育委員会

本書には伊是名島4集落（諸見、仲田、伊是名、勢理客）の方言語彙が約19000語掲載されている。方言語形の発音をあらわす仮名表記法を工夫して、一般読者の理解を容易にしている。アクセント記号が全項目に記されている。標準語引き索引があり、読者の使用の便宜をはかっている。索引編別冊の巻末に伊是名方言の発音、文法に関するやや詳しい解説があつて、伊是名方言の特徴をしる上での入門的な役割を果たしている。

『琉球語辞典』半田一郎編著（1999）大学書林

首里方言12000語を中心に、与那国、波照間、西表、竹富、石垣、多良間、伊良部、大神、宮古、今帰仁、徳之島、大島、喜界の方言から200項目の基礎語彙を掲載。戦後のアメリカ統治時代にうまれた新しい方言やマンゴー、マングースなどの新語も取り上げている。諺や琉歌、組踊などから用例をふんだんにとりいれられている。琉和、和琉の2部立てになっていて、読者の使用の便宜をはかっている。

『石垣方言辞典』宮城信勇（2003）沖縄タイムス社

本書には著者の故郷の八重山石垣市新川方言が訳1万8千語収録されている。別巻の標準語索引と文法編との総頁数は千六百頁。用例が豊富なので郷土のことばを習ぶ若い人たちにも活用しやすくなっている。植物名には和名だけでなく、利用法、遊び方、民俗などが記されている。読んで楽しいし、勉強になる。

“Okinawan English Wordbook” Mitsugu Sakihara（2006）University of Hawaii Press

本書は、那覇方言の単語を全て英語で解説した沖英辞典。英語から検索する英沖索引がついている。著者崎原貢の出身地である那覇市の約9800語の基本的な単語が精選されたものである。英語による序文、解説、凡例、参考文献がある。日本語を知らない沖縄系二世、三世の方々が沖縄方言を学ぶものとして優れている。英語を介して外からみると沖縄がこんな風にみえるのかと、新鮮な発見もある。

『沖縄古語大辞典』沖縄古語大辞典編集委員会編（1995）角川書店

おもろさうし、組踊、琉歌、各地の古歌謡の古語を引くための琉球語の古語辞典。

『沖縄方言辞典 那覇方言を中心に』内間直仁・野原三義編著（2006）、研究社。

編著者の野原三義の方言語彙を約1万語収録したコンサイス辞典。ハンディで3000円代の手ごろな値段の辞典。見出し語をかな表記にしている、一般読者の利便性をはかっている。簡単な標準語引き索引が巻末にある。

『伊江島方言辞典』生塩睦子編著（1999）

『医学沖縄方言辞典』稲福盛輝（1992）

『久高島方言基礎語彙辞典 琉球の方言 特別号』福治友邦・加治工真市（2012）法政大学沖縄文化研究所

### 3. 2. 語彙集

語彙集もさまざま刊行されている。ほとんどが自費出版されたもので、品切れ、絶版、もしくは入手が困難なものがおおい。

#### 3. 2. 1 八丈島

『消えていく島言葉 八丈語の継承と存続を願って』山田平右エ門（2010）郁朋社

本書には約 1300 語の八丈語（八丈島5集落、八丈小島、青ヶ島）が収録されている。前半は意味分野別の配列で、後半は五十音順の配列で方言が掲載されている。なお付録で CD がついている。

#### 3. 2. 2 奄美諸島

『喜界島方言集』岩倉市郎（1941）

『喜界島の方言集』森豊良（1979）

『シマの方言 加計呂麻島を中心にして』田中徳夫・田中安平（1988）黙遙社

『与路島に残るおやふちゅぬ言葉 タツィグツと島クツバ』奥崎一（1987）

『奄美方言』直江光良（1973）徳之島伊仙町阿三方言の語彙集

『島のことば 沖永良部島』甲東哲（1987）三笠出版

『分類沖永良部島民俗語彙集』甲東哲（2011）南方新社

本書は甲東哲（1987）『島のことば 沖永良部島』の増補版で、沖永良部島和泊町の方言が意味分類ごとに掲載された語彙集。

『方言単語集 いらぶぬ くとぅば』永吉敏人（2005）

#### 3. 2. 3 沖縄諸島

『心に残るしまぐち』ラジオ沖縄・あなたのまちの郵便局（1997）

ラジオ沖縄、琉球新報社共催で募集したハガキのなかから選定された 400 語を収録した語彙集。1 語 1 語にそのことばをめぐる思いが記されている。

『わーけーしまむに 大宜味村根路銘』高江洲重光（2008）

『シマフットゥバ 大宜味村田嘉里の方言』宮城信八（2000）

『生活分類上から見た津波のシマ言葉』前田勇善（2004）大宜味村津波区

『本部町字具志堅の方言』仲里長和（2002）

『金武ことば』岡村トヨ（1994）

『シマくとうば 旧石川市山城（ヤマグシク）』山城正夫（2009）

『いふあくとうば 沖縄県石川市伊波方言集』伊波信光（1993）

旧石川市伊波出身のさんが書きためた伊波方言 3700 語の語彙集。石川市教育委員会発行。

『西原町史 西原の言語』西原町史編集委員会編（2010）

西原町全体の方言語彙が意味分野別に配列された語彙集。絵や写真をふんだんに使用し、若い人にも楽しく読める工夫がなされている。

『せせらぎ 沖縄市登川の方言辞典』平田嗣永（1995）

『しまくとうば 与那城村宮城島の方言』あかちち会編（1981）

『しまくとうば辞典 久米島町儀間の言葉』波平憲一朗（2004）

### 3.2.4 宮古諸島

『城辺町スマフツ辞典（上巻）』城辺町教育委員会編（2003）

『宮古スマフツ辞典』与那覇ユヌス（2003）

『宮古方言散歩路 平良的表現』奥平博尚（1996）新報出版

『みやこのことば 野原集落（旧上野村）の方言を中心として』本村満・本村洋子、（2011）  
標準語引きの野原方言辞典。

『宮古群島語辞典』下地一秋（1979）

### 3.2.5 八重山諸島

『ふるさとの味 しまくとば 小浜中学校創立 60 周年記念誌』記念誌編集委員会編（2010）

『西表方言集』前大用安（2002）

『竹富島方言集』辻弘（1991）

『与那国ことば辞典』池間苗（1998）

『与那国語辞典』池間苗（2003）

本書は『与那国ことば辞典』の姉妹編とでもいうべき 1 冊で、本書が標準語引きの与那国方言辞典なのに対して、『与那国ことば辞典』は与那国方言引きの辞典。いずれも与那国島出身の池間苗（大正 8 年生）が故郷の方言を収集してまとめたもの。

### 3.3. 方言エッセイ集、他

『琉球語の美しさ』仲宗根政善（1995）ロマン書房

『沖縄今帰仁方言辞典』の著者の仲宗根政善が辞典に盛り込めなかった故郷のことばに対する思いを綴ったエッセイ集。

『うちなーぐちフィーリング』儀間進（1987）沖縄タイムス社

『続うちなーぐちフィーリング』儀間進（1996）沖縄タイムス社

『語てい遊ばなシマクトゥバ 続々うちなーぐちフィーリング』儀間進（2000）沖縄タイムス社

『うちなーぐちフィーリングパート4』儀間進（2005）沖縄タイムス社

儀間進著の 4 冊は、沖縄タイムスに連載された方言についてのエッセイ集。

『奄美方言 カナ文字での書き方』岡村隆博（2007）南方新社

既存の辞典には和琉の索引はあったが、掲載されている単語がひけなかったり、項目数が極端に少なかったりした。今後は、若い世代への継承と普及を主眼にした和琉辞典が必要だろう。



#### 4. 文法書

消滅危機方言の存続が危ぶまれ、わかい世代への切れ目ない継承をかंगाえたとき、急を要するのが文法研究であり、文法書の刊行であることはまちがいない。たとえ、ことばの断片（単語）をいくら収集しておおきな辞典を刊行しても、文法書がないか、あってもまったく不十分でことば（単語）のつかい方がわからなければ、博物館や民俗資料館などに説明なしに陳列されただけの民具にひとしい。

たとえば、百年後の若者が方言で文学作品や映画の脚本を書きたい、外国の文学作品を方言に翻訳したり外国映画の名作の方言吹替え版を製作したりしたいと決意したとしよう。若者は、たくさんの言語資料や言語作品を読んで方言で表現する力をたくわえ、辞典をひいて必要な単語を探し出ししながら意味を確認し、文法書をめくってこれとおもう形式をみつけて文を綴っていく。創作意欲に満ちた若者が大言語とおなじように言語作品を創作したり翻訳したりすることを可能にするには、文法体系全体を生きた形で記述した文法書が必要である。文法書の記述の成果が継承される方言の質を左右する。

消滅危機方言のばあい、当該方言母語話者のいない状況で十分な言語運用能力を身につけさせ、当該方言の継承を可能にする記述文法でなければならないとするなら、一般の人にも理解できるものである必要がある。非母語話者の教師が児童生徒に方言を指導できるものであることがのぞまれるのである。現在の検定教科書の文法論のように児童、生徒の読み書き能力をたかめるのに役にたたないものではなく、方言の運用能力をたかめるための教育文法が必要である。

消滅危機方言の文法研究がなされていないわけではない。しかし、文法研究は、質的にも量的（地点数）にもおおきくおこなわれている。複数の地点の方言辞典が発刊されているのにくらべて、専門家向けでない一般向けの文法書はいまだ発刊されていない。

消滅危機方言の記述文法と日本語の記述文法とが連携していること、消滅危機方言をふくむ日本語の記述文法の成果が学校教育に持ち込めるようになることが消滅危機方言の継承にとって重要である。

『奄美方言、その音韻と文法』寺師忠夫（1985）根元書房

本書は奄美大島名瀬方言の発音と名詞、動詞、形容詞、副詞、接続詞、感動詞などのすべての品詞の文法の全体について詳しく記述したものである。用例もおおく、説明も適切で一般の人にもわかりやすい。

『名護市史本編 10 言語 やんばるの方言』名護市史編さん委員会（2006）名護市教育委員会

本書の第1章の「山原方言の概観」「山原方言の動詞」「山原方言の名詞」は、動詞の形態論と後接する助詞をふくむ名詞の文法的な特徴について一般向けに分かりやすく概説している。

『八丈方言動詞の基礎研究』金田章宏（2001）笠間書院

本書は必ずしも一般向けの文法書ではないが、八丈方言の概説と動詞に関する文法事項を総合的に記述したすぐれた文法書。

『言語学大辞典 4 巻』亀井孝・河野六郎・千野栄一編著（1992）三省堂

本書に収録された上村幸雄「琉球列島の言語（総説）」、津波古敏子「沖縄中南部方言」、島袋幸子「沖縄北部方言」、かりまたしげひさ「宮古方言」、かりまたしげひさ「八重山方言」、高橋俊三「与那国方

言」、高橋俊三「古典琉球語」、同じく『言語学大辞典 5 巻補遺・言語名索引編』に収録された須山名保子「奄美方言」は、名詞、動詞、形容詞、その他の品詞など文法全体を概説している。

『与論の言葉で話そう (1)』菊秀史 (2006) 与論民俗村

『与論の言葉で話そう (2)』菊秀史 (2007) 与論民俗村

『与論の言葉で話そう (3)』菊秀史 (2009) 与論民俗村

上記の菊秀史 (2006) ～ (2009) の 3 冊は与論方言の習得のための方言概説と表現、文法事項が平易に記された一般向けの書物。

『沖縄方言の入門 たのしいウチナーグチ CD 付』西岡敏・仲原譲 (2000)、白水社

『伝統文化の神髄 美しい沖縄の方言①』船津好明著・中松竹雄監修 (1988) 技興社

#### 4. 音声資料

音声 (CD、カセットテープ) 付のテキストとしてつぎのものがある。

『全国談話データベース 日本のふるさとことば集成第20巻 鹿児島・沖縄』国立国語研究所編 (2008)

1978年～1982年の期間に文化庁委託事業で実施された方言談話資料収集でえられた談話テキストのうち今帰仁方言と宮古島市平良方言の文字化テキスト。カセットテープが付録についている。

『全国方言資料第10巻琉球編Ⅰ』日本放送協会 (1972) カセットテープ付。

『全国方言資料第11巻琉球編Ⅱ』日本放送協会 (1972) カセットテープ付。

##### 4. 1. 百見は一聞にしかず 音声DBの意義

国際音声記号は音声の再現性の点ですぐれていて、かな文字では書きあらわせないような特異な音声を豊かにもつ琉球語にとって国際音声記号で記述し、資料を記録・保存することはとても重要であり、これまでもおおくの琉球語研究者が国際音声記号を使用してきた。しかし、いかに正確に国際音声記号で記述しても、実際の音声にはかなわない。それは当然のことではあるが、実際の音声を多くの人が利用できるメディアで、しかも大量に提供するのには困難であった。

ところが、近年の IT 技術の進歩によって大量の音声データをちいさなメディアに高音質で記憶させることが可能になっただけでなく、それを容易にとりだして利用することもできるようになった。さらに、文字情報と音声をリンクさせ、インターネットで公開すれば、いつでもどこからでも音声付の辞書をひくことが可能になったのである。話者が減少した、とりわけ文字に書きあらわしにくい音声を有する言語のばあい、音声とともに DB 化して公開するのは、危機言語の記録・保存と継承・学習のための方法としてすぐれている。国際音声記号をしらない一般の利用者を対象にすればその効果はとてもおおきい。音声資料にとって「百見は一聞にしかず」ともいえるのであるから。

伝統的な琉球語を話せる方々が高齢化し、各地の伝統的な方言が消え去ろうとするなかで、文字情報と音声情報を同時に記録、保存し、かつ一般に公開する方言データベース (DB) は、琉球諸語をはじめとする消滅の危機に瀕した世界中のマイノリティーの言語を記録・保存する方法としても、これらの言語を若い世代がまなぶ方法としてもすぐれたものである。

琉球大学附属図書館の HP 上にインターネットを介して一般に公開されている「琉球語音声データベース」がある。これには「首里那覇方言音声データベース」「今帰仁方言音声データベース」「奄美方言音声データベース」「宮古方言音声データベース」のよつつがあり、いずれも 1 万 5 千語以上の単語を男女の音声付きで検索できる電子辞書である。これら音声データベースは、先にのべたように危機言語の記録保存の手段としても、言語の継承と学習の手段としてもすぐれたもので、いつでも、どこからでも、だれにでも利用できるようになっている。

琉球語音声DBは、琉球語に興味をもつ一般の人々に、たのしく、興味をもって、気軽に利用してもらうことを目的に作成された。かな文字では書きあらわせない音声をもつ奄美方言、今帰仁方言、宮古方言などを国際音声記号のよめない一般の利用者に提供している。『沖縄方言辞典』も『沖縄今帰仁方言辞典』も『奄美方言分類辞典』も一般の方が購入するには高価であり、なかなか手にすることができない。いつでもどこからでもだれにでも利用できる方法で、しかも、言語をまなぶときに必要な辞書を音声付で公開しているのも琉球語音声DBの長所であろう。

よつつのDBは、方言語形からの検索、日本語標準語語形からの検索、名詞、動詞、形容詞、副詞、感動詞といった「品詞別検索」、動物、植物、地名、料理、遊戯といった「意味分野別」の検索が可能である。奄美方言DBは、分類辞典であるため、収録されたすべての単語を意味分野別に検索することが可能である。

#### 4. 2. 今帰仁方言音声 DB

今帰仁方言 DB は、『沖縄今帰仁方言辞典』の全項目（約 1 万 5 千語）とその用例を録音した音声をデータベース化し、それを『沖縄今帰仁方言辞典』の文字資料とリンクして、公開している。

今帰仁方言は、古代日本語ハ行子音 p 音に対応する p 音を保持し、破裂音、破擦音、鼻音、半母音に喉頭／非喉頭の対立があつて、首里那覇の方言を中心にする中南部方言と大きく対立する方言である。

#### 4. 3. 首里那覇方言 DB

沖縄言語研究センターが那覇市教育委員会委託事業で 1988 年から『沖縄方言辞典』の全項目を見直し、確認したうえで国際音声記号のよめない一般利用者むけにかな表記による語形表示をあらたに追加した。また、隣接する那覇方言との異同の確認と、民俗語彙を中心にした那覇方言の追加を行ない、統合させた。首里那覇方言 DB では、首里出身の久手堅、仲里のお二人に新たに用例を作ってもらい、二人の音声を録音した。また、那覇方言は崎間麗進氏の音声を録音した。

#### 4. 4. 奄美方言DB

奄美方言DBは、『奄美方言分類辞典』上巻・下巻の全項目の見出し語と用例を著者である長田須磨氏自身が録音した方言の音声とをリンクして公開しているものである。奄美方言は、標準語とおなじieaouの5個の母音のほか、2種類の中舌母音を有し母音の長短を区別する母音体系で、喉頭音化した子音と喉頭音化しない子音が対立する方言である。

#### 4. 5. 宮古方言DB

宮古方言DBは、柴田武（東京大学名誉教授）が1970年から5年間沖縄県の宮古島でおこなった方言調査のノート、狩俣繁久が柴田の許可を得てDB化し、平良市下里の方言の音声をリンクして公開しているものである。柴田武氏の調査に協力した立津元康氏が平良市下里の出身であったため、録音も平良市下里出身の下地明増、文夫妻の発音をDATに録音した。

## 5. ことわざ・琉歌・民話

ことわざ、琉歌、民話は、方言および表現方法をまなぶためのテキストとして利用できるだけでなく、口承文芸として琉球文学をまなぶためのテキストとしても最適な教材である。『新編 沖縄の文学』は、琉球文学を高校生に指導するための副読本として刊行されたもので、あちこちの高等学校で利用されているが、かならずしも十分に浸透して利用されているとはいえない。教師用手引き、指導案集などの刊行がのぞまれる。

『新編 沖縄の文学』波照間永吉監修、沖縄県教育文化資料センター『新編 沖縄の文学』編集委員会

### 5.1 ことわざ

ことわざは、みじかい表現のなかにそれがうまれて、使用された時代の自然や社会、人間に対する人々の感情や評価が反映されている。ことわざは地域社会の共通の知的財産であり、若者や子どもたちの教育の手段として継承されてきた。ことわざは、短歌や俳句とならぶほどの、なかには、俳句よりもみじかいものもある不定型の言語作品である。おぼえやすく唱えやすいリズムをもち、簡潔でわかりやすいことから、生活のさまざまな場面で行動の指針としてあたえられるものもあれば、先人たちの蓄積してきた知識としてあたえられるものもある。奄美、沖縄、宮古、八重山の四つの地域に約 3500 首のことわざがある。これらのことわざから現代でも通用するものを選び出し、それぞれの地域の方言に直して、児童生徒にもわかるように解説をつけて、道徳の時間の教材にすることができる。標語にして学校のなかに張り出したり、カレンダーにして見えるところに下げておいたりして、児童生徒に方言の表現に慣れ親しんでもらうのもよい。

- ・「いんちゃーぼー むっち ながうーい すん。（短い棒を持って長迫いする。）

事をなすにあたって、十分な準備をしなければ、時間がかかるだけでなく、なしとげられない。

十分な根拠や力がないのに、しつこく追及したり批判したりする人に対して揶揄するときにも用いる。

- ・「くびぬ んじゅけー、じゅーん んじゅちゅん。」（首が動けば、尾も動く。）

首（こうべ） 頭と尾はひとつのものであり、先頭にたって行動するべき者が行動しなければ、他のものも行動しない。集団の行動の良し悪しはリーダーの行動によって決まることがある。

- ・「くえーぶーぬ みーぬ めーから あっちん わからん。（食果報が目の前を歩いても分らない。）

クエーブーは「食にありつく果報」で、ここでは「幸運」の意味で使用されている。努力しながらチャンスをまっていれば、幸運にめぐり合うチャンスが訪れたとき、見逃すことはない。しかし、な

すべきことをしないで毎日を送っていると、幸運を手にするチャンスが目の前に訪れても気がつかず見逃してしまう。

- ・「ポーティガタナマイ トウギチカー タツドウ ッス。」(鈍った包丁も砥いだら鋭く なる。)  
切れなくなったなまくら包丁も、砥いだら切れるようになる。切れるようになるまで砥ぎなさい。  
才能が無いと嘆くより努力しないさい。そうすればできるようになる。逆に、どんなに才能があっても、努力しなければ平凡な人になる。才能とは努力しつづけることのできる力である。

『石崎公曹の奄美のことわざ』 かりまたしげひさ・上村幸雄編 (2002)

本書は、奄美大島龍郷町瀬留出身の石崎公曹氏が収集したことわざ集で、1078 首のことわざが掲載されている。音声記号とかな表記で方言が記されている。

『沖縄ことわざ事典』 仲井真元楷 (1971) 月刊沖縄社

本書には 788 首の那覇方言のことわざが掲載されている。

『沖縄宮古ことわざ全集』 吉村玄得 (1974)

本書には宮古島市平良字西里方言による宮古島のことわざ 564 首が収録されている。

『八重山ことわざ事典』 宮城信勇 (1977) 沖縄タイム社

本書は、『石垣方言辞典』の著者の宮城信勇が収集したことわざが収録されている。石垣市新川方言による 1057 首がある。

『黄金言葉 ウチナーンチュが伝えることわざ 200 編』 仲村優子 (1997) 琉球新報社

『沖縄ことわざの窓』 儀間進 (2011) 沖縄文化社

『まんがで学ぶおきなわことわざ事典』 崎間麗進編著・平敷善憲絵 (1987) 沖縄出版

## 5.2 琉歌

琉歌は、8 音 8 音 8 音 6 音の 4 句からなる短歌や俳句のような短詩形の韻文学である。いまでも沖縄タイムス、琉球新報の 2 紙に投稿欄があって盛んに創作されている。奄美大島、徳之島では八月踊歌として琉歌形式の歌が盛んにうたわれていて、各地に歌集が発行されている。代表的なものを 1 冊あげる。

『標音評釈琉歌全集』 島袋盛敏・翁長俊郎 (1968、武蔵野書院)

本書は、琉球王国時代に詠まれた琉歌を 3000 首収録している。漢字かな混じりのテキストとローマ字とカタカナによる読みが記され、解説(評釈)が施されていて、一般の読者にも利用しやすい。

## 5.3 民話

『読谷村民話資料集 1』～『読谷村民話資料集 15』 読谷村教育委員会歴史民俗資料館編

読谷村全 15 集落の民話の方言語りと標準語訳を収録した民話集。

『具志川市史第 3 巻民話編上伝説』 具志川市史編さん委員会編 (1997)

『具志川市史第 3 巻民話編下昔話』 具志川市史編さん委員会編 (2000)

上記 2 書は旧具志川市内全 26 集落に伝承されていた民話の方言語りと標準語訳を収録した民話集。なお、この民話集をもとに作成された紙芝居がある。



その他多くの民話集があるが、本稿では割愛する。民話は幼稚園児、小学校低学年の生徒に方言に慣れ親しんでもらう教材として有効なものである。しかし、民話集の多くは、実際に方言でかたられたものを文字化したもので、教室等で児童生徒のための教材として利用するには再話したり、あらたに方言で書き直したりする必要があるだろう。絵本あるいは紙芝居につくりかえる必要もある。

#### 5.4 童謡、民謡

童謡・わらべ歌や民謡は、メロディーやリズムとともに歌詞をおぼえて方言をまなぶことのできる良質の素材である。とくに児童生徒の耳に慣れ親しんだ曲ほど効果はおおきい。児童生徒は歌詞の意味が不明であったりおぼろげな理解であったりしても歌うことはできる。しかし、歌詞の意味を解説して内容を理解させたうえで歌うように指導することが後々の方言指導の基礎となるので、ちゃんと歌詞の意味を指導するのがよい。『島唄から学ぶ奄美のことば』かごしま地域文化創造事業奄美地区実行委員会編（2010）に掲載されているような児童生徒がすでに歌えるようになっている標準語の歌詞を方言訳した曲を用意しておくのもよい。メロディーやリズムをあらたにまなぶ必要がなく、歌詞の意味も理解できるものなので、方言をまなぶうえで大きな効果がえられるであろう。

童謡や民謡に関する書籍はおおい。歌詞付の CD も数おおくだされている。以下に代表的なものと同網羅的なものをあげる。

『沖縄のわらべうた』高江洲義寛（1964）沖縄文化社

『日本民謡大観（沖縄奄美）奄美諸島篇』日本放送協会編（1993）日本放送出版協会

本書には奄美諸島の民謡 400 曲の歌詞と音符の掲載されている。

『日本民謡大観（沖縄奄美）沖縄諸島篇』日本放送協会編（1991）日本放送出版協会

本書には沖縄諸島の民謡 407 曲の歌詞と音符の掲載されている。

『日本民謡大観（沖縄奄美）宮古諸島篇』日本放送協会編（1990）日本放送出版協会

本書には宮古諸島の民謡 300 曲の歌詞と音符の掲載されている。

『日本民謡大観（沖縄奄美）八重山諸島篇』日本放送協会編（1989）日本放送出版協会

本書には八重山諸島の民謡 387 曲の歌詞と音符の掲載されている。

『南島歌謡大成Ⅲ奄美篇』外間守善・田畑英勝編（1982）角川書店

『南島歌謡大成Ⅰ沖縄篇上』外間守善・玉城政美編（1980）角川書店

『南島歌謡大成Ⅱ沖縄篇下』外間守善・比嘉実・仲程昌徳編（1980）角川書店

『南島歌謡大成Ⅳ八重山篇』外間守善・宮良安彦編（1979）角川書店

『南島歌謡大成Ⅲ宮古篇』外間守善・新里幸昭編（1978）角川書店

沖縄県における言語危機と言語意識  
アンケート調査の結果から

石原昌英

## 沖縄県における言語危機と言語意識：アンケート調査の結果から<sup>1</sup>

石原昌英

### 1. はじめに

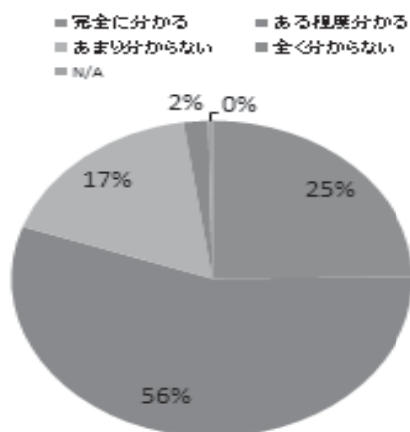
筆者は、琉球大学から研究資金の補助を受けた研究グループの研究分担者として<sup>2</sup>、2010年に、沖縄県において三線・琉球舞踊等の琉球芸能を教えたり、習ったりしている実演家を対象に、しまくとうばに関する言語意識、言語使用についてアンケート調査を実施した。しかし、回答者の中には、実演家の家族や友人・知人もいた。その結果、回答した実演家の数は500名で、実演家ではない者の数は105名で、回答者の総数は605名であった。琉球芸能の実演家は頻繁にしまくとうばに接していると思われるので、言語意識や言語使用については、一般の県民よりは肯定的な回答の割合が高いと思われる。以下に、アンケート調査の結果について述べる。

### 2. しまくとうばの言語能力について

まず、しまくとうばを聞いてどの程度理解できるかを聞いた。

あなたはしまくとうばを聞いて、どの程度わかりますか。

全回答者604名



10・20代の回答者74名

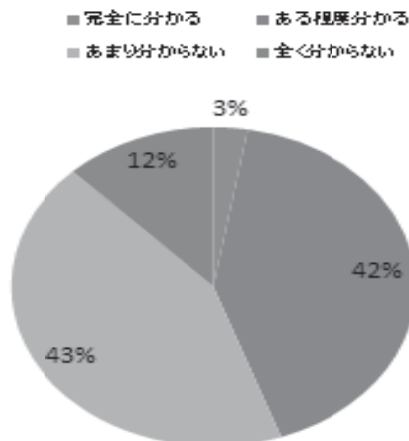


図1：しまくとうばの聴解能力

<sup>1</sup>本章は2013年3月9日に琉球大学で開催された国際シンポジウム「島嶼地域における言語復興」において筆者が発表した論文から抜粋し、データの追記を行ったものである。

<sup>2</sup>琉球大学の平成22年度中期計画達成プロジェクト経費（戦略的研究推進経費）として採択されて「オキナワン・ソフトパワーの国際研究 アイデンティティとソーシャルキャピタル分析による平和への展望」のプロジェクトの一環として、琉球諸語の維持継承に関する調査を実施した。

全回答者を見ると、約80%が「完全に分かる」または「ある程度分かる」と答えている。一方、10・20代の回答者を見ると、45%が「完全に分かる」または「ある程度分かる」と答えていて、「全く分からない」「あまり分からない」と否定的な回答をする者が50%を越えている。ここから若い世代の聴解能力が落ちてきていることが分かる<sup>3</sup>。

次に、しまくとうばをどの程度話せるのかを聞いた。

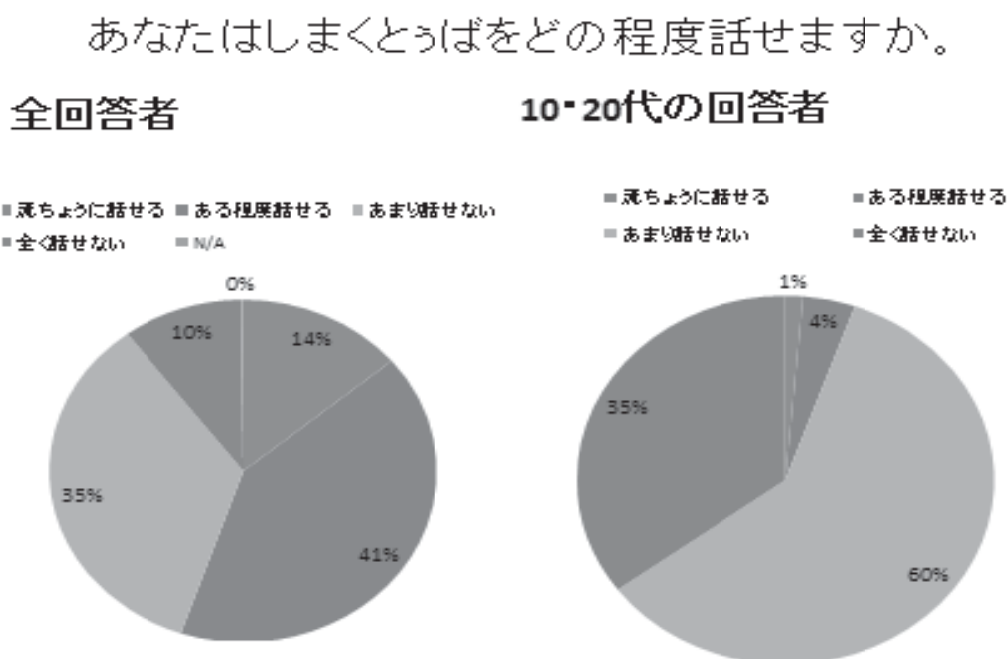


図2：しまくとうばでの会話能力

全回答者を見ると、55%が「流ちょうに話せる」または「ある程度話せる」と答えている。一方、10・20代の回答者を見ると、「流ちょうに話せる」または「ある程度話せる」と答えたのはわずか5%で、95%が「全く話せない」「あまり話せない」と否定的な回答をしている。琉球新報社が2011年に実施した調査でも、20代の回答者で「方言を聞くことも話すこともできる」と答えたのは168名の回答者の約10%であった（琉球新報、2012）<sup>4</sup>。この二つの調査結果からしまくとうばが若い世代に継承されていないことが分かる。また、二つの調査結果を比較すると、琉球大学の研究プロジェクトで実施した調査の結果がより深刻ではないかと思われる。琉球芸能実演家はしまくとうばに接する時間と量が一般の人よりも

<sup>3</sup>上記のように、実演家ではない回答者が105名もいるので、このことが否定的な回答が多いことにつながっている可能性がある。実演家だけを対象とするような分類をすれば、結果は異なっていたかもしれない。

<sup>4</sup>琉球新報（2012）『沖縄県民意識調査報告 2011』琉球新報社。

多いと推測されるが、若い世代の琉球芸能実演家の会話能力は一般の人達より低いのではないかということが示唆されている。

### 3. しまくとぅばの使用について

次に、一日の会話でしまくとぅばで話す割合は、どの程度あるのか聞いた。

あなたはしまくとぅばを一日にどの程度話しますか。

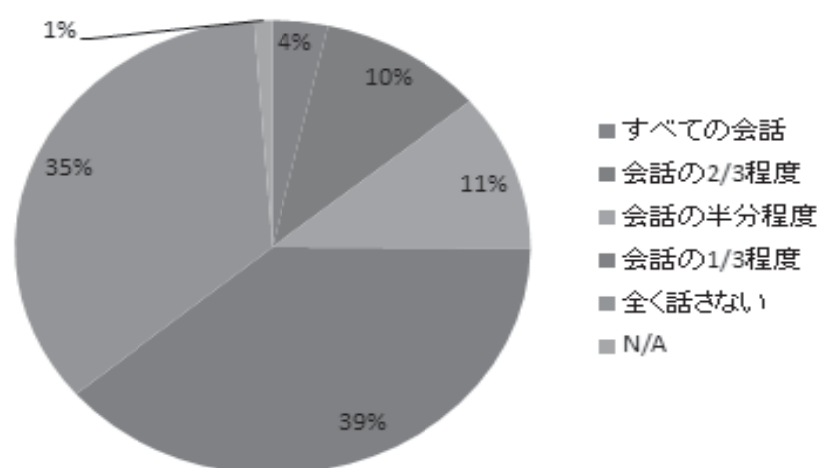


図3：しまくとぅばの使用割合

一日中しまくとぅばで話していると回答した者は4%で、会話の2／3程度をしまくとぅばで話していると回答した者が10%、会話の半分程度をしまくとぅばで話していると回答した者が11%であった。残りは、会話の1／3以下で、全く話さないとした者が35%であった。しまくとぅばを全く話さない者が、全く話さないと回答したのは当然であるが、話せる者もあまり話さない（1／3程度）か全く話さないと回答したことが推測される。自分がしまくとぅばを話せたとしても、話し相手が分からないのであれば、会話に用いることばは、しまくとぅばではなくお互いに理解できる日本語かウチナーヤマトゥグチ<sup>5</sup>を使っているのであろう。

### 4. しまくとぅばの保存継承について

次に、子供や孫がいる回答者に、自分の子供や孫がしまくとぅばを話せるようになって欲しいと思っ

<sup>5</sup>日本語と沖縄方言の混成語である。



ているかどうかを聞いた。

自分の子供や孫にしまくとうばを話せるようになってほしいと思いますか。

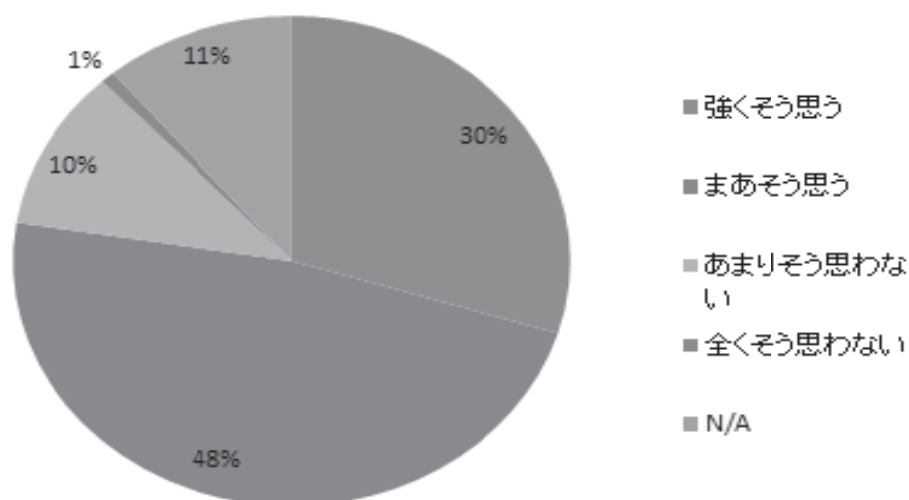


図4：子供や孫のしまくとうば継承に対する意識

回答者の約8割が「強くそう思う」か「まあそう思う」とい肯定的な回答をしている。言い換えると、しまくとうばが子供や孫の世代に継承されてほしいと思っている者が多いのである。なお、琉球新報社が2011年に実施した調査でも、同様な結果がでている（琉球新報、前掲）。

しかし、自分の子供や孫に実際にしまくとうばで話しているかという点、どうもそうではないことが分かる。図5が示すように、子供や孫にしまくとうばでよく話したり、たまに話したりしている者は35%前後で、残りの65%前後が「あまり話さない」か「全く話さない」と回答している。子供のいる世代の回答者は自分自身もしまくとうばが話せないのも、子供に対してしまくとうばで話すことがないことは当然の成り行きではある。しかし、孫のいる世代の回答者が、孫との会話にしまくとうばを使用しないのは、「話してもどうせ分からない」と諦めているのであろう。ことばは、使われないと継承されないもので、父母や祖父母がこどもや孫にしまくとうばで話さないということは、子供や孫は、沖縄県で伝統的に話されてきた土着の言語であるしまくとうばを継承する機会すら与えられていないのである。

あなたは自分の子供に対してしまくとうばで話していますか。

あなたは自分の孫に対してしまくとうばで話していますか。

■ よく話す ■ たまに話す ■ あまり話さない ■ 全く話さない

■ よく話す ■ たまに話す ■ あまり話さない ■ 全く話さない

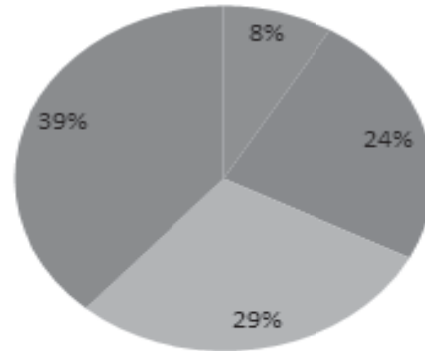
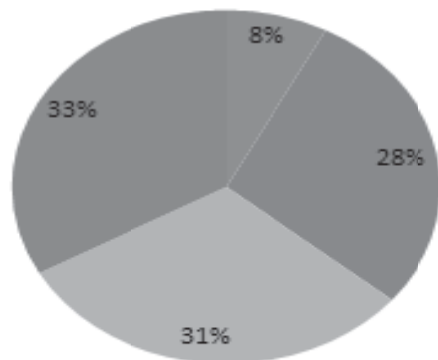


図5：子供や孫に対するしまくとうば使用

次に、しまくとうばが将来維持継承されると思うかを聞いた。

しまくとうばは将来維持継承されると思いますか。

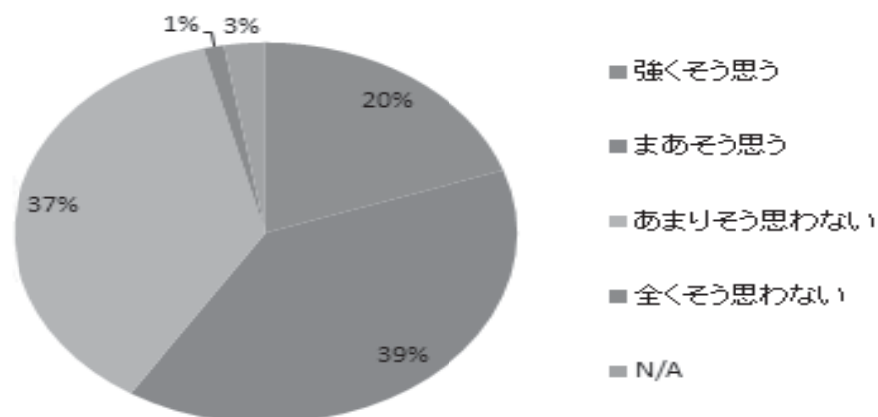


図6：しまくとうばの継承に関する言語意識

「強くそう思う」「まあそう思う」と肯定的な回答をした者は約 60%で、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と否定的な回答をした者が約 40%である。このことから、しまくとうばの維持継承については回答者の多くが楽観視していること示唆されている。しかし、本章でこれまで示した図を分析すると、言語意識と言語使用・言語行動にギャップがあることがわかる。ことばは、使われない限り継承されないのであるが、上記のように、しまくとうばは日常生活において使われることも少ないし、子供達が接する機会もあまりない。つまり、このような現実からすると継承される可能性は非常に低いと言えるのであるが、過半数の回答者は「維持継承」されると考えている。このギャップを埋めるための取組、つまり、子供達がしまくとうばに接する機会を増やすことが必要とされていることがわかる。

#### 5. しまくとうばに関する言語意識について

次に、しまくとうばを話せる人をどう感じるかを聞いたが、複数回答を可とした。

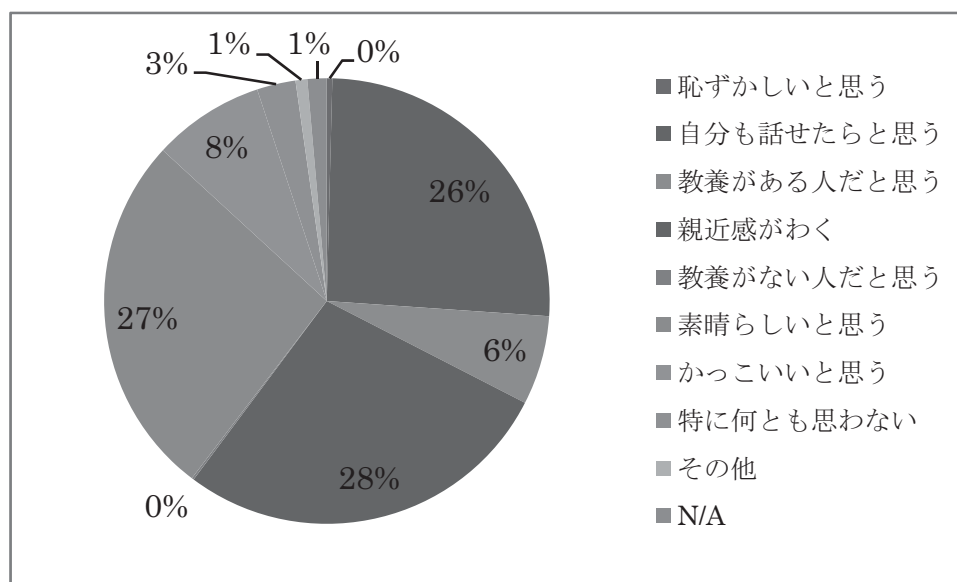


図7 しまくとうばを話せる者に対する意識

「自分も話せたら思う」「親近感がわく」「素晴らしいと思う」と答えた回答者がそれぞれ 25%を超えていて、「恥ずかしいと思う」と答えた回答者は殆どいない。言い換えると、しまくとうばは肯定的に捉えられているのである。1960 年代まで見られた、否定的な言語意識は払拭されているようである。

次に、実演家だけを対象に琉球芸能文化を維持発展させるために、しまくとうばは必要であると思うかどうかを聞いた。

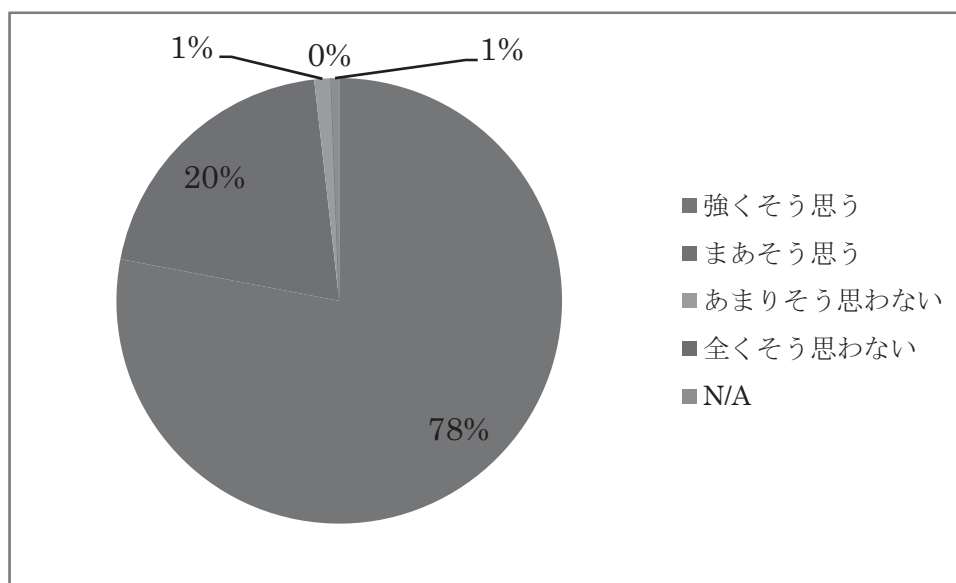


図8：琉球芸能文化の維持・発展としまくとうば

回答した殆どの実演家が「強くそう思う」「まあそう思う」と答えているので、唄・三線、琉球舞踊等の琉球芸能文化の発展にとり、しまくとうばは重要であると認識されている。このことから、実演家は言語と文化の関係を理解していると言える。また図9が示すように、ほぼすべての実演家が琉球の伝統的芸能文化を習ううえで、しまくとうばの意味を理解する必要があると思っている

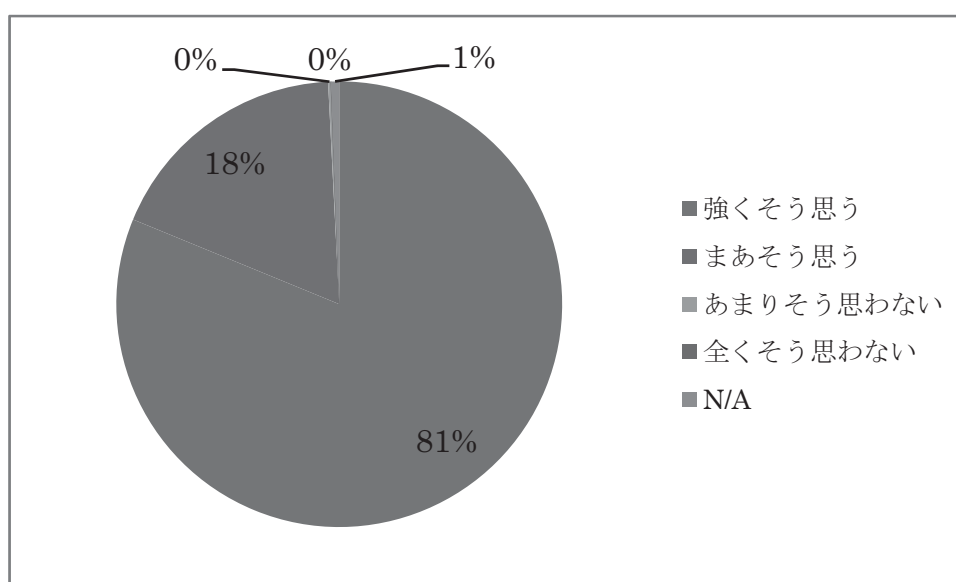


図9：琉球芸能文化の学習におけるしまくとうばの必要性

しかし、図10が示すように、言語と文化の関係に対する意識が実際の言語行動と必ずしも結びついてい

ないと言える。(図1と図2も参照)。質問は「あなたが歌ったり、踊ったり、唱えたり、読んだりしているしまくとうばの意味を理解していますか」であった。言い換えると、民謡・島唄の歌詞の意味を理解しているかということである。完全に理解していると答えた回答者は20%で、15%の実演家は、自分が歌ったり、踊ったりしている民謡・島唄の歌詞の意味をあまり理解していないようである。

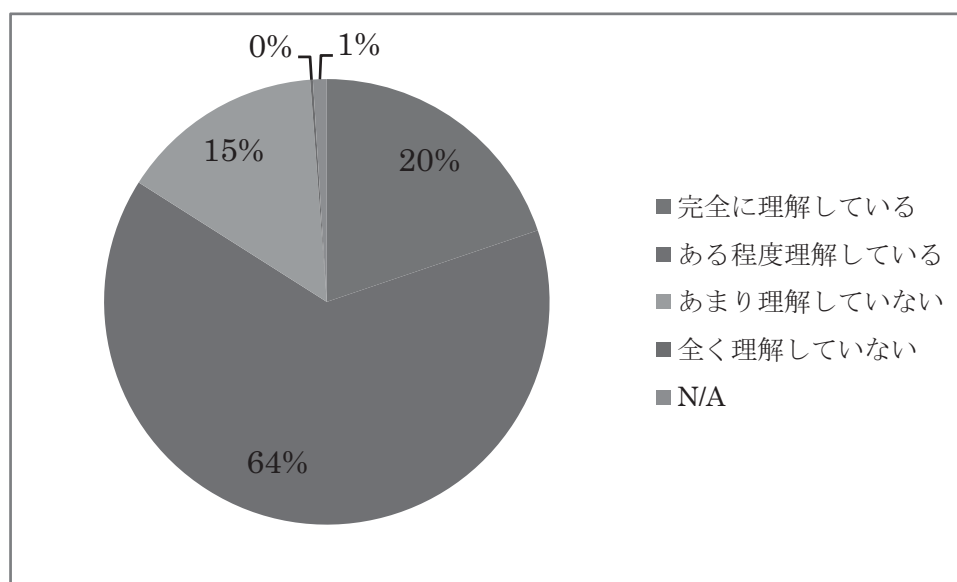


図10：民謡・島唄の歌詞を理解しているか。

しまくとうばを必要と感じているが、現実には歌詞の意味はあまり理解していないということを、肯定的に考えると、しまくとうば学習に対するモチベーションが高いと言える。

## 6. おわりに

これまで述べたことをまとめると、次のようになる。

- 1) 父母や祖父母は子供や孫がしまくとうばを話せるようになってほしいと思っている。
- 2) しまくとうばが話せる者は、日常的にしまくとうばで話してはいない。
- 3) 子供達は、父母や祖父母がしまくとうばが話せないか、しまくとうばで話さないなので、聞いたりしたりする機会に接していない。
- 4) 若者の第1言語は日本語で、しまくとうばは第1言語としても、第2言語としても習得されていない。
- 5) 言い換えると、しまくとうばの世代間継承は断絶している。

このことから、しまくとうばが消滅の危機に瀕していることはまぎれもない事実である。現在、「話せる世代」である60代以上の者が80代・90代になると、状況はかなり深刻になり、何の「対策」も取られ



ないと、消滅は時間の問題となってしまうかもしれない。

文化庁委託事業報告書

---

危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る  
取組等の実態に関する調査研究事業  
(奄美方言・宮古方言・与那国方言)

---

2013年3月

琉球大学

国際沖縄研究所